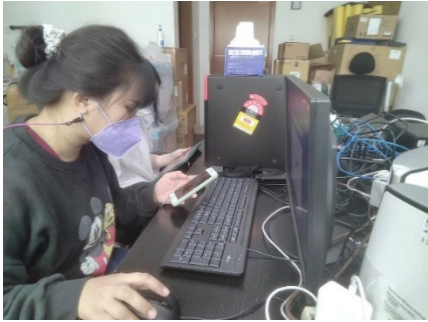





資料 1_遠隔 ICU 通信システムの設置完了報告書

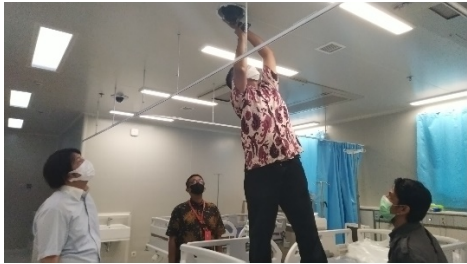

設置完了報告 (インドネシア)

作業題目	インドネシア・インドネシア大学病院、ハサヌディン大学病院向け ICT 機材のリモート設定作業	
実施期間 (日本時間)	2022 年 4 月 4 日～2022 年 5 月 30 日	
作業方法	メッセージアプリや Zoom、リモートデスクトップを利用した遠隔作業	
参加者	現地コンサルタント：松浦様、Ms. Aruni, Ms. Ganis CDC: 高田、弊社エンジニア	
作業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前にアップロードしたイメージデータを現地にてダウンロード 2. IP カメラを設定するための分解作業 3. NAS サーバーを設定するための HDD 装着作業 4. デスクトップ PC に LAN カード装着 5. 各 ICT 機材へ IP アドレスなどの情報を識別するためのテプラ貼付け 6. デスクトップ PC にイメージデータを復元し、各情報の設定作業 7. メインルーター、サテライトルーターの設定作業 8. 無線コンバーターの設定作業 9. NAS サーバーの設定作業 10. IP カメラの設定作業、ファームウェアアップデート 11. HDMI キャプチャーボードの設定作業 12. 設定した各 ICT 機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 <p>リモートで設定するにあたり、遠隔 ICU 通信システム構築のための環境、現地調達機材用のアプリケーション、リモートサポート環境などを記録したイメージデータを事前に共有し、デスクトップ PC に復元させた。</p> <p>また、各 ICT 機材を設定するにあたり LAN ケーブルの接続先の指示や、接続方法の指示など細かい情報をリアルタイムで伝えるためにメッセージアプリ、Zoom を活用した。</p> <p>リモートデスクトップが使える場面では、現地のデスクトップ PC にアクセスし、設定方法を画面越しで伝え、同じ設定を現地にて実施してもらうよう指示した。</p> <p>2022 年 5 月 30 日、インドネシア大学病院用、及びハサヌディン大学病院用の ICT 機材のリモート設定が完了した。</p>	
写真、資料など	 <p>メッセージアプリを見ながら設定作業をしている様子</p>	 <p>各 ICT 機材を接続する作業の様子</p>



設置完了報告 (インドネシア・インドネシア大学病院)

作業題目	インドネシア・インドネシア大学病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年7月5日～2022年7月6日 2022年7月22日 2022年8月22日～2022年8月23日(現地渡航時に病院訪問) 2022年9月2日 2022年9月19日	
作業方法	メッセージアプリや Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr. Dony Mr. Farthur, Mr. Hiroshi, Mr. Iman, Mr, Hud, Mr. Ilham 現地コンサルタント: 松浦様、Ms. Aruni 現地コンサルタント(ICT): Mr. Fetrian CDC: 高田	
作業内容	<ol style="list-style-type: none"> 「インドネシア・インドネシア大学病院、ハサヌディン大学病院向け ICT 機材のリモート設定作業」で設定した ICT 機材を病院へ送付 現地コンサルタントが病院を訪問し、ICT 機材を設置した。その際、メッセージアプリや Zoom を通じ、本邦からサポートを実施 <p>以下、現地渡航時の作業内容となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 現地渡航時に病院を訪問し、設置された ICT 機材の動作確認を実施 カメラスタンドを別室で組立て、IP カメラの取付け作業を実施 組立てたカメラスタンドを ICU に運び、IP カメラの動作確認を実施 <p>以下、帰国後の作業内容となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> IP カメラのオーディオ不具合対応を実施し、不具合を解消 1 台、映像が映らない IP カメラがあったため、原因を突き止めた。原因は一部機材の初期不良と判明したため、機材交換を実施し、不具合を解消 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 <p>2022年9月19日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など		
	ICT 機材の接続確認	カメラスタンドの組立て



設置完了報告 (インドネシア・ハサヌディン大学病院)

作業題目	インドネシア・ハサヌディン大学病院 プレハブ ICU 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年8月3日～2022年8月5日 2022年8月25日～2022年8月26日(現地渡航時に病院訪問)	
作業方法	メッセージアプリや Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr. Amir, Mr. Rahmat, Mr. Asrul, Mr. Anwar 現地コンサルタント: Mr. Fetrian 現地コンサルタント(ICT): 松浦様, Ms. Aruni CDC: 高田	
作業内容	<ol style="list-style-type: none"> 「インドネシア・インドネシア大学病院、ハサヌディン大学病院向け ICT 機材のリモート設定作業」で設定した ICT 機材を病院へ送付 現地コンサルタントが病院にあるプレハブ ICU を訪問し、ICT 機材を設置した。その際、メッセージアプリや Zoom を通じ、本邦からサポートを実施 IP カメラやドキュメントスキャナーなどの映像が正常に映っていることを Zoom を通じて確認 <p>以下、現地渡航時の作業内容となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 天井付けされた IP カメラを一度取外し、オーディオケーブルの接続を実施 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 <p>2022年8月26日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など		
	IP カメラ天井付け作業	病院 ICT 担当者との 遠隔 ICU 通信システム動作確認



設置完了報告 (トンガ・バイオラ病院)

作業題目	トンガ・バイオラ病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
日時 (日本時間)	2022年3月18日, 30日 2022年4月5日 2022年6月17日, 22日, 27日, 29日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr. Walter, Mr. Clifton, Mr. Sione, Mr. Leehard CDC: 中谷、エドリス、野澤	
作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>2022年3月18日、30日と4月5日の作業内容</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 到着した段ボール数と梱包明細書に記載されていた段ボール数の照合 2. 一般 ICU スタッフルームへコミュニケーションシステムの設置 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、8ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、IP カメラ、ドキュメントスキャナー、マイクスピーカー、Web カメラ、HDMI キャプチャーボード) 3. 一般 ICU スタッフルームへモニタリングシステムの設置 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、24ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、マイクスピーカー、HDMI キャプチャーボード) 4. コミュニケーションシステムとモニタリングシステムの動作確認 5. 納品が遅れていた1台の UPS 以外の全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 ● <u>2022年6月17日、22日、27日、29日作業内容</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 6月15日にトンガの ICT 担当者から4台のカメラの映像が表示されない不具合の問い合わせがあり、6月17日と22日にオンライン会議を実施し原因を調べ、カメラの設定に必要な情報が削除されていることが分かった。6月27日に問題を解決し、すべてのカメラが正常に稼働することを病院 ICT 担当者と確認した。 2. 納品が遅れていた1台の UPS が6月22日に病院に到着し、UPS の設置と最終動作確認 3. 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認動作確認 <p>2022年7月29日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p> 	
写真、資料など		
	サーバー室で IP カメラの組み立て	遠隔 ICU 通信システムの UPS 動作確認



設置完了報告 (トンガ・バイオラ病院)

作業題目	トンガ・バイオラ病院 コンテナ ICU 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年9月14日, 15日, 22日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr. Clifton, Mr. Leehard 現地コンサルタント: 大石様 現地コンサルタント(ICT): Mr. George, Mr. Mafileo` CDC: エドリス、野澤	
作業内容	<p>9月中旬にコンテナ ICU の設置が完了したため、一般 ICU からコンテナ ICU へ遠隔 ICU とう s 委託先の移設を実施した。作業内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンテナ ICU スタッフルームへコミュニケーションシステムの設置、動作確認 (デスクトップ PC、NAS サーバー、8 ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、IP カメラ、ドキュメントスキャナー、マイクスピーカー、Web カメラ、HDMI キャプチャーボード) 2. コンテナ ICU スタッフルームモニタリングシステムの設置、動作確認 (デスクトップ PC、NAS サーバー、24 ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、マイクスピーカー、HDMI キャプチャーボード) 3. 各 ICU の IP カメラの天井への取付け確認 4. 各 ICU のナースカウンターへ ICT 機材設置 (①サテライトルーター ②8 ポート PoE スイッチ ③UPS ④マイクスピーカー) 5. 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 <p>2022年9月22日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など		
	IP カメラ天井取付け作業	スタッフルームに設置された遠隔 ICU 通信システム


設置完了報告 (パラオ・ベラウ国立病院)

作業題目	パラオ・ベラウ国立病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年11月29日、1月5日 2022年2月10日～11日、3月1日、10日 2022年7月20日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr.Smau 現地コンサルタント(ICT) : Mr. Sugiyama CDC: 中谷	
作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>2021年11月29日、2022年1月5日の組み立て作業</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院に到着した ICT 機材をトレーニングルームにて組み立てを行った。 2. 1月5日に現地調達機材が到着し全ての ICT 機材の組み立てを行い、動作確認を行った。 3. 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 2022年1月5日、遠隔 ICU 通信システムを設置のうえ動作の確認が完了した。 ● <u>2022年2月10日-11日、3月1日、10日の ICU とアイソレーションユニットへの移設作業</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2月10日からトレーニングルームにて組み立てた動作確認した ICT 機材を ICU へカメラスタンド2台、アイソレーションユニットへ残りのカメラスタンド2台を設置した。ICU とアイソレーションユニットの IP カメラの映像がモニタリングシステム用 PC のサーベイランスステーションクライアントに表示されることを確認した。3月10日に病院 ICT 担当者と動作確認した。 2022年3月10日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。 ● <u>2022年7月20日電子カルテ(Electronic Medical Record:以下「EMR」)接続作業</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院 ICT 担当者が準備した EMR が動作する PC とモニタリングシステム用 PC を HDMI で接続しレントゲン写真、CT 画像、超音波画像が遠隔 ICU 通信システムで確認できるようになった。 	
写真、資料など		
	仮組したデスクトップ PC	仮組したカメラスタンド


設置完了報告 (パラオ・ベラウ国立病院)

作業題目	パラオ・ベラウ国立病院 プレハブ ICU 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年12月9日、12-15日	
作業方法	Zoomを利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr. Smau, Mr. Jonirik 現地コンサルタント(ICT): Mr. Sugiyama CDC: エドリス、野澤	
作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>2022年12月9日の移設作業1</u> 1. 既存 ICU と COVID-19 アイソレーションユニットの IP カメラをプレハブ ICU の ICU ベッドの天井へ設置した。 ● <u>2022年12月12-15日の移設作業2</u> 1. 残りの機材移設を12日から開始した。IPカメラ、マイクスピーカーをICUベッドへ移設し、その他の機材をスタッフステーションへ移設した。デスクトップPCでICUの映像音声を確認できた。それらの映像をZoomで表示できることも確認した。またドキュメントスキャナーの映像がZoomで表示できることも確認した。 2. 全ての機材を接続し、遠隔ICU通信システムとして動作確認した。 <p>2022年12月15日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔ICU通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など		
	ICU ベッド付近天井に設置した IP カメラ	スタッフステーションに設置した 遠隔 ICU 通信システム



設置完了報告 (ケニア・コーストジェネラル病院)

作業題目	ケニア・コーストジェネラル病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年1月11日～12日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr. Abdallah 現地コンサルタント(ICT): Mr.Paul, Mr.Edmond, Mr.Steven, Mr.Tawfiq CDC: 佐々木、中谷	
作業内容	<p>● <u>2022年1月11日-12日の組み立て作業</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院に到着した ICT 機材を COVID-19 アイソレーションユニットにて組み立て設置を行った。 2. IP カメラ、マイクスピーカーがサーベイランスステーションクライアントにて動作することを確認し、それらの映像を Zoom で表示できることも確認した。ドキュメントスキャナーの映像が Zoom で表示できることも確認した。全ての機材組み立てが完了した1月12日に動作確認をした。 3. 全ての機材を組み立て、動作確認を行ったが、実際に COVID-19 アイソレーションユニットに設置できるのはカメラスタンド5台であったため、残りの3台は病院の倉庫へ保管した。 <p>2022年1月12日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など		
	動作確認時のデスクトップ PC	組立てたカメラスタンド



設置完了報告 (ケニア・コーストジェネラル病院)

作業題目	ケニア・コーストジェネラル病院 プレハブ ICU 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年6月4日,6日 2022年7月21日,29日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr. Abdallah 現地コンサルタント(ICT): Mr.Paul, Mr.Edmond CDC: 中谷、エドリス、野澤	
作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>2022年6月4日,6日の移設作業1</u> 1. COVID-19 アイソレーションユニットの倉庫より遠隔 ICU 通信システムをプレハブ ICU へ移設した。移設時にモニタリングシステム用 PC が故障していることがわかった。 ● <u>2022年7月21日,29日の移設作業2</u> 1. 故障していた PC を交換し IP カメラ、マイクスピーカーの映像音声をサーベイランスステーションクライアントで確認できた。それらの映像を Zoom で表示できることも確認した。ドキュメントスキャナーの映像が Zoom で表示できることも確認した。 2. 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 <p>2022年7月29日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など		
	ICU カウンター内に設置した ICT 機材	スタッフステーションに設置した 遠隔 ICU 通信システム

設置完了報告 (モザンビーク・マプト中央病院)

作業題目	モザンビーク・マプト中央病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年7月7日,8日 2022年9月19日-23日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Ms.Stela, Mr.Mugabe 現地コンサルタント(ICT) : Mr.Machava, Mr.Fernando CDC: エドリス、野澤	
作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>2022年7月7日,8日の組み立て作業</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院に到着した ICT 機材を COVID-19 トリートメントセンターにて組み立て設置を行った。 2. コミュニケーションシステム用 PC とモニタリングシステム用 PC、ドキュメントスキャナーが動作することを確認した。また、Zoom で PC 画面を共有できることを確認した。 3. 病院 ICT 担当者から作業後、保安上のため機材を解体し倉庫に保管すると連絡があった。その後、病院と協議し ICT 機材を設置できるよう監視カメラを病院側が準備することとなった。 ● <u>2022年9月19日~23日の組み立て作業</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 9月16日 COVID-19 トリートメントセンターに監視カメラ設置が完了し、9月19日から ICT 機材の組み立てを再開した。 2. IP カメラ、マイクスピーカー、サーベイランスステーションクライアントにて動作することを確認し、それらの映像を Zoom で表示できることも確認した。ドキュメントスキャナーの映像が Zoom で表示できることも確認した。 3. 9月23日 ICT 機材の組み立てを終え、動作確認を行った。 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 ● <u>2022年10月24日、25日、31日の有線接続作業</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組み立て作業後、映像が途切れることがあったため調査を行った。無線機器が多く無線通信が途切れることを確認し、システム内の無線接続箇所を有線接続に変更した。 <p>2022年10月31日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p> 	
写真、資料など		
	ナースステーションに設置した 遠隔 ICU 通信システム	組立てたカメラスタンド



設置完了報告 (セネガル共和国 / ダラルジャム病院)

作業題目	セネガル共和国 / ダラルジャム病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年4月12日～13日,28日 2022年5月11日,17日 2022年6月23日 2022年7月12日,14日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr.Sow 現地コンサルタント(ICT) : Mr. Mbow, Mr. Diop CDC: 中谷、エドリス、野澤、松田、佐々木	
作業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>2022年4月12日、11日、13日、28日と5月11日、17日の作業内容</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 到着した段ボール数と梱包明細書に記載されていた段ボール数の照合 2. 一般 ICU ナースステーションへコミュニケーションシステムの設置 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、8ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、IP カメラ、ドキュメントスキャナー、マイクスピーカー、Web カメラ、HDMI キャプチャーボード) 3. 一般 ICU ナースステーションへモニタリングシステムの設置 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、24ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、マイクスピーカー、HDMI キャプチャーボード) 4. オンラインで接続して日本から助言しながら作業を進めた結果、5台のカメラを含めてすべての機材が正常に稼働することを確認した。 5. 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 2022年5月17日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。 ● <u>2022年6月23日と7月12日、14日の故障になった ICT 機材の作業内容</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年6月17日に病院の ICT 担当者から1台の IP カメラの電源が入っていないと報告があった。 2. ビデオ会議を通じ IP カメラの状態確認と原因の確認 ● <u>今後の予定</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 交換用 IP カメラ1台の設定、2023年3月に専門家が現地病院への訪問時に持参し、その後遠隔で日本側 ICT 担当者と病院 ICT 担当者が IP カメラの交換と動作確認を行う。 2. ICU で使用している遠隔 ICU 通信システムは 2023年3月にコンテナ ICU へ移設する。 	
写真、資料など		
	サーバー室でのカメラスタンド組立て	サーバー室での遠隔 ICU 通信システムの動作確認



設置完了報告 (セネガル共和国 / ダラルジャム病院)

作業題目	セネガル共和国 / ダラルジャム病院 コンテナ ICU 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2023 年 9 月 23～25 日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr. Sow 現地コンサルタント(ICT) : Mr. Mbow, Mr. Diop CDC: 佐々木、野澤	
作業内容	<p>● <u>2023 年 9 月 23 日～25 日の作業内容</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院内の COVID-19 専用 ICU と一般 ICU にある遠隔 ICU 通信システムの機材をコンテナ ICU に移設した。移設時にマイクスピーカーが 4 台ないことが判明した。病院の紛失報告書を送るよう依頼した。また、拡張用 HDMI キャプチャーボード 1 台が別の部屋にあり移設できないと病院 ICT 担当者から連絡があり、後日システムに接続するよう依頼した。 2. コンテナ ICU 内のイーサネットケーブルと音声ケーブルの配線はコンテナ ICU 施工業者が行い、コンテナ ICU へのインターネット接続は病院が行った。移設作業は病院 ICT 担当者と現地コンサルタントが行い、日本側からオンラインによる移設作業支援を行った。 3. 故障していた IP カメラ 1 台を日本から専門家が渡航時に持参した IP カメラと交換した。 4. コンテナ ICU の IP カメラ 5 台をコンテナ ICU の天井に設置した。また、その他の機材を ICU カウンターに設置した。 5. スタッフステーションのあるコンテナにモニタリングシステム、コミュニケーションシステムを設置した。 6. Zoom にコミュニケーション PC から接続することを確認し、Zoom 画面にてコンテナ ICU の IP カメラの映像表示と操作できることを確認した。また、ドキュメントスキャナーを動作確認した。また、病院 ICT 担当者と現地コンサルタントで各 IP カメラの音声を確認した。 7. 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作を確認した。 <p>2023 年 9 月 25 日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など		
	ICU カウンター内に設置した ICT 機材	スタッフステーションに設置した遠隔 ICU 通信システム

設置完了報告 (グアテマラ・サンビセンテ病院)

作業題目	グアテマラ・サンビセンテ病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年4月26日~2022年4月28日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Mr. Fernando Huertas, Mr. Alex Alberto Lopez 現地コンサルタント(ICT): Mr. Carlos Aguilar, Mr. Abner Muñoz CDC: 田辺、高田	
作業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 到着した段ボール数と梱包明細書に記載されていた段ボール数の照合 2. コミュニケーションシステムの設置、動作確認 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、8 ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、IP カメラ、ドキュメントスキャナー、マイクスピーカー、Web カメラ、HDMI キャプチャーボード) 3. 作業初日は現地コンサルタントがほとんど作業したため、技術移転の点も考慮し、次回からは病院 ICT 担当者にも積極的に参加してもらうよう伝えた。 4. モニタリングシステムの設置、動作確認 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、24 ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、マイクスピーカー、HDMI キャプチャーボード) 5. オフライン用の NAS サーバーの HDD にエラーが発生していたため、リモートで対処し、2022年4月28日にエラーは解消された。 6. ICU 用の機材の設置 (カメラスタンドの組立て、UPS の設置、カメラスタンドへ次の機材を取付け ①サテライトルーター ②8 ポート PoE スイッチ ③IP カメラ ④マイクスピーカー) 7. 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 <p>2022年4月28日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など		
	カメラスタンド組立て	遠隔 ICU 通信システムの動作確認


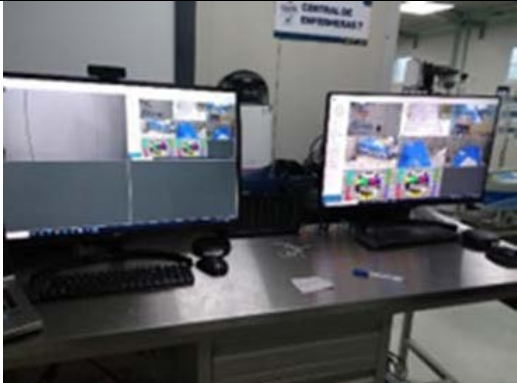
設置完了報告 (メキシコ・オーラン総合病院)

作業題目	メキシコ・オーラン総合病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年2月11日~2022年2月21日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Dr. Gala, Ing. Roberto, Ing. Ballesteros 現地コンサルタント(ICT): Mr. Ruben Rubio, Mr. Jorge Gonzalez CDC: 近藤、高田	
作業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 到着した段ボール数と梱包明細書に記載されていた段ボール数の照合 2. コミュニケーションシステムの設置、動作確認 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、8 ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、IP カメラ、ドキュメントスキャナー、マイクスピーカー、Web カメラ、HDMI キャプチャーボード) 3. モニタリングエリア用 UPS を起動させると、エラー音が鳴った。原因は、仮組みしている部屋のコンセントにアースが通っていないためであった。スケジュールドケアを実施するときに使用する部屋のコンセントにはアースが通っているため問題が無いことをその場で確認した。 4. モニタリングシステムの設置、動作確認 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、24 ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、マイクスピーカー、HDMI キャプチャーボード) 5. ICU 用の機材の設置 (カメラスタンドの組立て、UPS の設置、カメラスタンドへ次の機材を取付け ①サテライトルーター ②8 ポート PoE スイッチ ③IP カメラ ④マイクスピーカー) 6. 病院が所有している電子カルテ(EMR)用ノート PC の映像を、HDMI キャプチャーボードを使い、モニタリングシステムのデスクトップ PC に表示させた。 7. マイクスピーカーの双方向通話動作確認 (IP カメラに繋いだマイクスピーカーと、モニタリングシステム用デスクトップ PC に繋いだマイクスピーカー間での通話) 8. コミュニケーションシステム用デスクトップ PC から Zoom へのアクセスのテスト 9. 仮組みした部屋からスケジュールドケアで使用する部屋への機材移動 10. 移動後、全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 初期に供与した遠隔 ICU 通信システムは 2022 年 2 月 21 日、双方で稼働を確認した。 <p>● これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など	 <p>UPS のエラー状況の確認</p>	 <p>設置した IP カメラの映像確認</p>

設置完了報告 (メキシコ・オーラン総合病院)

作業題目	メキシコ・オーラン総合病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業 (追加 15 台分)
実施期間 (日本時間)	2022 年 11 月 24 日~2022 年 12 月 9 日
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業
参加者	病院 ICT 担当者: Ing. Ballesteros CDC: 田辺、高田
作業内容	<p>最終設置場所 (COVID-19 用、その他各 ICU や救急病棟等) に設置する予定であったが、COVID-19 患者が急増したため ICT 担当者が入室できず、ICT 担当者の部屋に仮設置し、動作確認を行った。2023 年 1 月末~2 月にかけて先方が責任をもって設置することで合意した。</p> <p>2022 年 11 月 24 日から複数回ビデオ会議を実施し、病院 ICT 担当者のみで設置した機材の動作確認を実施した。いくつかの機材が未接続、また機材同士が誤った接続がされていたため、正しい接続方法を伝えた。2022 年 12 月 9 日、15 台分の IP カメラ、及び遠隔 ICU 通信システムの稼働を双方で確認した。</p> <p>これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>
写真、資料など	 <p>動作確認の様子</p>

設置完了報告 (メキシコ・バジャドリド病院)

作業題目	メキシコ・バジャドリド病院 遠隔 ICU 通信システム設置作業	
実施期間 (日本時間)	2022年2月12日~2022年2月18日	
作業方法	Zoom を利用した遠隔作業	
参加者	病院 ICT 担当者: Ing. Guillermo Jonathan Nájera Pech 現地コンサルタント(ICT): Mr. Ruben Rubio, Mr. Jorge Gonzalez CDC: 近藤、高田	
作業内容	<ol style="list-style-type: none"> 到着した段ボール数と梱包明細書に記載されていた段ボール数の照合 カメラスタンドを梱包箱から取出し、土台の組立て 倉庫から ICT 機材を設置場所へ移動 カメラスタンドの組立て ICU 用の機材の設置 (カメラスタンドの組立て、UPS の設置、カメラスタンドへ次の機材を取付け ①サテライトルーター ②8 ポート PoE スイッチ ③IP カメラ ④マイクスピーカー) コミュニケーションシステムの設置、動作確認 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、8 ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、IP カメラ、ドキュメントスキャナー、マイクスピーカー、Web カメラ、HDMI キャプチャーボード) モニタリングシステムの設置、動作確認 (デスクトップ PC、NAS サーバー、メインルーター、24 ポート PoE スイッチ、変圧器、UPS、マイクスピーカー、HDMI キャプチャーボード) 全ての機材を接続し、遠隔 ICU 通信システムとしての動作確認 <p>2022年2月18日、双方で稼働を確認した。これをもって全ての遠隔 ICU 通信システムの設置作業を完了した。</p>	
写真、資料など		
	現地にて Zoom を開きながら作業	設置が完了した遠隔 ICU 通信システム

資料 2_遠隔 ICU 通信システム管理者研修の動画概要

新型コロナウイルス感染症流行下における 遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト

スケジュールドケアへ参加される皆様へ

いつも遠隔 ICU プロジェクトにご参加頂きありがとうございます。以下は遠隔 ICU 通信システムの説明動画で、それぞれ3分未満です。スムーズに開始できるよう、スケジュールドケアが始まる前にこの動画をご覧ください。

これらの動画は遠隔 ICU プロジェクトのために特別に作成されました。そのため、動画の共有は遠隔 ICU 通信システムを毎日使用する医師や看護師、もしくはスケジュールドケアに参加される方のみでお願い致します。



- パート1 遠隔 ICU 通信システムの紹介

<https://youtu.be/j0KIFgSfQMg>



- パート2 「Surveillance Station」の概要

<https://youtu.be/aeWrijmnT0w>



- パート3 IPカメラの使い方

<https://youtu.be/UJZjhXMuVIw>



- パート4 「Live View」の使い方

<https://youtu.be/QgUdEyK2ki4>



- パート5 「Timeline」の使い方

<https://youtu.be/wZaXkmjx-EM>

ご質問や、ご不明な点がございましたら、プロジェクトマネージャーや ICT チームまでお問い合わせください。

引き続きどうぞよろしくお願い致します。

遠隔 ICU プロジェクトチーム

資料 3_広報活動の掲載媒体詳細

広報活動一覧

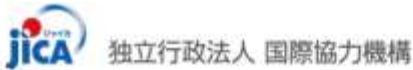
以下、2021年8月25日から2022年12月20日の期間に広報された掲載媒体概要（51点）。

No	掲載日	掲載媒体
1	2021年8月25日	JICA ウェブサイト トピックス
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/topics/2021/20210825_01.html
2	2021年8月25日	T-ICU 公式ホームページ プレスリリース&PR-Times
	URLリンク先	https://www.t-icu.co.jp/news/press/1387.html?fbclid=IwAR1IppvJcODrNd5VFHaHF2Y2sSzD_dlxz7qkPY4wVZhK31rYX0X17WXZo
3	2021年8月26日	JICA 広報部 Facebook
	URLリンク先	https://www.facebook.com/jicapr/posts/4196446727058109
4	2021年8月26日	JICA 広報部 Twitter
	URLリンク先	https://twitter.com/jica_direct/status/1430747495928262661
5	2021年8月26日	神戸医療産業都市（KBIC：KOBE Biomedical Innovation Cluster）の海外向けウェブサイト
	URLリンク先	https://www.fbri-kobe.org/kbic/english/pressrelease/2021_10-26/
6	2021年9月8日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（ケニア①）
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20210908.html
7	2021年10月1日	JICA ウェブサイト ニュース（海外向け）
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/english/news/field/2021/20211001_01.html
8	2021年10月7日	JICA 広報部 Facebook 英語（プロジェクト概要）
	URLリンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=2242086765933054&set=pcb.2242086955933035
9	2021年11月24日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（ケニア②）
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20211124.html
10	2021年12月27日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（メキシコ①）
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20211227.html
11	2022年1月14日	JICA ウェブサイト ニュースレター（トンガ①）
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220114.html
12	2022年1月20日	JICA ウェブサイト ニュースレター（インドネシア①）
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220120.html
13	2022年1月27日	JICA 広報部 Facebook 日本語（メキシコ）
	URLリンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=4716039158432194&set=pcb.4716039695098807
14	2022年2月3日	JICA 広報部 Facebook 英語（メキシコ）
	URLリンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=2336403943168002&set=pcb.2336405593167837
15	2022年2月10日	JICA ウェブサイト ニュースレター（セネガル①）
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220210.html
16	2022年2月26日	JICA ウェブサイト ニュースレター（グアテマラ①）
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220226.html
17	2022年2月27日	JICA MAGAZINE 2月号
	URLリンク先	なし

18	2022年3月1日	国際開発ジャーナル3月
	URLリンク先	なし
19	2022年3月11日	JICA ウェブサイト ニュースレター (エルサルバドル①)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220311.html
20	2022年3月16日	JICA ウェブサイト ニュースレター (インドネシア②)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220316.html
21	2022年3月17日	JICA ウェブサイト ニュースレター (パラオ①)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220317_01.html
22	2022年3月17日	JICA ウェブサイト ニュースレター (モザンビーク①)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220317_02.html
23	2022年4月4日	JICA ウェブサイト ニュースレター (ボリビア①)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220404.html
24	2022年4月14日	JICA ウェブサイト ニュースレター (ケニア③)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220414.html
25	2022年5月1日	JICA DX ウェブサイト
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/activities/issues/digital/jicadx/index.html
26	2022年5月4日	JICA 広報部 Facebook 日本語 (エルサルバドル②)
	URLリンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=367871575379342&set=pcb.367871965379303
27	2022年5月8日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター(メキシコ②)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220508.html
28	2022年5月19日	JICA 広報部 Facebook 英語 (エルサルバドル)
	URLリンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=305732555084013&set=pcb.305732671750668
29	2022年5月20日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター (パラオ②)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220520_02.html
30	2022年5月20日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター (トンガ①)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220520_01.html
31	2022年5月24日	JICA 広報部 Facebook 日本語 (トンガ、パラオ)
	URLリンク先	https://www.facebook.com/photo?fbid=384491867050646&set=pcb.384492207050612
32	2022年5月26日	JICA 広報部 Facebook 英語 (プロジェクト概要)
	URLリンク先	https://www.facebook.com/photo?fbid=384491867050646&set=pcb.384492207050612
33	2022年5月30日	JICA ウェブサイト ニュースレター (セネガル②)
	URLリンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220530.html
34	2022年5月31日	JICA 広報部 Facebook 英語 (トンガ、パラオ)
	URLリンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=314069330917002&set=pcb.314069450916990
35	2022年5月31日	JICA 広報部 Facebook 日本語 (JICA DX)
	URLリンク先	https://www.facebook.com/photo?fbid=389269883239511&set=a.313966447436522
36	2022年6月	2022年版 JICA 年報

	URL リンク先	なし
37	2022年6月	隔月刊 重症集中ケア6・7月号 (国際協力からの事例)
	URL リンク先	なし
38	2022年6月6日	JICA 広報部 Facebook 英語版 (インドネシア)
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=318435650480370&set=pcb.318435843813684
39	2022年6月15日	JICA 広報部 Facebook 日本語版 (インドネシア)
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=399111132255386&set=pcb.399111338922032
40	2022年6月29日	JICA ウェブサイト ニュースレター (インドネシア③)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220629.html
41	2022年7月15日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター (グアテマラ②)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220715.html
42	2022年8月2日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター (メキシコ③)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220802.html
43	2022年8月30日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター (中南米)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220830.html
44	2022年9月16日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター (トンガ②)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220916.html
45	2022年9月20日	JICA ウェブサイト ニュースレター (ケニア④)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220920_01.html
46	2022年9月20日	JICA ウェブサイト ニュースレター (インドネシア④)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220920_02.html
47	2022年9月27日	JICA ウェブサイト ニュースレター (バングラデシュ①)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220927.html
48	2022年9月27日	JICA ウェブサイト ニュースレター (中南米)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220927_02.html
49	2022年9月30日	JICA ウェブサイト ニュースレター (アフリカ)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220930.html
50	2022年11月24日	JICA ウェブサイト ニュースレター (フィジー①)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20221124.html
51	2022年12月20日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター (パラオ③)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20221220.html

No	掲載日	掲載媒体
1	2021年8月25日	JICA ウェブサイト トピックス
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/topics/2021/20210825_01.html



JICA初！遠隔技術を駆使し、途上国の新型コロナウイルス感染症治療を世界各地でサポート

2021年8月25日

新型コロナウイルス感染症が拡大・長期化するなか、各国で集中治療室（ICU）を必要とする重篤患者が増えています。その一方で、途上国では、ICUの医療者の専門知識や技術、そして隔離病床の施設や設備の不足により、治療体制が追い付かない状況です。

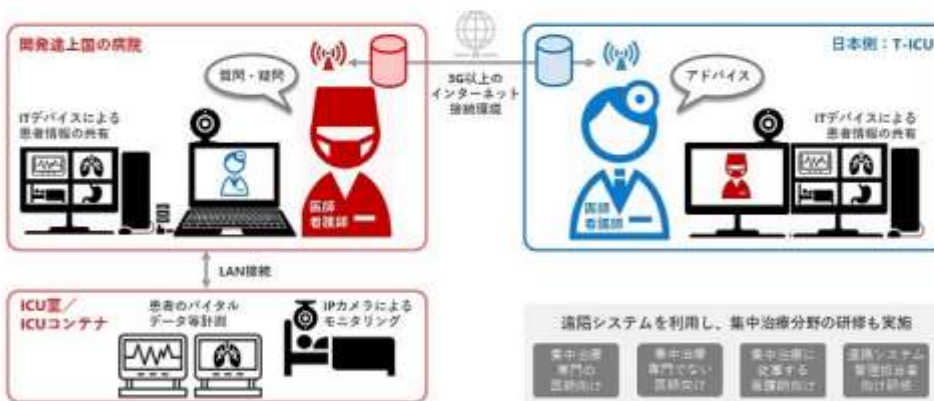
そこでJICAは2020年12月から、途上国のICU治療をサポートするため、遠隔技術を駆使した医療支援について本格的な検討を開始しました。日本の集中治療専門の医師や看護師と途上国の各病院のICU医療者を日本独自の通信システムで結び、技術的な助言や研修をすべて遠隔で行うというJICA初の取り組みです。人の往来が難しいなかでも、デジタル技術を活用して途上国の新型コロナウイルス感染症の治療体制を向上させるため挑戦しています。



遠隔で研修を受ける医師（インドネシア）



遠隔でICUでの患者のケアについて研修を受けるバングラデシュの看護師ら



遠隔サポートの仕組み

バングラデシュなどで試験的に遠隔サポートを開始。新型コロナウイルス感染症患者への治療体制が向上

まずは試験的に、バングラデシュの首都ダッカにあるイーストウエスト医科大学病院などを対象に、日本独自の遠隔ICU通信システムの導入やオンライン研修、そして知見を共有するために医師らに向けた準備会合などが始まっています。

研修に参加した同病院のシニア・メディカル・オフィサーのシブ・ジョンカー・ゴシュワミ医師は、「重篤患者の症例を取り上げたICUカンファレンスでは、日本の医師との議論により、救命救急診療に関する知識や、日本での治療手順やガイドラインも習得できました」と述べ、今後の継続したサポートを強く望んでいます。また、ICUで患者のケアにあたるモハンマド・バラエット・ホッセン看護師長は、「オンラインによる直接指導などにより、新型コロナウイルス感染症患者に対する看護知識だけでなく、ICUでの看護全般の質の向上にもつながっています」と言います。現場の医療者たちが専門知識と技術を身につけ、治療体制が着実に底上げされています。

遠隔でICU医療をサポートする医師らと連携し、全世界で同時に支援を実施

この遠隔ICUサービスは、遠隔での集中治療サポートを手がける（株）T-ICU（神戸市）に委託して実施しています。



T-ICUの津久田純平医師

T-ICUに所属する津久田純平医師は、途上国での遠隔ICUサポートについて、「医療水準や患者背景、言語の違いによるやり取りへの不安はありますが、どの国の医療者も、患者さんの症状改善に向けた思いに違いはありません。エビデンスに基づく治療に加えて、病態生理や経験に沿った集中治療の方法を助言することで、症状の改善にとどまらず、医療の質やコストの改善にもつながることを期待します」と言います。

JICAはT-ICUと共に、これまで世界15か国で遠隔ICU通信システムが途上国でどのように活用できるかを調査してきました。その結果に基づいて、今後は、インドネシア、トンガ、パラオ、ケニア、セネガル、エルサルバドル、ポリビア、グアテマラ、メキシコと世界各地に支援を拡大（※文末参照）していきます。



トンガ（写真上）とパラオ（写真下）では、7月に遠隔ICU通信システムを活用した医療支援に関する署名式が行われました

これまで培った保健医療分野での協力をもとに、最新技術を活用して、途上国の医療体制の向上を図る

新型コロナウイルス感染症の拡大は、まだまだ終わりがみえません。この未曾有の感染症流行下で、JICAは昨年、途上国の保健医療システムの強化に向け、「JICA世界保健イニシアティブ」を立ち上げました。移動や接触が出来ない物理的な制約下での効果的な協力に向けた工夫が必要とされるなか、ウィズコロナ時代に向け、この遠隔ICUの活用を含め、デジタル技術を駆使した遠隔を基本とする協力のあり方を模索しています。

STI・DX（科学技術イノベーション・デジタルトランスフォーメーション）室の齊藤幹也室長は、「これからの社会課題の解決にはデジタルトランスフォーメーション（DX）推進が不可欠です。保健医療分野での遠隔ICU支援のほか、開発のさまざまな分野でDXの取り組みに挑戦していきます」と今後を見据えます。

【遠隔ICUシステムを活用した医療支援に関する詳細はこちら】

案件名：新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト

対象国名：インドネシア、トンガ、パラオ、セネガル、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、ポリビア等（実施確定分）

※ケニア（モンバサ郡コースト・ジェネラル病院）は、技術協力「アフリカ保健システム強化パートナーシッププロジェクトフェーズ2」にて実施中

実施予定期間：12～15ヵ月

実施機関：各国監督省庁（主に保健省）

対象地域：

- 1) インドネシア 西ジャワ州インドネシア大学病院、南スラウェシ州ハサヌディン大学病院
- 2) トンガ ニクアロファ市バイオラ病院
- 3) パラオ コロール州ベラウ国立病院
- 4) セネガル ダカール州ダラルジャム病院
- 5) エルサルバドル サンサルバドル市エルサルバドル病院
- 6) グアテマラ グアテマラ市サンピセンテ病院
- 7) メキシコ ユカタン州オーラン総合病院、バジャドリド病院
- 8) ポリビア サンタクルス県サンタクルス日本病院

具体的な事業内容：

- 1) 施設、機材等：集中治療を対象とした遠隔医療通信システム及び臨時用ICU医療施設（コンテナまたはプレハブ）・設備、医療機材
- 2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネント：日本の集中治療専門医・看護師による、遠隔での集中治療に係る研修及び技術的助言

No	掲載日	掲載媒体
2	2021年 8月 25日	T-ICU 公式ホームページ プレスリリース& PR-Times
	URL リンク先	https://www.t-icu.co.jp/news/press/1387.html?fbclid=IwAR1IppvJcODrNd5VFHaHF27Y2xSzD_dkz7qkPY4wVZhK31rYX0X17WXZo



HOME サービス 特長

資料請求
ニュース

お問い合わせ
手
メディカルコンテンツ

ホーム > ニュース > プレスリリース > T-ICUがJICAから受託し、大洋州、アジア、アフリカ、中南米地域の約10ヶ国を対象に遠隔ICU支援を開始

ニュース

T-ICUがJICAから受託し、大洋州、アジア、アフリカ、中南米地域の約10ヶ国を対象に遠隔ICU支援を開始

遠隔ICUサポートサービスを展開する株式会社T-ICU(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長/医師:中西 智之、以下「当社」)は、株式会社シー・ディー・シー・インターナショナルと共同企業体(JV)を組み、独立行政法人国際協力機構(以下「JICA」)の技術協力「新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト」を受託しました。開発途上国の集中治療に従事する医師・看護師と、日本の集中治療医・看護師を遠隔で結び、集中治療にかかる研修や遠隔ICUサービスによる技術的助言を10ヶ国を目途に実施します。



コロナ禍でICU患者が急激に増加し、重篤患者の治療を担う医師・看護師等の対応力の強化や、新型コロナウイルス感染者を他の患者と隔離して集中治療を行うICU設備の整備が喫緊の課題となっています。こうした状況の中、ODA(政府開発援助)事業の実施機関であるJICAは「感染症流行時の遠隔ICU支援のあり方に係る情報収集・確認調査」(以下「調査」)を実施し、冒頭のとおり当社を含む企業体で受託し、これまで世界15ヶ国で調査を行ってきました。2021年5月からはインドネシア、フィリピン、バングラデシュの3カ国4病院でパイロット活動を展開し、集中治療分野の遠隔支援の方法やその有効性を検証しています。同調査を通じて、世界各地における遠隔を基本とした集中治療分野の支援ニーズを確認し、現在準備中の国も含め約10か国を対象に、技術協力「新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト」を開始する予定です。当社は引き続き同プロジェクトにおいても、集中治療にかかる研修や遠隔ICUサービスによる技術的助言を行います。

【パイロット事業対象国と対象病院】

バングラデシュ イーストウエスト医科大学病院、

インドネシア 西ジャワ州インドネシア大学病院、南スラウェシ州ハサヌディン大学病院

フィリピン マニラ市国立サンラザロ病院

【2021年春より実施中のWeb会議システムを使った遠隔研修について】

当社は、上記調査内パイロット活動として、バングラデシュのイーストウエスト医科大学病院、インドネシアのインドネシア大学付属病院、ハサヌディン大学病院、及び、フィリピンのマニラ市国立サンラザロ病院の医師・看護師を対象に、日本の集中治療医、集中ケア認定看護師・専門看護師を主な講師とした遠隔での集中治療基礎研修を実施してします。本研修は、遠隔ICUサービスを円滑に進めていくために必要な基礎知識を備えてもらう機会と位置づけており、呼吸・循環に関する内容からCOVID-19の治療など医師・看護師それぞれ独自セッションのコンテンツを準備しました。Webでの研修会でしたが、日本側の講師が参加者からの質問に対応するなどインタラクティブに進行するセッションもあり、対象国の診療・看護の実際を知る貴重な機会にもなりました。100人を超える看護師が参加するセッションもあり、関心の高さが伺えました。

【今後の展望】

医療文化や宗教的背景、倫理観などはそれぞれの国で異なるため、対象国、対象病院を理解することは非常に重要です。研修やカンファレンスなどそれぞれの取り組みを通して対象病院への理解を深

め、各病院への遠隔ICU支援を効果的に進めます。COVID-19の流行状況は国によって様々ですが、当社はそれぞれの状況や保健事情を鑑み、最適な形で支援を提供します。また、本支援を通じて、ひいては各国における重篤患者への医療提供体制が強化され、更なる発展に与することを目指します。

【遠隔ICUシステムを活用した医療支援に関する詳細はこちら】

案件名：新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト

対象国名：インドネシア、トンガ、パラオ、セネガル、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、ポリビア等(実施確定分)

※ケニア(モンバサ郡コースト・ジェネラル病院)は、技術協力「アフリカ保健システム強化パートナーシッププロジェクトフェーズ2」にて実施中

実施予定期間：12～15ヵ月

実施機関：各国監督省庁(主に保健省)

対象地域：

- 1)インドネシア 西ジャワ州インドネシア大学病院、南スラウェシ州ハサヌディン大学病院
- 2)トンガ ヌクアロファ市バイオラ病院
- 3)パラオ コロール州ベラウ国立病院
- 4)セネガル ダカール州ダラルジャム病院
- 5)エルサルバドル サンサルバドル市エルサルバドル病院
- 6)グアテマラ グアテマラ市サンピセンテ病院
- 7)メキシコ ユカタン州オーラン総合病院、バジャドリド病院
- 8)ポリビア サンタクルス県サンタクルス日本病院

具体的な事業内容：

- 1)施設、機材等：集中治療を対象とした遠隔医療通信システム及び臨時用ICU医療施設(コンテナまたはプレハブ)・設備、医療機材
- 2)コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネント：日本の集中治療専門医・看護師による、遠隔での集中治療に係る研修及び技術的助言

なお、以下のリンクは独立行政法人国際協力機構(JICA)による本事業に関するトピックスです。あわせてご覧ください。

https://www.jica.go.jp/topics/2021/20210825_01.html

No	掲載日	掲載媒体
3	2021年8月26日	JICA 広報部 Facebook
	URL リンク先	https://www.facebook.com/jicapr/posts/4196446727058109


JICA 広報部
...

自己紹介

独立行政法人 国際協力機構（JICA）広報部の公式Facebookページです。
<https://>

📄 ページ・政府機関

🌐 jica.go.jp


JICA 広報部
...

2021年8月26日
🌐

【JICA初！遠隔技術を駆使し、途上国の #新型コロナ 感染症治療を世界各地でサポート】
#新型コロナウイルス 感染症が拡大・長期化するなか、各国で #集中治療室（ICU）を必要とする重篤患者が増えています。その一方で、途上国では、ICUの医療者の専門知識や技術、そして隔離病床の施設や設備の不足により、治療体制が追い付かない状況です。

そこでJICAは2020年12月から、途上国のICU治療をサポートするため、#遠隔 技術を駆使した #医療支援 について本格的な検討を開始しました。日本の #集中治療 専門の #医師 や #看護師 と途上国の各病院のICU医療者を日本独自の通信システムで結び、技術的な助言や研修をすべて遠隔で行うというJICA初の取り組みです。人の往来が難しいなかでも、#デジタル技術 を活用して途上国の新型コロナウイルス感染症の治療体制を向上させるため挑戦しています。

▼JICA初！遠隔技術を駆使し、途上国の新型コロナ感染症治療を世界各地でサポート
https://www.jica.go.jp/topics/2021/20210825_01.html
#遠隔医療 #感染症対策







👍 97
シェア9件

すべての写真を見る



プライバシー・利用規約・広告・Ad Choices ▶️・Cookie・その他・Meta © 2022

No	掲載日	掲載媒体
4	2021年 8月 26日	JICA 広報部 Twitter
	URL リンク先	https://twitter.com/jica_direct/status/1430747495928262661



-  ホーム
-  話題を検索
-  通知
-  メッセージ
-  ブックマーク
-  リスト
-  プロフィール
-  もっと見る

ツイートする

← ツイート



JICA PR
 @jica_direct

...

【#遠隔 技術による #新型コロナ 感染症治療サポート】
 #集中治療室(ICU)の医療者の専門知識や技術の不足などにより、治療体制が追い付かない途上国に向けて、日本独自の通信システムや #デジタル技術 を活用し、遠隔で助言や研修を行うJICA初の #医療支援 に挑戦しています。
[jica.go.jp/topics/2021/20...](https://www.jica.go.jp/topics/2021/20...)



午後1:22 - 2021年8月26日 - Social Insight Post

9件のリツイート 1件の引用ツイート 23件のいいね






No	掲載日	掲載媒体
5	2021年8月26日	神戸医療産業都市（KBIC：KOBEBiomedical Innovation Cluster）の海外向けウェブ サイト
	URLリンク先	https://www.fbri-kobe.org/kbic/english/pressrelease/2021_10-26/

T-ICU Commences Remote ICU Support Contracted by JICA for About 10 Countries in the Oceania, Asia, Africa and Latin America Regions

August 26, 2021

T-ICU Co., Ltd. ("T-ICU"), a member of the Kobe Biomedical Innovation Cluster and provider of remote intensive care unit (ICU) support services ("the Company" [headquartered in Kobe, Hyogo; President and CEO: Tomoyuki Nakanishi, M.D.]), hereby announces the establishment of a joint venture with CDC International Corporation and were awarded a contract to undertake the "Project for Capacity Development of ICU Using Telemedicine under COVID-19 Pandemic," which is a technical cooperation project funded by the Japan International Cooperation Agency ("JICA"). Intensive care physicians and nurses in developing countries are to be remotely connected with intensive care physicians and nurses in Japan to receive intensive care training and advice on treating critically ill patients in the remote ICU services. This project will be implemented in about 10 countries.

The number of patients who receive ICU treatment has rapidly increased due to the COVID-19 pandemic. Enhancing the capabilities of physicians, nurses, etc. who treat critically ill patients and establishing ICU facilities to provide intensive care to COVID-19 patients while separating them from other patients have become urgent issues. Amid such circumstances, as an organization that implements official development assistance (ODA) projects, JICA initiated the "Data Collection Survey on the Use of ICU Telemedicine in Pandemic Situations" ("the Survey"). To date, the Survey has been conducted in 15 countries around the world. Since May 2021, pilot activities have been conducted in four hospitals in three countries, namely, Indonesia, the Philippines and Bangladesh, to verify the methods and the effectiveness of remote support in the discipline of intensive care. Through the Survey, the need for remote-based support of intensive care in various countries around the world has been confirmed, and the technical cooperation project, "Project for Capacity Development of ICU Using Telemedicine under COVID-19 Pandemic," is set to launch in about 10 countries, including countries currently preparing for the project. The Company will continue providing ICU training on intensive care and technical advice through remote ICU services in this project as well.

Target countries and hospitals for pilot project

Bangladesh: East West Medical College & Hospital
Indonesia: University of Indonesia Hospital, Hasanuddin University Hospital
Philippines: San Lazaro Hospital

Remote Tele-ICU Support that has been provided using a web-based meeting system since the spring of 2021

As part of the pilot activities under the Survey, the Company has been providing intensive care basic training remotely for physicians and nurses at East-West Medical College Hospital in Bangladesh, the University of Indonesia Hospital, the Hasanuddin University Hospital in Indonesia and the state-owned San Lazaro Hospital in Manila, Philippines. The main lecturers are Japan-based intensive care physicians and certified nurse specialists in intensive care. This basic ICU training is an opportunity to provide basic information necessary for the smooth provision of remote ICU services, and the contents prepared are unique to sessions for both physicians and nurses, such as contents related to respiratory and circulatory systems; and treatment of COVID-19 patients. Although the training was web-based, there were real-time interactive sessions in which lecturers in Japan answered questions asked by the participants, which also served as valuable opportunities to gain first-hand knowledge of medical care and nursing in target countries. There was even a session that attracted more than 100 nurses, indicating their high level of interest.

optimal support based on the state and public-health circumstances of each country. Through the support, the Company will also aim to contribute to the further development of the system to provide medical care to critically ill patients in each country.

Details on remote ICU support

Project : Intensive Care Capacity Enhancement Using Remote Technology in a Novel Coronavirus Epidemic

Target Countries : Indonesia, Tonga, Palau, Senegal, El Salvador, Guatemala, Mexico, Bolivia, etc.

※ Technical cooperation "Partnership Project for Strengthening Health Systems in Africa Phase 2" is underway with the Coast Provincial General Hospital, Mombasa, Kenya.

Scheduled implementation period : 12~15 months

Organization : Supervising ministries and agencies (Mainly Ministry of Health)

Target Countries :

- 1) Indonesia: University of Indonesia Hospital, Hasanuddin University Hospital
- 2) Tonga: Viola Hospital, Nukualofa City
- 3) Palau: Belau National Hospital, State of Koror
- 4) Senegal: Dalaljam Hospital, Dakar Province
- 5) El Salvador: El Salvador Hospital, San Salvador City
- 6) Guatemala: San Vicente Hospital, Guatemala City
- 7) Mexico: O'Horan General Hospital, Valladolid Hospital, Yucatan State
- 8) Bolivia: Santa Cruz Japanese Hospital, Santa Cruz Province

Specific project activities

- 1) Tele-ICU Support: Basic ICU Training, Case Conference and Scheduled care to provide advice on treating COVID-19 and other critically ill patients in the target hospitals.
- 2) Facilities, equipment, etc.: Telemedicine communication systems, temporary ICU medical facilities and installations (containers or prefabricated buildings) and medical equipment for intensive care

Contact

Dai Ogura (Director, T-ICU Co., Ltd.)

contact@t-icu.co.jp

Kobe-Gateway to
Japan's Largest Biocluster
Innovation Community

New Corporate Members

Bio & Healthcare Partners

Startups & Investors

[» Startups](#)

[About us](#)

[Mission statement](#)

[Company search](#)

[News](#)

[Events](#)

[Achievements](#)

[Benefits of KBIC](#)

[Location](#)

[Contact](#)

[E-newsletter](#)

[Our Hospitals and](#)

[Research Organizations](#)

[Movies/Brochures](#)

[Privacy Policy](#)

[FBRI](#)

[Invest In Kobe](#)

[KOBE live+work](#)

[IMCC](#)

Follow us on


No	掲載日	掲載媒体
6	2021年9月8日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（ケニア①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20210908.html



【ケニア】第1回JCC、キックオフミーティングの開催

各国で続々と準備が進んでいる本プロジェクト。ついにケニアを皮切りに本格的にキックオフがはじまりました。

モンバサ郡コースト・ジェネラル病院で事業を行うケニアでは、2021年9月8日に、第1回合同調整委員会（JCC：Joint Coordinating Committee）が開催されました。コロナ禍のため渡航が叶わずオンラインでの実施でしたが、ケニアからはプロジェクトマネージャーで同病院の副院長であるDr. Wanjir Korir、日本からは専門家らが参加し、これからはじまる協力について活発な議論が交わされました。

まず、専門家から概要や実施体制、そして年間計画などを説明しプロジェクトに対する相互の理解を深めました。次に、具体的な活動内容について記したWork Planをベースに議論を進めると、参加者からはリモートながらも活発に意見が寄せられました。

続いて行われたキックオフミーティングでは、日本で実際にICU臨床医として働く専門家から、医師・看護師向けオンライン研修の意義・進め方を説明しました。参加者からは、「たとえば勤務シフトや通信環境によりオンライン研修を受けられない場合どうするか？」など、現地の状況に即した質問が寄せられ、その場合は研修後にビデオを共有するなど、専門家からは出来る限り参加者に寄り添った運営をしていく姿勢が示されました。コロナ禍においても、オンラインツールを活用して両国の関係者が協力していくことをよく確認し、キックオフミーティングは終了しました。

JCCに先駆け、8月下旬からは受講者が自分のペースでいつでも好きな場所から受講できるオンデマンド研修がスタートしました。また、現地のICUで働く医師・看護師向けに、日本側の講師と繋ぐことで質疑応答にも柔軟に答えることができるオンライン研修を9月14日から週2回ずつ実施していく予定です。



No	掲載日	掲載媒体
7	2021年10月1日	JICA ウェブサイト ニュース (海外向け)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/english/news/field/2021/20211001_01.html

October 1, 2021

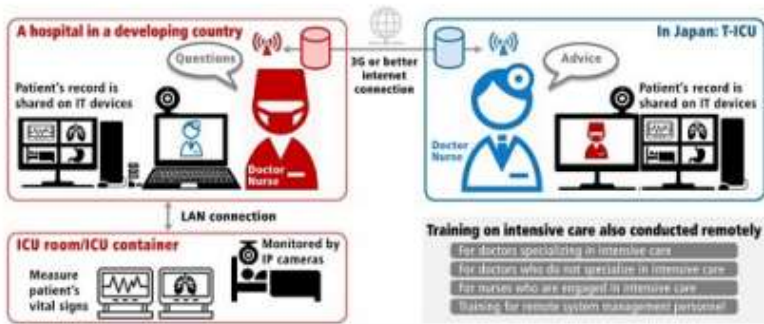
JICA's first-ever remote treatment support for COVID-19 in developing countries

With the global spread and prolonged COVID-19 infections, the number of critically ill patients in intensive care units (ICUs) is increasing in many countries. At the same time, in developing nations, treatment systems are facing over-capacity due to insufficient expertise and skills specialized in intensive care, as well as facilities and equipment for isolation beds.

In December 2020, JICA began conducting a world-wide-scale-survey to formulate health projects using remote technology to support ICU care provision in developing countries. This is JICA's first-ever approach to remotely provide technical advice and training. It connected intensive care specialist doctors and nurses in Japan with ICU medical professionals at hospitals in developing countries via Japan's own telecommunication system. JICA is taking on the challenge to improve COVID-19 treatment systems overseas through the use of digital technology under the mobility restrictions.



A doctor receiving remote training (Indonesia)



Overview of the remote support

COVID-19 treatment system seeing improvement: Remote support launched as a pilot in Bangladesh and other countries

First of all, pilot projects for the East-West Medical College Hospital in Dhaka, the capital of Bangladesh, and other hospitals have been launched. A pilot project includes the installation of Japan's own tele-ICU communication system, online training, and preparatory meetings for medical professionals to share knowledge.

Shib Shonkar Goshwami, senior medical officer, who participated in the training at the hospital, said, "At the ICU Conference on critically ill patients, I was able to gain a deep understanding about emergency care, and treatment procedures and guidelines in Japan through discussions with Japanese doctors," and expressed his strong desire for continued support. Mohammad Balayet Hossen, nurse manager of the ICU, said, "Through online but direct instruction by Japanese specialists, not only has nursing care proficiency for COVID-19 patients improved, but also the general quality of nursing care in the ICU has been upgraded." The medical staff in the field have acquired specialized knowledge and skills, and the treatment system is steadily being enhanced.



Bangladeshi nurses receiving training on how to remotely care for patients in the ICU

Starting simultaneous support around the world by remotely collaborating with ICU physicians

This tele-ICU service has been implemented by T-ICU Co. Ltd. (Kobe), which provides remote intensive care service..

JICA's first-ever remote treatment support for COVID-19 in developing countries | News | News & Features | JICA



Dr. TSUKUDA Junpei of T-ICU

TSUKUDA Junpei, a doctor affiliated with T-ICU, explains tele-ICU support in developing countries as follows. "Although some communication uncertainties exist due to differences in medical standards, patient backgrounds, and languages, medical professionals in all countries share the desire to better help patients. In addition to evidence-based treatment, we are expecting that our advice on intensive care methods, in line with pathophysiology and experiences, will help patients recover from their symptoms, as well as improve the quality and cost of medical care."

JICA, together with T-ICU, has conducted surveys among 15 countries to determine how the tele-ICU communication system can be effectively utilized in developing countries. Based on the results, JICA will expand the projects to many other parts of the world, such as Indonesia, Tonga, Palau, Kenya, Senegal, El Salvador, Bolivia, Guatemala, and Mexico (*see below).



Signing ceremonies were held in Tonga (upper photo) and Palau (lower photo) in July for the Project for Capacity Development of ICU Using Telemedicine under COVID-19 Pandemic.

Leveraging the latest technology to improve medical systems in developing countries, building on the cooperation cultivated in the field of healthcare

There is still no end in sight for the COVID-19 pandemic globally. JICA launched its "Initiative for Global Health and Medicine" last year, which aims to strengthen the health and medical care system in developing countries under the unprecedented pandemic. With physical restrictions put in place to avoid people's movement and contact, JICA will continue exploring methods of cooperation on a remote basis, making full use of digital technology, including this example of tele-ICUs system.

Looking towards the future, SAITO Mikiya, director general of Office for STI&DX (Science, Technology and Innovation, and Digital Transformation), JICA, says, "Promoting digital transformation (DX) is essential for solving today's social issues. In addition to tele-ICU support in the healthcare field, we will take on the challenges of DX initiatives in various fields of international development."

[Details on medical support using the tele-ICU system]

Project Title: Project for Capacity Development of ICU Using Telemedicine under COVID-19 Pandemic

Target countries: Indonesia, Tonga, Palau, Senegal, El Salvador, Guatemala, Mexico, Bolivia, etc. (countries so far confirmed)

*Kenya (Coast General Teaching and Referral Hospital, Mombasa) is being implemented under the Technical Cooperation "Partnership for Health Systems Strengthening in Africa (PHSSA) Phase 2."

JICA's first-ever remote treatment support for COVID-19 in developing countries | News | News & Features | JICA

Planned implementation period: 12 to 15 months

Implementing Agency: Supervising ministry of each country (mainly Ministry of Health)

Target regions:

- 1) Indonesia: The University of Indonesia Hospital, West Java Province; The Hasanuddin University Hospital, South Sulawesi Province
- 2) Tonga: The Vaiola Hospital, Nuku'alofa
- 3) Palau: The Belau National Hospital, Koror
- 4) Senegal: The Dalal Jamm Hospital
- 5) El Salvador: El Salvador National Hospital, San Salvador
- 6) Guatemala: San Vicente Hospital, Guatemala City
- 7) Mexico: Agustín O'horan General Hospital; Valladolid Temporary Care Center, Yucatan
- 8) Bolivia: The Japanese Hospital, Santa Cruz Province

Specific activities:

- 1) Facilities and equipment: Telemedicine communication systems, temporary ICU medical facilities, and medical equipment for intensive care
- 2) Consulting services/ soft components: Training and technical advice relating to remote intensive care by Japanese ICU doctors and nurses

No	掲載日	掲載媒体
8	2021年10月7日	JICA 広報部 Facebook 英語 (プロジェクト概要)
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=2242086765933054&set=pcb.2242086955933035



JICA - Japan International Cooperation Agency

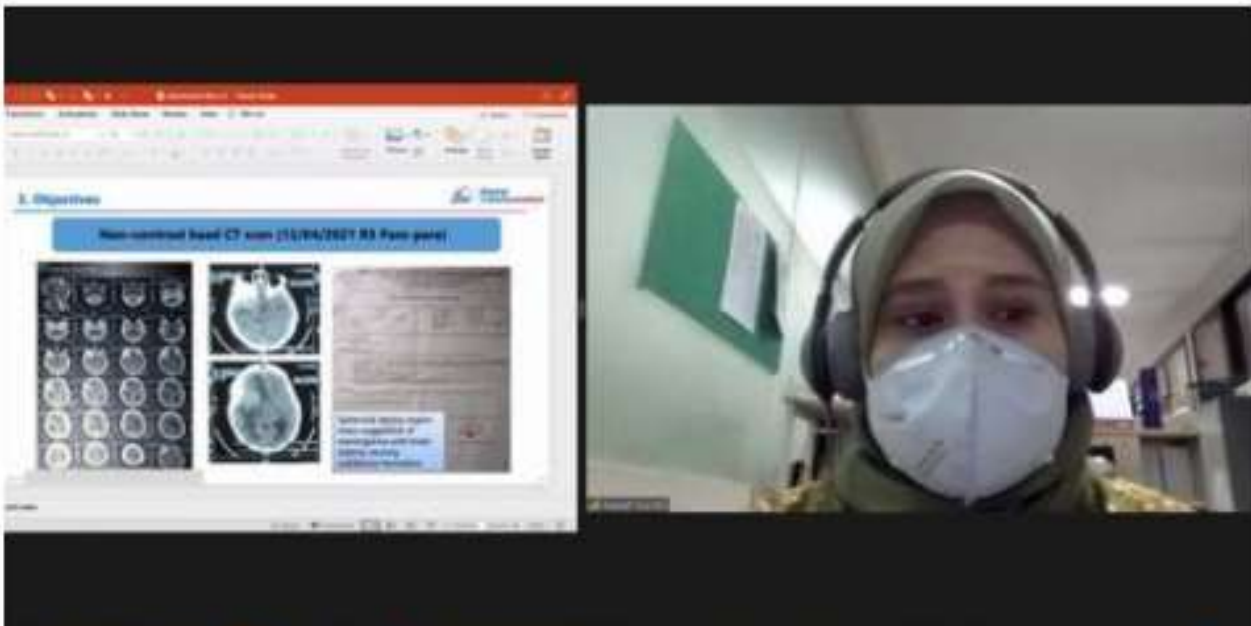
2021年10月7日 · 🌐

...

JICA's first-ever #RemoteTreatment support for #COVID19 in developing countries

With the global spread and prolonged #COVID19infections, the number of critically ill patients in #intensiveCareUnits (ICUs) is increasing in many countries. At the same time, in developing nations, treatment systems are facing over-capacity due to insufficient expertise and skills specialized in #IntensiveCare, as well as facilities and equipment for isolation beds.

In Dec. 2020, JICA began con... もっと見る



👤 西村 善彦, 他123人

💬 コメント3件 シェア4件

👍 いいね!

💬 コメントする

🔄 シェア

No	掲載日	掲載媒体
9	2021年11月24日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（ケニア②）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20211124.html



【ケニア】看護師・医師向けリアルタイムオンライン研修

ケニアのコーストジェネラル病院では、医師と看護師に向けたオンライン研修がはじまりました。9月15日より医師26名、9月14日から看護師24名を対象に、それぞれ週1回、計8回の研修が予定されています。

最初は少し緊張感のある空気で発言も控えめな受講者でしたが、日本にいる専門職とリアルタイムで会話できるため、互いの状況の理解や信頼関係が深まると共に質問や議論が活発に交わされるようになりました。特に第3回からは受講者自身にQ&Aセッションのファシリテーターをしてもらったところ、「〇〇さん、いかがですか？」と受講生同士の指名も活発になりました。ICU患者やその家族の心理的ケアや院内の感染対策など、より実践的な場面についてケニアと日本のICUの様子を互いに聞き合う場面もあり、議論は回を増すごとに深まっています。また、ケニアと日本では患者あたり看護師数、公的な医療費の仕組みや規模などが異なるため、実際の看護方法や使う薬剤にも違いがあります。講師からは、それを踏まえてより実践的な看護方法のアドバイスがなされました。

この研修を通じ、本プロジェクトの肝でもある、日本の集中治療専門の医師・看護師からケニアの集中治療担当の医師・看護師へ医療ケースに対する助言が行われるスケジュールドケアに向けた知識を蓄えていきます。



No	掲載日	掲載媒体
10	2021年12月27日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター(メキシコ①)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20211227.html



【メキシコ】看護師・医師向けリアルタイムオンライン研修

メキシコの南東部ユカタン州にあるオーラン総合病院（Hospital General de Dr. Agustín O 'Horán）とバジャドリド病院（Hospital General de Valladolid）では、2021年10月26日から、リアルタイムオンライン研修が始まりました。それぞれの病院の医師グループ、看護師グループを対象に週1回のペースで実施され、2021年末までに合計31回の研修が開催されました。

これまでケニアやインドネシアでは行われてきた同研修ですが、メキシコは対象国のうち中南米で初めての実施で、当初は言語や文化の違いが懸念されました。しかし、始めてみればフレンドリーな国民性もありすぐに打ち解け、有意義な質疑応答が飛び交いました。日本側関係者のことを現地で「友人」を意味する「アミーゴ」と呼び信頼関係を示してくれる場面もあり、さらに回を重ねるごとに、より充実した集中治療技術に関するやり取りができるようになっていきました。ユカタン州の州都であるメリダ市には、1919年（大正8年）、ロックフェラー医学研究所から野口英世博士が派遣され、黄熱病の研究をしていたという歴史があります。野口博士はメキシコの公用語であるスペイン語にも堪能で現地の医師らに丁寧な研究支援をしたと伝えられ、特にユカタン州で働く医療従事者にとっては、日本との結びつきは特別なもののようです。

メキシコでは、これまでに約400万人が新型コロナウイルスに感染し、このうち、約30万人もの命が奪われています。2020年2月27日に初めてメキシコで同ウイルスが発見されて以来、医療従事者は家族と会えない環境に置かれるなど、強い覚悟で感染者の治療に全力を注いできました。それまで集中治療の経験がなかった医療従事者が大半で、両病院では日々の業務における実践こそが人材育成の場でもありました。今回、本プロジェクトによって、同じように集中治療の現場で新型コロナウイルスと戦ってきた日本人専門家から学術的な知識を修得し、さらに、現場での苦勞を分かち合えることは大変貴重な経験であると参加者全員が高く評価しました。

2022年1月からは、リモートカンファレンス、2月からは、実際の症例を扱うスケジュールドケアが開始される予定です。これまで研修を通じて培った強い信頼関係と技術的な相互理解を活かし、これからより一層、アミーゴたちと共に、遠隔集中治療技術能力強化に向けた協力を強化していきます。



オーラン総合病院



オーラン総合病院



オーラン総合病院



バジャドリド病院



バジャドリド病院



バジャドリド病院



No	掲載日	掲載媒体
11	2022年1月14日	JICA ウェブサイト ニュースレター(トンガ①)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220114.html



【トンガ】島嶼国における遠隔医療の課題に貢献する能力強化の取り組み

トンガでは、2021年8月末より始めた準備会合や病院側との定例会を実施しつつ、プロジェクト活動を展開しています。本プロジェクトの対象となっているバイオラ病院は、トンガの首都ヌクアロファに位置し、島々から成るトンガ王国の医療を支えている主要病院の一つです。プロジェクト活動の一環として、同病院の医療従事者（医師・看護師）を主な対象としたリアルタイムオンライン研修を、10月1日～11月19日までの間実施しました。

この研修では、バイオラ病院の医師グループと日本人医師、同病院の看護師グループと日本人看護師が、ほぼ毎週、同じ曜日・時間にオンラインで一同に介して1時間ずつの研修を行うというもので、振り返りセッションを含む8回で構成されています。主に集中治療を専門としない医師・看護師を対象に、新型コロナウイルス感染症や感染症患者の治療やケアについて扱い、医師の場合は、心拍停止症候群や敗血症、人工呼吸器の基礎、新型コロナウイルス感染症患者の治療や感染対策等について、そして、看護師向けには、重症患者のモニタリング、身体的アセスメントの他、集中治療後症候群のケア、新型コロナウイルス患者の呼吸ケアや家族のケアを主なテーマとしています。各研修セッションでは、まずデジタル教材を用いた基礎的な講義を行った後、質疑応答形式で、それぞれ日本人医師や看護師による技術指導や助言、文献の確認や提案、参加者から出される日々の疑問について意見交換等を行いました。

この一連の研修を経て、11月26日には、リモートカンファレンスを実施。バイオラ病院の医師グループ及び看護師グループによるプレゼンテーションをもとに、病院内の過去の症例を通じて、それぞれの立場から日々の課題や問題点を振り返りつつ、日本人医師や看護師側に課題や対策を発表してもらいました。これらの活動において病院側の関係者との取り組みや準備を担った医師は「これまで日々の治療やケアについて振り返る機会自体がなかったが、本プロジェクトの活動は、多くの参加者にとって新鮮な経験となり、各々のモチベーションの向上にも繋がったのではないかと述べました。また、トンガでは集中治療を専門としていない医療従事者が限られた人材や物資の中で、実際の治療やケアに当たらなくてはならないため、今般の取り組みで様々な医師や看護師が一堂に会し知識や課題を共有出来たことは、大きな糧となったとの声もありました。

バイオラ病院では、医師のいない離島の保健所に医療従事者を派遣する他、逆に離島で専門医の診断や治療を要する患者が出た場合には、離島の保健所の医師がバイオラ病院に電話をして判断を仰いだり、搬送や専門医の出張派遣を依頼したりすることがあります。そのため本プロジェクトの活動を通して、トンガ国内の遠隔医療や集中治療の在り方等に対して、広く参考とされることが期待されています。



No	掲載日	掲載媒体
12	2022年1月20日	JICA ウェブサイト ニュースレター（インドネシア①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220120.html



独立行政法人 国際協力機構

【インドネシア】医師・看護師に対するスケジュールドケア

首都ジャカルタのインドネシア大学病院を皮切りに、「スケジュールドケア」の活動がはじまりました。これは日本の集中治療専門医師・看護師が現地の集中治療室勤務の医療従事者に対して治療や看護のアドバイスを定期的に行うものです。日本人専門家は、インターネットを介して、まさにその日現地のICUに入院している患者に関する治療方針や現場の医師・看護師の抱える課題を聞き、専門的なインプットや議論を通じて解決に導いていきます。

医師向けに実施したスケジュールドケアでは、新型コロナウイルス感染症による呼吸不全や、破傷風、くも膜下出血などの症例についての治療方針や、どのような薬をどのタイミングで使用するかなどの、具体的な治療方法についての議論が活発に行われました。看護師のスケジュールドケアでも同様に、重症肺炎の患者などに対する日々のケアや看護戦略について意見交換が行われました。特に看護師のスケジュールドケアでは多くの質問が寄せられ、当初予定していた1時間では収まらずに時間を延長するなど、日本の集中治療のスキルを学びたいという現地医療従事者の熱意を垣間見ることができました。

インドネシア大学病院におけるスケジュールドケアは、2021年12月からこれまでに計12回（15症例）が実施され、今後も活動期間が終了するまで毎週定期的に行われる予定です。また同国では、南スラウェシ州都マカッサルにあるハサヌディン大学病院に対しても、2022年1月よりスケジュールドケアを実施しています。今後、両大学病院では、スケジュールドケアを継続しつつ、フォローアップセッションやセミナー等、様々な活動が展開される予定です。



No	掲載日	掲載媒体
13	2022年1月27日	JICA 広報部 Facebook 日本語 (メキシコ)
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=4716039158432194&set=pcb.4716039695098807

JICA 広報部
1月27日

【遠隔技術を活用した医療研修で #新型コロナ 感染症の集中治療技術向上に協力】
#メキシコ では、これまでに約400万人が #新型コロナウイルス に感染し、約30万人が亡くなりました。終わりの見えない苦境の中、強い覚悟を持って感染者の治療に力を注いできた現地の #医療従事者 たち。大半が #集中治療 の専門性を持たない中でICU治療の最前線に立つ #医師 や #看護師 のために、ユカタン州にあるオーラン総合病院とバジャドリド病院では、日本 の #遠隔医療 システムを活用した研修がはじまりました。

受講者たちはモニター越しの日本人専門家と積極的にコミュニケーションし、知識を磨こうと実に熱心です。#コロナ禍 で物理的な移動や接触が限られる中でも、#デジタル技術 が #国際協力の可能性を広げています。

◆メキ... もっと見る



あなた、他65人 シェア6件

いいね! コメントする シェア

No	掲載日	掲載媒体
14	2022年1月27日	JICA 広報部 Facebook 英語 (メキシコ)
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=4716039158432194&set=pcb.4716039695098807

JICA - Japan International Cooperation Agency
2月3日 · 🌐

"Cooperation to improve intensive care (ICU) technology through telemedicine training connecting Japan 🇯🇵 and Mexico 🇲🇽"


In #Mexico, to date, about 4 million people have been infected with #COVID19 and about 300,000 people have died. Medical professionals have been putting all their efforts into treatment, but many have no experience in #IntensiveCare, and the medical care system has not been able to keep up.

In an effort to improve the medical care system for overcoming #COVID19infections in developing countries, JICA is promoting online training by connecting ICU #doctors and #nurses in Japan with medical professionals in developing countries via #RemoteTechnology in the world 🌍 widely.

As part of them, from October 2021, real-time online training began in two hospitals in southeast Mexico (Hospital General Dr. Agustín O'Horán and Hospital General de Valladolid). This training has previously been conducted in #Kenya 🇰🇪 and #Indonesia 🇮🇩 under the same project, and this one in Mexico is the first attempt in #LatinAmerica. As of the end of last year, 31 training sessions had been held.

The trainees all highly evaluated this #telemedicine training as a valuable experience for them to acquire academic knowledge from Japanese experts who have been fighting against COVID-19 in ICU, as well as hear about their difficulties in the field.

The training will begin remote conferencing and scheduled care for actual cases in each country. JICA will continue to collaborate towards #CapacityDevelopment of ICU using telemedicine, taking advantage of #DigitalTechnology and the strong relationship of trust and mutual technical understanding developed through the training so far.



👍👍 あなた、Naoko T. Nakama、杉下 智彦、他750人 コメント55件 シェア582件

No	掲載日	掲載媒体
15	2022年2月10日	JICA ウェブサイト ニュースレター（セネガル①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220210.html



【セネガル】第1回合同調整委員会の開催

ダカール州ダラルジャム病院で事業を行うセネガル国では、2021年12月21日に、第1回合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）がオンライン形式にて開催されました。JCCは各プロジェクトにとって重要な会議の場で、主にプロジェクトに関係する利害関係者の方々が集まってプロジェクト全体の実施方針を確認・議論したり、プロジェクト内で重要な承認を行ったりします。

セネガル側からはプロジェクトマネージャーや集中治療室（ICU）の責任者だけではなく、保健省において病院を管轄している病院総局長兼プロジェクトダイレクターが参加し、日本側の専門家と画面上に活発な議論が行われました。

まず、日本側の専門家からプロジェクトの概要や実施体制、そして年間計画等を説明し、本プロジェクトの意義や目的、活動に対して理解を深めてもらいました。プロジェクトの説明が終了した後、病院総局長のリードで議論が活発化しました。特に、セネガル国内ではすでに対新型コロナウイルス感染症に対するプロトコル（標準的な診療手順）を策定しており、本プロジェクトの円滑な実施については日本側と議論を重ねていくことで実施したいと病院総局長からコメントがありました。

また、本会議中には保健省より「本プロジェクトのセネガルの医療分野に対する多大な貢献を期待している」「本プロジェクトへの協力は惜しみなくする」「遠隔ICUの実験的な取り組みが、セネガル国内でさらに広がるように支援したい」とのコメントを頂きました。またダラルジャム病院からは「日本の経験・知見を共有してもらい、重篤な患者のケアに生かしていきたい」とのコメントを頂き、JCCは終了しました。

保健省及び病院側のコメントから、セネガル国内における本プロジェクトにおける期待の高さと、医師側の情熱が伝わりました。



JCC時の集合写真



現地病院機材担当者の写真

No	掲載日	掲載媒体
16	2022年2月26日	JICA ウェブサイト ニュースレター（グアテマラ①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220226.html



【グアテマラ】第1回合同調整委員会の開催

グアテマラは中米に位置し、日本でもコーヒーや古代マヤ文明の遺跡、先住民の伝統的な織物や衣装などでなじみのある方が多い国でもあります。そのグアテマラでも、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受けて、特に2020年3月から感染者の増加が続いています。人口約1,660万人の中で、これまで約80万人が感染し、1万7千人超が亡くなっています。

グアテマラ国内で感染者が急増し、主要病院で重症患者を受け入れた結果、病床使用率が100%を超える事態も発生していました。この状況を改善するために、保健省は首都にある主要病院の一つであるサンピセンテ病院を強化し、より重篤な患者を受け入れる準備を始めました。本プロジェクトでは、サンピセンテ病院のICU機能拡張工事、医療機材の供与、重篤患者受け入れのための人材能力強化を行っています。

日本時間2月26日、グアテマラ保健省、大統領府企画庁、サンピセンテ病院、JICAグアテマラ事務所、プロジェクトチームにより、プロジェクトの意思決定を行う合同調整委員会（JCC）が開催されました。今回は、プロジェクト開始直後の第1回委員会として、サンピセンテ病院からプロジェクトの目標や活動計画、実施体制について説明があり、保健省の病院次官からは、JICA支援への感謝を述べるとともに、プロジェクト目標達成のための保健省のコミットメントが表明されました。また委員会の最後にはサンピセンテ病院長から、JICAと保健省への謝辞とともに、本プロジェクトを通じて患者さんへのよりよいサービス提供を目指す決意が示されました。

COVID-19はまだ先の見えぬ状況でもあり、サンピセンテ病院では重篤患者の受入れのサービス拡大に向けて、プロジェクトともに日々準備を進めています。



JCCの様子1



JCCの様子2



JCCの様子3



看護士の集団オンライン研修の様子



医師のオンライン研修の様子

No	掲載日	掲載媒体
17	2022年2月27日	JICA MAGAZINE 2月号
	URL リンク先	なし

ICU TELEMEDICINE

日本にいなから途上国の集中治療をサポート

重症患者の治療にあたる集中治療は、世界的にも設備不足、人材不足が深刻だ。コロナ禍で逼迫している途上国の集中治療の現場を、日本の医師や看護師が遠隔でサポートするプロジェクトが始まっている。

実行名 新型コロナウイルス感染症流行に伴う途上国集中治療支援事業の国際連携強化プロジェクト

実施国 新型コロナウイルス感染症流行に伴う途上国集中治療支援事業の国際連携強化プロジェクト

協力国 BANGLADESH (バングラデシュ) INDONESIA (インドネシア) JAPAN (日本)

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、どの国の医療現場も重症患者に、特に重症患者のケアにあたる集中治療は、高度な技術と知識が必要とされるため、途上国では先進国以上に人材や機材の不足とされている。

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、どの国の医療現場も重症患者に、特に重症患者のケアにあたる集中治療は、高度な技術と知識が必要とされるため、途上国では先進国以上に人材や機材の不足とされている。

日本から委託されたプロジェクトを運用するICUは、遠隔ICUの日本オペレーターたち。集中治療の専門家として参加している彼らの遠征先は、日本と途上国との国境を越え、それぞれの集中治療室（ICU）で働く医師・看護師をオンラインネットワークで結び、即座に医師のアドバイスを受けながら、プロジェクトは、中東東部など対象はアジア、アフリカ、中東東部など

およそ10か国、2020年末から導入の稼働を開始。21年7月から順次本格的な稼働を行っている。

リアルタイムで高度に医療をサポート

JICAから委託されたプロジェクトを運用するICUは、遠隔ICUの日本オペレーターたち。集中治療の専門家として参加している彼らの遠征先は、日本と途上国との国境を越え、それぞれの集中治療室（ICU）で働く医師・看護師をオンラインネットワークで結び、即座に医師のアドバイスを受けながら、プロジェクトは、中東東部など対象はアジア、アフリカ、中東東部など

ることや必要としていることを聞き取ることができ、適切な治療を提供することができたと感じています。また、途上国では、日本にいなから途上国の集中治療をサポートするプロジェクトを通じて、ICUの高度な医療や最新の医療機器を知ることができ、今後の医療の発展に貢献することができると感じています。

しかし、今回は現場を見ることができず、いかにリアルタイムでサポートすることができているのか、という点については、まだまだ課題があります。例えば、ICUの高度な医療や最新の医療機器を知ることができ、今後の医療の発展に貢献することができると感じています。

また、途上国では、日本にいなから途上国の集中治療をサポートするプロジェクトを通じて、ICUの高度な医療や最新の医療機器を知ることができ、今後の医療の発展に貢献することができると感じています。

また、途上国では、日本にいなから途上国の集中治療をサポートするプロジェクトを通じて、ICUの高度な医療や最新の医療機器を知ることができ、今後の医療の発展に貢献することができると感じています。

また、途上国では、日本にいなから途上国の集中治療をサポートするプロジェクトを通じて、ICUの高度な医療や最新の医療機器を知ることができ、今後の医療の発展に貢献することができると感じています。

No	掲載日	掲載媒体
18	2022年3月1日	国際開発ジャーナル3月
	URLリンク先	なし

3月1日

March 2022

Trend of JICA

全画面表示を終了するには
Esc キーを押してください



遠隔ICUが途上国の重症患者を救う 信頼関係の基盤にデジタル事業を構築

新型コロナウイルス感染症の拡大・高度化で国際途上国の医療もひっ迫しているが、協力を進めるにも、専門家の遠征が難しい状況が続いている。こうした困難をデジタル技術の活用で乗り越えようと、国際協力機構（JICA）は現在、遠隔医療を活用した集中治療室（ICU）に関する協力を進めている。途上国に対して多様な協力を展開するJICAの「トレンド」を紹介する本連載の第18回は、この「遠隔ICU」（Tele-ICU）の取り組みに焦点を当てる。

目指したのは「いかに早く、広く立ち上げられるか」

この「遠隔ICU」に関する協力では、デジタル技術を活用して、ICUで治療に当たる医療者を支援するほか、医療者の能力向上を図っている。

2020年12月から「感染症流行時の遠隔ICU」支援のあり方に係る情報収集・調査開始）として、「アジア・大洋州、アフリカ、中南米の15カ国で、医療レベルや使用している機材などを調査しながら、パンデミックシミュレーション、オンラインの3カ国でパネルト事業を実施。調査結果をベースに、21年7月から新型コロナウイルスと感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療室強化プロジェクト」を世界約10カ国において22年9月までの予定で展開している。

進捗している（他）「ICUの補助診断装置」によると、集中治療室は日本でも不足し、多くのICUが他の診療科の医師の兼用によってカバーされている。途上国では日本以上に専門スキルを持つ医療者が不足している

そのため、プロジェクトでは、送られてくる各種のデータや映像を見て日本の医師らが助言する。

現地の状況に応じ、人工呼吸器や超音波画像診断装置（エコー）などの機材を供与、ICU施設が整っていない病院には、機材を揃えたICUコンテナを設置した。

「プロジェクトをいかに早く立ち上げられるかが重要だった」と話すのはJICAガバナンス・平和構築部 STI・DX事業推進部コロナウイルス感染症対策能力推進部の宮田真弓副部長。「情報収集・調査調査の段階からプロジェクトの開始までスムーズに進めた。調査で構築した信頼関係や現場の理解をそのまま案件形成に生かした」という。

プロジェクトの特徴は、大きく分けて3つ。1つ目は、デジタル技術を活用し技術協力（ソフト支援部分）を全て遠隔で実施すること。2つ目は、約10カ国で同時に取り組みを展開すること。3つ目は、1年かきという短期間で事業を終え、成果を出すことだ。

世界でトップクラス 日本の専門家の訪査に期待

プロジェクトの進捗状況は各国ごとに異なるが、各国とも①リモート研修、②リモートコンサルテンス、③スケジューリングの3段階で進めている。

最初の研修では、集中治療の基礎を8回に分けて説明する。質疑応答ができるリアルタイム形式の他、いつでも何度でも再生できるオンデマンド形式も組み合わせて、ソフト研修で働く医療従事者に合わせた。コンサルテンスは、医療従事者が実際の診療事例、とくにうまくいかなかった事例について相談するからだ。これを日本とつないでリモートコンサルテンスとして実施する。実際の症例を議論する中で、日本との相違の多いや州用できる機材についての相互理解も深まっている。

最終段階のスケジュールドケアでは、事前に日々の臨床の現場で困っていることを聞き、日本側の医師や看護士が専門的助言から助言する。何曜日何時から行うかが事前に設定されているため、こうすると、各国とも世界トップクラスとされる日本の専門家の助言を受けられることへの期待は高い。

「デジタル技術の活用で、多くの国で迅速に展開することができた」と宮田副部長は強調する。その一方で、「デジタル技術の効果も期待できるのは人と人とのコミュニティが成り立っているからこそ。今回の協力の成果は全て、JICAが過去に培ってきたことでできている」と話す。

プロジェクトは、これまでの協力の形とデジタル技術を組み合わせた国際協力の新たなトレンドを見せる。

※ JICAによるデジタル化推進の取り組みは下記を参照：
<https://jaan.nippon.gov.jp/>

画面の向こうに30人のプロフェッショナル 国際協力への思い コロナ禍で結実

JICA 専門家（他）TCU 医師 顔島 尚彦氏



新型コロナウイルスの感染が広がると、専門医は不足している。途上国では、なおさらだ。国際協力機構（JICA）は、現地の状況に応じて進めている。自国のコロナ対策（他）スクリーニング・検査キットの提供、ICUの整備などを通じて、感染拡大を抑えようとしている。JICAは、こうした状況に、人工知能が活用されることを、早くから注目している。医療現場でも、医師が患者の病状を診断する際に、人工知能が活用される。JICAは、こうした状況に、人工知能が活用されることを、早くから注目している。医療現場でも、医師が患者の病状を診断する際に、人工知能が活用される。

「画面の向こうに30人のプロフェッショナル 国際協力への思い コロナ禍で結実」

JICA 専門家（他）TCU 医師 顔島 尚彦氏

Interview

March 2022

国際開発ジャーナル 87

No	掲載日	掲載媒体
19	2022年3月11日	JICA ウェブサイト ニュースレター（エルサルバドル①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220311.html



【エルサルバドル】中南米最大級の病院における医師・看護師向け能力強化を開始

エルサルバドルでは、昨年の現地時間11月23日に第1回合同調整委員会（JCC）が開催され、メキシコに続いて中南米地域2か国目として、プロジェクト活動が本格的に開始されました。

首都サンサルバドル市内に位置するプロジェクト対象病院のエルサルバドル病院は、もともと国際見本市及びコンベンションセンターであった建物を病院へと改修し、コロナ禍の2020年6月に稼働開始した新しい施設です。病床数1000床規模を誇るこの病院は中南米でも最大級の病院であり、救急救命を非営利団体やコミュニティに頼らざるを得なかった同国の集中治療のキャパシティを大幅に強化する役割を担っており、その全床がCOVID-19患者対応に当てられています。医療従事者数も医師が400名、看護師が700名を超える大所帯となっており、また、本病院には最新のモニタリング設備を備えた中央司令室が設置され、集中治療専門医がそこでモニター越しに各患者の状況を見ながら、現場の医師や看護師に指示を出せる仕組みが構築されています。この仕組みにより、常勤の集中治療専門医は集中治療室（ICU）に12名、中級ケアユニット（IMCU）には2名と圧倒的に少ない体制でありながら、ICTを駆使することにより少ない専門医でも大規模病院での患者治療を可能とする1つのモデルとなっています。

プロジェクトでは、他国における対象病院と異なり、こちらの病院ではICUではなくIMCU強化の二ーズに着目し、IMCUに勤務する集中治療を専門としない医師58名、看護師50名を対象にそれぞれ計8回ずつのリアルタイムでのオンライン研修セッションを2月までに終了しました。研修中は、日本の集中治療専門医および看護師と活発な質疑応答が行われ、同病院のエルサルバドル人医師、看護師に加えて、アルゼンチンやボリビアからも助っ人として同病院にきている集中治療医も参加し、国際色豊かな意見交換となりました。なかでも、人工呼吸中の患者の栄養管理に関して、チューブ等を使い、胃や腸などの消化管に栄養を直接送るための経腸栄養材（鶏肉や卵白、牛乳、豆等）をミキサーにかけて手作りして用いることがあるという現地の情報には、日本の専門医らも興味津々な様子でした。現在は次のステップとなるリモートカンファレンス（注）の準備が着々と進められています。

同病院においては、既に医療機材や遠隔モニタリングシステムが整備されているため、それらを活用して日本の専門医や看護師と現地の医療従事者をつなぎ、実際のコロナ患者の治療の場面で現地医師、看護師の力となれるよう、今後もプロジェクト活動を進めていきます。

（注）リモートカンファレンスでは、オンライン形式で日本とエルサルバドルの医師、看護師をつなぎ、エルサルバドル病院側からの症例発表と意見交換を行います。

活動現場での写真



中央司令室の様子



中央指令室で業務にあたるカウンターパートの専門医ら



医師とのリアルタイムオンライン研修の様子



看護師とのリアルタイムオンライン研修の様子

No	掲載日	掲載媒体
20	2022年3月16日	JICA ウェブサイト ニュースレター（インドネシア②）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220316.html



独立行政法人 国際協力機構

【インドネシア】ハサヌディン大学病院でのプレハブ集中治療室（ICU）建設地鎮祭

インドネシアには、ハサヌディン大学病院とインドネシア大学病院の2つのプロジェクトサイトがありますが、このうちハサヌディン大学病院では、医療設備の整備としてプレハブによるICU施設の建設がはじまりました。3月9日（水）には、工事開始にあたり地鎮祭が執り行われ、本事業の工事の安全と、新型コロナウイルス感染症対策の成功が祈願されました。

地鎮祭にはインドネシアの国教であるイスラム教のメッカ巡礼者らが招待され、儀式の取り仕切りはムスリムの祈禱者が行います。今回は、感染対策のために本来行われる「ヤギの屠殺」などは省略しましたが、インドネシアの伝統や習慣を尊重することは、プロジェクトを進めるために大切にしていることです。

同病院では、既に2022年1月から日本の医師・看護師によるスケジュールドケアを通じた現地医療従事者の能力向上支援が行われています。ハサヌディン大学病院のプレハブICU建設は2022年8月に完工する予定で、この施設の活用を通して、当地においてさらに多くのコロナ患者の診療と回復に寄与することを目指しています。



地鎮祭の様子1



地鎮祭の様子2

No	掲載日	掲載媒体
21	2022年3月17日	JICA ウェブサイト ニュースレター (パラオ①)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220317_01.html



【パラオ】プレハブ集中治療室（ICU）施設整備前調査

パラオにあるペラウ国立病院において、プレハブICUの施設整備前調査を2月6日から14日にかけて行い、整備に要する情報収集と病院側との協議ができました。

当初は、2022年1月に渡航を計画していましたが、直前に新型コロナウイルス感染症の陽性者がパラオ国内で劇的に増えたため、渡航を見送らざるをえませんでした。その後、渡航者の受け入れが再開され、2月によりやく実現したものです。

到着後4日間は毎日の活動前に病院医療関係のカウンターパートらによる協力のもと抗体検査・PCR検査を受けるなど、よく配慮された体制で活動に励むことができました。

専門家は1週間という短い滞在期間でしたが、保健大臣への表敬訪問、病院との協議、プレハブICUの設置予定場所の確認やJICA事務所への報告などを行いました。短い滞在期間の中で、当初の目的を達成するためのプロジェクトカウンターパートらの積極的な協力と調査の周到な事前準備が功を奏し、初期の目的を達成することができました。

今後、パラオ国ペラウ国立病院へはプレハブICU施設とICU医療機材が供与されますが、これら機材を有効活用して日本の医師・看護師と協働し、一人でも多くの新型コロナウイルス感染症患者の回復を目指します。



保健大臣と病院長との集合写真



保健大臣との会議の写真



No	掲載日	掲載媒体
22	2022年3月17日	JICA ウェブサイト ニュースレター（モザンビーク①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220317_02.html



【モザンビーク】第1回合同調整委員会の開催

モザンビークはアフリカ南東部に位置するインド洋に接した共和制国家で、首都はマプト、公用語はポルトガル語です。マプト中央病院内のCOVID-19トリートメントセンターでは、これまで症状が重症化する手前の中等症患者のみを扱っていましたが、しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大によって増大する医療ニーズに応えるため、重症・重篤患者への治療を開始し、本プロジェクトによる日本の集中治療専門医・看護師からの助言や指導が求められています。

2022年1月28日には、モザンビークでの第1回合同調整委員会（JCC）が開催され、保健省保健人材育成局長やマプト中央病院長、同病院COVID-19トリートメントセンター長及びJICA関係者、プロジェクトチーム等が出席しました。冒頭、マプト中央病院長とJICAモザンビーク事務所所長によるオープニングスピーチの後、日本人専門家から概要を詳しく説明し、これからはじまるリアルタイム型オンライン研修のスケジュールや現地側の参加者等も具体的に決まりました。JCCの締め括りには、保健省保健人材育成局長から「モザンビーク政府として同プロジェクトにできる限りの支援をする」という心強いスピーチがあり、マプト中央病院長からも「本プロジェクトが日本とモザンビークの間の最良の協力となるよう、オーナーシップをもって努力していく」との挨拶があり、プロジェクトは大きく動き出しました。



No	掲載日	掲載媒体
23	2022年4月4日	JICA ウェブサイト ニュースレター（ポリビア①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220404.html



独立行政法人 国際協力機構

【ポリビア】新型コロナ専用ICUドームにおける医師・看護師向け能力強化

ポリビア国におけるプロジェクトの対象病院である「日本病院」は、当国第2の都市、サンタ・クルス県サンタ・クルス市の保健医療サービスの拠点として、1986年に日本の無償資金協力により建設されました。当時の名称「サンタ・クルス総合病院」から、1994年には「日本病院」に改称され、80年代より継続的にJICAの技術協力プロジェクトが実施され、地域拠点としての役割も果たす重要な医療機関です。

新型コロナウイルス感染症対策においても、日本病院は地域の保健医療サービスの要として、COVID-19患者専用ICUを設けた「特設ドーム」2棟を設置し、対応に奮闘してきました。本プロジェクトでは、そのドームで活躍する医師・看護師らを対象に、2022年2月にリアルタイム型オンライン研修を開始しています。

続く3月末には「新型コロナICUドーム」用の医療機材を供与しました。現地の医師・看護師らは、ピカピカの血液ガス分析装置や超音波診断装置などを見て「クリスマスプレゼントをもらった子供のように嬉しい。」と喜んでいました。特にコロナ禍では妊婦の重症患者が多く搬送され、限られた機材での対応に苦慮したとのことで、同機材の活用による保健医療サービスの改善が大いに期待されます。

これを受け、4月には在ポリビア日本国大使館の伯耩田（ほうきだ）修大使がプロジェクトサイトを視察され、カウンターパートおよびプロジェクトの現地要員より協力内容の説明を受けられました。また、本プロジェクトの関係者には、同病院の35年前の建設当初や、90年代の技術協力プロジェクトに関わっていたメンバーもおり、長きにわたる日本病院における協力が両国の絆を脈々と紡いでいます。日本からはるか遠いポリビアで、心の通った協力が行われています。

活動現場での写真



伯耩田修大使によるプロジェクトサイト視察の様子（コロナICUドーム前）



カウンターパートのCOVID-19ICU看護師ら



COVID-19患者の治療にあたる看護師



プロジェクトの研修教材を予習中の看護師



プロジェクトで供与された超音波診断装置



医師とのリアルタイムオンライン研修の様子

No	掲載日	掲載媒体
24	2022年4月14日	JICA ウェブサイト ニュースレター（ケニア③）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220414.html



【ケニア】スケジュールドケアによる治療成果の報告があがってきています

ケニア・コースト州の新型コロナウイルス感染症患者を診る最高レベルの病院であるコーストジェネラル病院では、2月1日に看護師向け、2月2日には医師向けのスケジュールドケアが開始されました。当初は新型コロナウイルス感染症の症例のみを扱う想定でしたが、現地における懸命な努力もありピーク時よりも重篤な新型コロナ患者が少なくなっていることから、3月からは一般ICUの症例も対象に加えて実施することとなりました。

当該病院のICUには、新型コロナ患者でHIV／エイズを併発している、困難な状況を抱える患者がいました。第1回目のスケジュールドケアにおいて、現地のスタッフから相談を受けた日本人専門家は、この症例に有効なアドバイスを伝えました。その後、「その通りに診療したところ、病状が回復しその患者が無事にICUを退室できた」と現地の医療従事者から感謝の報告があり、既に目に見える成功実績があがっています。

特に一般ICUでは病床の半分以上が埋まり、医療従事者が日々忙しく診療、看護を行っています。その手助けとなるスケジュールドケアは、実際の現場で大変役に立つものであると評価が述べられています。具体的には、「オンライン研修は集中治療について多岐にわたり学ぶことができ、大変有意義であった。」「スケジュールドケアは実際の診療にとっても役立っている。」といったコメントが寄せられました。

同病院は、地域における教育病院でもあり、州内、国内の複数の大学と共に医療人材の育成を担い、また医療教育の研究も行っています。本プロジェクトのスケジュールドケアで培われた知識・能力を生かし、今後、同病院の教育面での役割を通じて、コースト州、ひいてはケニア国内の診療・看護の知識やレベルが向上していくことが期待されます。



No	掲載日	掲載媒体
25	2022年5月1日	JICA DX ウェブサイト
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/activities/issues/digital/jicadx/index.html



PARTNER
INTERVIEWS

01

医療DXから見える国際協力の未来 ～スタートアップ×VC×JICA 三者座談会～

株式会社T-ICU

中西智之

Beyond Next
Ventures株式会社

伊藤毅

JICA
(独立行政法人
国際協力機構)

二木緑葉

JICA DX

HOME

CASE STUDIES

PARTNER INTERVIEWS

ABOUT

JICAとデジタルで協働を
ご検討の方へ

10億人に革命を起こす。インド-アグリテックの挑戦

“売れない”と言われた遠隔医療で母子の命を救う

水道管×AI。世界の水問題をクレイジーに解決する

医療DXから見える国際協力の未来 ～スタートアップ×VC×JICA 三者座談会～



株式会社T-ICU代表取締役／医師 中西智之

2001年京都府立医科大学医学部卒業。熊本赤十字病院心臓血管外科、横浜市立大学麻酔科、守口生野記念病院救急科部長等を経て、2016年にT-ICUを設立、代表取締役社長に就任。地域医療に携わったことを契機に遠隔集中医療の必要性を痛感。アメリカの先進事例を参考にしながら、日本に遠隔集中医療を普及させるべく日々奔走している。



株式会社T-ICU取締役 小倉大

早稲田大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。トレイダーズホールディングス株式会社法務部長、株式会社コロプラ法務・総務グループマネージャー、株式会社ドン・キホーテ法務部・グループ戦略部マネージャー、株式会社ケイブ執行役員経営企画部長などを経て、2018年5月より株式会社T-ICU取締役COOとして参画。JICAとの協働においては契約など事務方の業務を担当。



「新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト」においてプロジェクトマネジメントを担当。

コロナ禍で現地に行けなくても、 デジタル×医療でプロジェクトを遂行



JICA
二木 結葉

コロナ対策で迅速性や広域性が求められる中、兵庫県にある貴社とも、そして現地ともフルリモートが前提で、JICAとしても「初めて」が多い試みでした。物理的な往来がなくてもデジタルの力で効果的な協力が出来たのは大きな収穫で、実際に世界各地の医療従事者からも続々と「実践的な学びが得られた」とうれしい声が届いています。

専務

アフリカ、アジア・オセアニア、中南米と言葉も、医療の水準も違う国々とのやり取りに不安はありましたが、目の前の患者を助けたいという思いは変わりませんでした。

私は小児科医で、今回はじめて本格的に国際協力の世界に飛び込みましたが、皆さん熱心に参加してくださいました。これは一企業の努力だけでは、実現は難しい取り組みだったと思います。



TICU
鴻池 善彦
医師

スタートアップにとってはまず舞台に立つことが重要ですが、当社の海外展開、そしてSDGsへの取組みにとっても大きな一歩でし





JICA
二木 莉佳

私たちSTI・DX室は、今後もベンチャー企業を含む民間企業との共創を推進していきます。

開発途上国の社会課題解決を通じ、マーケットを新規開拓したい企業側と、企業価値向上を期待する投資家。そしてODA事業のデジタル化を推進する私たちと、win-win-winの形をつくっていったら理想だと考えています。

実際面倒くさかった？ スタートアップと官僚機構のギャップ。



いろいろなことがきっちりしていないといけません。ただ日本の医療界全体の傾向としても、まだまだデジタル化やDXといった外の情報に接する機会が少ないという問題意識は持っています。

ICU
倉大
取締役

スピード感についてはたしかに思うところありますが、我々も現在30人規模で、10人くらいの頃と比べたらやっぱり違いますし、他の大企業や主要な顧客である病院と連携するときも、組織が大きくなると機動力が落ちるのは仕方ないですね。

あと今回は運よく開発コンサル会社と一緒に取り組んでいますが、全て自前では判断出来ないというジレンマが起業家としてはあります。



T-ICU
中西 賢之
代表取締役

他の公的機関のスキームでは、基本的に採択するのは企業1社のみですが、JICAさんのプログラムではフィールドが開発途上国ということもあり現地に精通した開発コンサルの手を借りることになりますよね。



BNVC
伊藤 毅

国内市場で成長途上のスタートアップも 海外で挑戦、社会貢献していく



に役立つ、ということがもっとあるかもしれませんよね。

かつてはまず国内市場でちゃんと売上げを立ててから海外への進出が主流でしたが、今は同時並行で海外も攻めるアグレッシブな姿勢が大事ですし、それを当たり前にする起業家が増えることも大事なことです。

藤
親
N
V
C
E
O

そういえば、AI研究をしている大学の先生から、研究室の卒業生が就職先としてスタートアップを選択肢に入れることが徐々に増えてきていると聞きました。少しずつ、流れが変わってきていますね。

あとは国や政府機関もそうですし、スタートアップも大手企業も、私たちのような投資家たちも、みんなで社会課題を解決するんだという文化を醸成しないといけないと思っています。

日本では、シリコンバレーのような資金的な供給も、中西さんや鴻池さんのように医師でありながらスタートアップに飛び込むような人材の流動性も低く、まだまだ足りていません。



中西
哲之
T
I
C
U
代表取締役



伊
藤
親
B
N
V
C
E
O

我々の「すべての病院に集中治療医をAnywhere, we care.」という理念に共感してくれたJICAとBNVと組ませていただくことで、私たち一社ではたどり着けなかったであろう国際協力の場に飛び込むことができました。

文化の醸成はまだまだ時間がかかると思っていますが、実際、私だけではなく医師のスタートアップも増え、そういうトレンドになりつつあるのは間違いないと思いますので、医療業界に限らず、いろいろな業界の方にぜひ社会課題の解決にチャレンジしてほしいですね。



No	掲載日	掲載媒体
26	2022年5月4日	JICA 広報部 Facebook 日本語 (エルサルバドル)
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=367871575379342&set=pcb.367871965379303

JICA 広報部
5月4日

【太平洋を越えて！#デジタル技術 で日本と中米の病院をつなぐ #新型コロナ対策】
開発途上国では #集中治療 の専門知識や技術が不足しています。#JICA は #コロナ禍 でも現地の #医師・#看護師 と日本の専門家をデジタルの遠隔技術でつなぎ、世界各地で現地の #集中治療室 (ICU) に対する助言を行っています。

#中米・#エルサルバドル の首都に位置する「エルサルバドル病院」は、病床数1000床規模で最新の中央指令室をもつ中南米最大級の医療施設です。ここでは昨年11月から活動がはじまり、100名を超える医師・看護師が研修を終えました。また、同じく中米の #グアテマラ にもある「サンビセンテ病院」でも、病床使用率改善のためにICU機能拡張工事と医療機材の供与を行い、各地で #遠隔モニタリング システムを用いた助言を受ける準備を進めています。

地球規模で新型コロナウイルスを封じ込め、安心安全な暮らしを取り戻すため、JICAは引き続き途上国の #感染症対策 への協力に取り組んでいきます。

◆ 遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト
 🇸🇻 エルサルバドル
<https://www.jica.go.jp/.../indonesia/026/news/20220311.html>
 🇬🇹 グアテマラ
<https://www.jica.go.jp/.../indonesia/026/news/20220226.html>
 #遠隔医療 #医療支援 #遠隔 #オンライン研修



No	掲載日	掲載媒体
27	2022年5月8日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター(メキシコ②)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220508.html



【メキシコ】プロジェクト初の日本人医師、看護師らによる現地活動を通して更なる信頼強化へ

2022年5月8日

ユカタン州では最高気温40℃を超える日が続く中、4月19日から29日まで、医師、看護師等の日本人専門家チームが現地医療機関を訪問し、集中治療に関する指導や意見交換を行いました。病院の位置するメキシコを訪問した日本人専門家らは、プロジェクト対象となっているバジャドリド病院を2日間、オーラン総合病院を3日間訪問し、様々な活動を実施しました。

プロジェクトにより今回新たに導入された医療機器の使い方のコツの指導や、遠隔集中治療におけるICT機材の具体的な活用のトレーニング、新型コロナウイルス感染症による重篤患者の腹臥位療法（【ふくがい】とは、呼吸不全の管理のために顔を自然な形で横に向け、うつぶせに寝た状態のこと）のシミュレーションをはじめ、現場の事情に合致した議論が行われました。

日本人専門家らもメキシコ人医療従事者らも、共にこのパンデミックの渦中、命を救うため多大な努力と技術開発を進めてきた同志であり、現地活動を終えるころにはすっかり昔からの親友、生涯にわたるカウンターパートというような雰囲気でした。これは日本人専門家が、遠隔で実施する技術協力であるからこそカウンターパートとしっかりと信頼関係を築き、お互いがリスペクトし合える関係であることが重要とこれまで考えてきており、今回の訪問で実感できた成果のひとつでもありました。

今回の現地活動の締め括りとして、首都で行われたメキシコ国外務省国際開発協力庁（AMEXCID）、保健省との合同報告会では、メキシコ側から、「是非、このプロジェクトで実証された遠隔ICU技術の成果、人材育成のノウハウ、必要となる施設機材にかかる知見について、現地でマニュアル化して、メキシコでの水平方向への波及（面的技術波及）を図りたい。」と大変意欲的な発言がありました。

今回の訪問で、日本人とメキシコ人が直接対面し、一緒に現場で活動する機会がうまく活用され、「アミーゴ（友だち）関係」から「お互いが信用し合い、リスペクトし合う関係」へと、もう一段アップしました。

活動現場での写真



オーラン総合病院での遠隔ICUのシミュレーション（モニター室スタッフとICU室のスタッフが連携して患者のケアを行います）



オーラン総合病院での遠隔ICUのシミュレーション（モニター室スタッフとICU室のスタッフが連携して患者のケアを行います）



愛情たっぷりのハートで勤務するオーラン総合病院のカウンターパートら



バジャドリド総合病院での伏臥位ケアのシミュレーション



オーラン総合病院コンテナICU病棟での日本人専門家による医療機器活用トレーニング



愛情たっぷりのハートで勤務するバジャドリド総合病院のカウンターパートら

No	掲載日	掲載媒体
28	2022年5月19日	JICA 広報部 Facebook 英語 (エルサルバドル)
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=305732555084013&set=pcb.305732671750668


JICA - Japan International Cooperation Agency
 5月19日 16:25

"Fighting #COVID19 Across the Pacific: Remote Digital Technology Connecting Hospitals in #Japan and #CentralAmerica"

Developing countries tend not to have the expertise and technology of #IntensiveCareUnit (#ICU). In response to the #COVID19pandemic, #JICA is using #DigitalTechnology that connects local #doctors and #nurses with Japanese experts to provide advice to local ICUs around the world. The El Salvador National Hospital, located in the capital of #ElSalvador, is... もっと見る





38 コメント1件 シェア3件

No	掲載日	掲載媒体
29	2022年5月20日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（パラオ②）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220520_02.html



独立行政法人 国際協力機構

【パラオ】医師・看護師に対するスケジュールドケア

パラオの首都コロールにある国内唯一の総合病院であるベラウ国立病院では、4月7日からスケジュールドケアを開始しました。これは日本の集中治療専門医師・看護師が現地の集中治療室勤務の医療従事者に対して治療や看護のアドバイスを定期的（週1回）に行うものです。

医師向けに実施したスケジュールドケアでは、国外移送を検討している重篤な患者に対して、新型コロナウイルス感染症の蔓延により移送できない場合の治療方針の提案や治療内容に対する意見交換が行われました。また、看護師向けのスケジュールドケアでは、研修で患者のせん妄（病気や薬の影響で一時的に意識障害や認知機能の低下などが生じる精神状態）に関する評価スケールを活用した症例についての意見交換が行われました。スケジュールドケア参加者からは、「とても助けになるセッションで、我々の日々の取り組みに役立つ内容だった。」「ICUのスペシャリストと患者の治療に関する議論の場を持つことができることはとても幸運だ。」といったコメントがありました。

ベラウ国立病院におけるスケジュールドケアは、2022年4月からこれまでに計6回、急性心筋梗塞や慢性肺炎の急性増悪など6症例を扱い、好評を得ています。

活動現場での写真



スケジュールドケアを受けるICU医師

No	掲載日	掲載媒体
30	2022年5月20日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（トンガ①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220520_01.html



【トンガ】医師・看護師に対するスケジュールドケア

トンガの首都ヌクアロファにあるトンガ唯一の第三次医療施設（生命の危険に瀕している状況の患者に対し、高度な医療を24時間体制で提供する医療施設）であるバイオラ病院では4月5日からスケジュールドケアを開始しました。これは日本の集中治療専門医師・看護師が現地の集中治療室勤務の医療従事者に対して、供与したICT機材を利用し治療や看護のアドバイスを定期的（週1回）に行うものです。新型コロナウイルス感染症患者のみならず一般ICUの症例も対象に加えて実施しています。

医師向けに実施したスケジュールドケアでは、治療方針だけではなく伝統医療を信じる文化的側面や、保険制度等の経済的側面まで議論がおよび幅広い視点からの診療となりました。また、看護師のスケジュールドケアでも医療資源が乏しい中で、どういった看護ケアを行っていくかについて活発な意見交換が行われました。スケジュールドケア参加者からは、「私たちの仕事の助けになり、とても参考になる議論だった。」「議論は非常に目新しいもので、新しい技術への理解を深めることができました。」といったコメントがありました。

バイオラ病院におけるスケジュールドケアは、開始からこれまでに計8回、心内膜炎や敗血症性ショックなど8症例を実施し、今後も活動期間が終了するまで毎週行う予定です。バイオラ病院のICUだけでなく、救急や小児科、内科など他の診療科からも参加希望が出ているため、今後はスケジュールドケアを通して、トンガの医療者の教育的な役割を担い、参加者の知識や診療、看護のレベルが向上していくことを期待しています。

活動現場での写真



供与機材（遠隔ICUシステムを含むICT機材：写真中央のベット横機材）が設置された病室



スケジュールドケアを行うICU看護師達

No	掲載日	掲載媒体
31	2022年5月24日	JICA 広報部 Facebook 日本語（トンガ、パラオ）
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo?fbid=384491867050646&set=pcb.384492207050612

JICA 広報部

5月24日 17:03

...

【#トンガ🇹🇴 #パラオ🇵🇼：小島嶼国の医療機関をデジタル技術でサポート】
 開発途上国では、特に#集中治療室（ICU）の専門技術が不足しています。#JICAは現地の医療機関と日本の専門家を#デジタル技術でつなぎ、物理的な移動ができない#コロナ禍においてもICU能力の強化に協力しています。

トンガのバイオラ病院とパラオのペラウ国立病院では、2021年10月から#オンライン研修を開始。以降、現地の#医師・#看護師は、実際の#感染症などの重症患者の症例を用い、日本の専門家から具体的な治療やケアについて学んでいます。両病院へはコンテナやプレハブのICU施設と医療機材の供与も予定しています。特にバイオラ病院はトンガ国内の医師のいない#離島の#保健所への人材派遣や知識提供を担うため、この活動がトンガの人々のために広く役立つことが期待されています。

▼新型... もっと見る

Asia-Pacific doc...

Asia-Pacific doctor, tra... (Kakajima Hiroki)

レコーディング中

あなた、衆議院議員中川正春（事務所）、他58人

シェア1件

No	掲載日	掲載媒体
33	2022年5月30日	JICA ウェブサイト ニュースレター（セネガル②）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220530.html

事業・プロジェクト
世界が抱える課題への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 事業ごとの取り組み ● 技術協力 ● 有償資金協力 ● 無償資金協力 ● JICAボランティア派遣事業 ● 国際緊急援助 ● 市民参加 ● 民間連携 ● 科学技術協力 ● 開発パートナーシップ ● 南南・三角協力 ● 調査研究 ● JICA開発大学院連携/JICAチエア ● 外国人材受入れ・多文化共生支援 ● 協力プログラム及び案件の形成 ● 新規実施予定案件 ● ODA建設工事の安全対策への取り組み
▶ プロジェクト・案件一覧
▶ 事業実績
▶ 事業評価

○ 【セネガル】 医師・看護師への研修から診療・看護への助言の開始へ

2022年5月30日

セネガル国ダカール州のダラルジャム病院では、2022年1月から本格的に活動がはじまりました。まずは1月から3月まで、ICUで勤務する医師・看護師の双方に、1回1時間、計8回のオンライン研修を実施。内容は、集中治療に必要な基礎知識とスキル、およびCOVID-19に関する基礎内容をまとめたものです。研修修了者数は医師26名中22名、看護師30名中26名と非常に多く、活発に質問も交わされ高い学習意欲が見られました。

続いて4月から5月には、医師・看護師それぞれ2回ずつ、計4回のリモートカンファレンス（症例検討会議）を開催しました。病院から過去症例を発表してもらい、「何がいけなかったのか」「もっとこうすれば良かった」など、より良い治療方針や看護ケアについて、ディスカッションを行います。徐々にセネガルと日本の医療現場の違いも見えはじめ、機器や技術の不足など、日本の専門家も対象病院のICUの事情について理解を深めていきました。

これらの活動と並行し、遠隔ICU通信システムの設置作業も順調に進みました。同システムにより、患者のリアルタイムな状態をベッドサイドモニターの鮮明な画像で確認できるほか、病院の電子カルテにもアクセスができるので、単なるオンライン会議以上に、よりの確な助言が可能となります。

そして、5月24日（看護師）・25日（医師）からはスケジュールドケアがはじまりました。具体的な相談内容として、COVID-19による重度の肺炎患者に関して、マスクによる人工呼吸の治療が行われていたところ、より望ましい気管挿管（チューブによる人工呼吸）の選択肢について、現地事情を考慮した上で助言しました。また看護師のセッションでは、患者の状態を観察しながら呼吸が楽になる体位を助言するなど、モニター越しに実践的な議論が交わされました。セネガル側からは「外部の専門家から異なる意見や助言をもらえることはこの病院にとって大変ありがたいこと。このプロジェクトには感謝している。今後も多くを学んでいきたい」と、感謝の言葉が述べられました。スケジュールドケアは、今後も毎週行っていく予定です。



医師のリモートカンファレンス




遠隔ICU通信システムの組立作業の遠隔支援



遠隔ICU通信システムのICUへの設置作業



No	掲載日	掲載媒体
34	2022年5月31日	JICA 広報部 Facebook 英語 (トンガ、パラオ)
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=314069330917002&set=pcb.314069450916990



JICA - Japan International Cooperation Agency
 5月31日 16:45 · 🌐

"Supporting medical institutions on #PacificIslandStates of #Tonga🇹🇴 and #Palau🇵🇼 with #DigitalTechnology"

Notably in #IntensiveCareUnit (#ICU), some developing countries tend not to have the medical expertise and technology. #JICA is applying digital technology to connect local medical institutions with Japanese experts so as to bolster their ICU capabilities against the #COVID19pandemic which has caused travel limitations.

#OnlineTrainings on medical/nursing cares and ope... もっと見る

 44
 シェア3件

No	掲載日	掲載媒体
35	2022年5月31日	JICA 広報部 Facebook 日本語 (JICA DX)
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo?fbid=389269883239511&set=a.313966447436522



JICA 広報部

5月31日 17:01 · 🌐

⋮

【JICA DX – Digital Transformation - ウェブサイト オープン】
#デジタル化 は開発途上国にも広がり、社会課題の解決と経済発展に大きな期待が寄せられる中、**#JICA** は、**#デジタル** のチカラで自らと世界を変革する取り組みを進めています。
#デジタル技術 の活用で一人ひとりの安全な暮らしと多様な機会・幸せを実現できる社会を目指し、「JICA DX ウェブサイト」を立ち上げました。これまで先端技術やイノベティブなアイデアを持つ **#ベンチャー企業** と連携した「ケーススタディ」や「パートナーインタビュー」など、JICAとデジタルで協働をご検討の方へ情報発信をしていきます。ぜひご覧ください！

🟢 JICA DX ウェブサイト
<https://www.jica.go.jp/.../issues/digital/jicadx/index.html>
#DigitalTransformation #DX



JICA DX

2022年5月オープン

JICA事業におけるDXへの取り組みを
ご紹介するページができました


77

シェア10件


いいね!


コメントする


シェア

No	掲載日	掲載媒体
36	未定（作成中）	2022年版 JICA 年報
	URL リンク先	なし

No	掲載日	掲載媒体
37	2022年6月	隔月刊 重症集中ケア 6・7月号（国際協力からの事例）
	URL リンク先	なし

特別企画

クリティカルケア領域の 専門性の高い看護師が 国を越えて行う 遠隔ICUプロジェクト ～JICA技術協力プロジェクトの事例から

株式会社T-ICU 執行役員
集中ケア認定看護師
森口真吾



2012年に集中ケア認定看護師資格取得。公立甲賀病院、京都大学医学部附属病院、京都医療センター、滋賀県立総合病院などを経て現在に至る。現在は国内の遠隔ICU事業だけでなく、JICA事業における発展途上国への遠隔ICU事業、特定行為研修事業、NEDO事業にも積極的に取り組んでいる。

■COVID-19により導入が 促進された遠隔支援

専門性の高い看護師の活躍が 促進された背景

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の拡大により、感染管理認定看護師の活躍が促進されたことは、皆さんの記憶にも新しいと思います。日本看護協会によると¹⁾、活躍が促進された専門性の高い看護師資格はほかにも、感染症看護専門看護師、急性・重症患者看護専門看護師、集中ケア認定看護師、救急看護認定看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師が挙げられています。具体的には①集中治療場における人工呼吸器・ECMO装着患者のケア、②スタッフナースの指導、③ケア調整などの場面で活躍が促進されています。COVID-19の拡大により、臨床現場において看護の専門性を発揮する機会が増加したことが、これらのことからよく見て取れます。

主に日本集中治療医学会専門医認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設が中心に参加しているNPO法人日本ECMOnetの横断的ICU情報探索システム（CRoss Icu Searchable Information System：以下、CRISIS）によると²⁾、2022年4月25日時点で、国内のCOVID-19における人工呼吸治療の成績累計は、軽

快6,780例、死亡1,824例と報告されており、8,600例程度の症例をすでに管理してきています。

一方で、2021年8月には日本集中治療医学会が日本のICUベッド数などについて報告しています³⁾。それによると、総ICU病床数は7,015床、ICUに準ずる病床数は全国で1万3,003床と明記されています。ICUに準ずる病床での人工呼吸患者数などは、先ほどのCRISISデータの施設には含まれていませんが、これらの病床でも多くの人工呼吸器装着患者を管理していたことが想像できます。つまり、今回のCOVID-19パンデミックでは、平時では人工呼吸器装着患者をあまり管理しない場所でも管理せざるを得なくなったため、人工呼吸ケアに不慣れた医療スタッフが対応しなければならなくなりました。これらのが、専門性の高い看護師の活用ニーズが高まったことにつながったと理解できるのではないのでしょうか。

オンラインにおける専門性の高い 看護師の活用

しかしながら専門性の高い看護師数は限られており、すべての施設で現場の実践・指導・相談を行うことは到底不可能です。それを解決するために、COVID-19により導入が進んだのが遠隔での支援です。「遠隔支援」

や「遠隔医療」と聞くと、患者を対象としたオンライン診療をイメージするかもしれませんが。しかし、医療従事者（医師または看護師）が医療従事者（医師または看護師）を支援する遠隔医療もCOVID-19により進んできています。日本看護協会は、看護職のための感染管理やメンタルヘルスに関する相談窓口を開設（メール・電話・Web対応）しています⁴⁾。ここでは、感染管理やメンタルヘルスにおいて高い専門性をもつ看護師がオンラインで相談を受け、助言・支援をしています。また、認定看護師・専門看護師・認定看護管理者などが組織を越えて活用されることで、看護の質の向上に寄与できるように、リソースナース活用などの取り組みを実施している都道府県の看護協会もあります⁵⁾。

クリティカルケア領域においても、その専門性を活用し、遠隔からICUを支援する“遠隔ICU”があります。日本集中治療医学会ad hoc遠隔ICU委員会が、2021年4月に遠隔ICU設置と運用に関する指針を作成し公開したことから、今後さらに整備が進んでいくことが想像できます⁶⁾。したがって、遠隔医療が進んできたことで、専門性の高い看護師は今まで以上に施設の垣根を越えて、高い専門性を提供できるようになってきていると言えるのではないのでしょうか。

■海外における 遠隔ICU支援の実際

現在、筆者が所属しているT-ICUでは、国内だけではなく、海外の開発途上国を対象とした遠隔ICU支援を実施しています。専門性の高い看護師の支援は国内だけでなく、海外へも広がっています。本稿では、その海外での遠隔ICU支援について紹介します。紹介す

るプロジェクト名は、JICAの技術協力プロジェクトとして取り組んでいる「新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト」です⁷⁾。

開発途上国への支援のあり方の調査

COVID-19は日本だけでなく、世界中に感染拡大を起こし、もちろん開発途上国にも多大なる影響を与えています。感染が拡大する中で、開発途上国においては重篤患者やその恐れのある患者の診療を担う医師・看護師などの医療従事者の対応力が不足しており、感染者を隔離して治療を行うICUも不足しています。その中で、各国への支援のあり方などを検討するニーズ調査が2020年12月から「感染症流行時の遠隔ICU支援のあり方に係る情報収集・確認調査」として始まり、T-ICUも専門家として参加しました。すべての調査を遠隔で実施するため、情報収集に非常に苦労しましたが、医療の質の指標などを用いながら、各国へのニーズ調査を進めていきました。

それらの調査結果を踏まえ、今回のプロジェクトがスタートしました。プロジェクトの対象国は、集中治療領域の保健医療システムの強化が必要とされた開発途上国であり、具体的な国名は「インドネシア・トンガ・パラオ・エルサルバドル・ポリビア・グアテマラ・メキシコ・モザンビーク・セネガル・ケニア」となりました。プロジェクト目標は、対象国の「対象病院において、新型コロナウイルス感染症をはじめとする重症患者を管理・治療するための集中治療医療サービス提供能力が強化される」と掲げられ、具体的な活動としては表1にあるように、Dr to Drのみならず、Ns to Nsの看護支援などが含まれました。

表1 ■「新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト」における具体的な活動内容

- 日本の集中治療専門医・看護師による遠隔での、感染症診断・治療を含む集中治療に関する医学的事項、および遠隔ICU通信システムの運用に関する研修などが実施される。
- 日本の集中治療専門医・看護師による遠隔での、Dr to Dr・Ns to Nsの症例に対する技術的助言と能力強化プログラムが実施される。
- 遠隔ICU通信システムおよび臨時用ICU医療設備・資機材などが導入される。

スペシャリスト看護師の役割

現在、本JICAプロジェクトには20人を超える急性・重症患者看護専門看護師、集中ケア認定看護師らに支援をいただいています。ここからは、彼らスペシャリスト看護師の役割について紹介します。

遠隔での研修講師

まずは遠隔での研修講師です。集中治療における基礎的な研修会を各国8回実施します。内容はモニタリング、フィジカルアセスメント、敗血症患者のケア、PICS、COVID-19関連の感染管理・呼吸ケアなどです。各国で使用しているデバイスや導入しているツールなどが異なり、質問の内容も国ごとに大きく異なりますが、細かな内容にも対応をいただいています。

カンファレンスへの参加

次にカンファレンスへの参加です（写真）。先方がまとめた症例に対してディスカッションを深めます。腹臥位療法やギランバレー症候群患者のケア、看護職員のメンタルヘルスケアなど内容は多岐にわたり、各国の取り組みや看護の現状を知る貴重な機会となります。

実際の遠隔ICU支援

最後に実際の遠隔ICU支援です。遠隔ICUには3つのモデルがあると言われています（表2）。その中でも、あらかじめ時間を決めて対象病院を支援する「計画的ケアモデル」と同義である「スケジュールドケアモデル」という方法で支援を行っています。

写真 ■ 実際の支援の様子



インドネシア大学病院とのカンファレンス



ボリビアのサンタクルス病院とのカンファレンス



グアテマラのサンビセンテ病院とのオンライン研修会

表2 ■ 遠隔ICUモデル

持続ケアモデル	決められた時間内で患者を絶え間なくモニタリングすること (例として、8～24時、12時間、24時間)
計画的ケアモデル	事前に定めた計画に従って、定期的な回診をするモデル (患者の回診の際に共有するなど)
急変時対応モデル	警告や必要時に介入するモデル (オンコール体制、モニターのアラームに対応など)

日本集中治療医学会ホームページ：遠隔ICU設置と運用に関する指針
—2021年4月—

各国によって看護師の知識に差があるため、必要な情報が可能な限りスムーズに取得できるように専用のシートへ患者情報を記入してもらい、遠隔ICT機器を用いて患者の様子をカメラなどで閲覧しながら看護の助言を行います。各国によって看護師の役割・看護師と患者の比率、ケアの視点もさまざまです。そのため、各国の背景に応じた助言も非常に重要になります。しかし、国は変われど、患者の早期回復のために看護をすることは同じです。日本側のスペシャリスト看護師は、今までの実践知を踏まえ、時にはエビデンスに基づいた看護のアドバイスを日々各国のICU看護師たちへ提供してくれています。

プロジェクトを通じて感じたこと

支援病院からは感謝の声も多く、支援を重ねるごとにプレゼンテーション能力が向上してきている国もあります。言葉の壁や文化の壁がありますが、ICU看護師としての誇りはどの国の看護師も持っていることを遠隔であっても感じています。国外にも、我々スペシャリスト看護師の支援を待っている医療者はたくさんいることが、今回のプロジェクトで分かりました。そしてこのように、組織・国をまたいだ支援ができていくのは、遠隔医療が発展したからだだと思います。今後、遠隔支援でつながった開発途上国のICU看護師が来日し、学べる時が早く来ることを期待したいものです。

本稿では、日本の病院で従事しながら、開発途上国のICU看護師を支援するという国境を越えたスペシャリスト看護師の活躍について紹介しました。これからもスペシャリスト看護師の活躍の場は、ますます広がっていくと思います。遠隔医療がさらに進めばなおさ

らずです。支援を求める看護師の思いに応えられるように、これからもアンテナを張り巡らせながらさまざまなプロジェクトを進めていきたいと思っています。

引用・参考文献

- 1) 日本看護協会ホームページ：新型コロナウイルス感染症対策に関する日本看護協会の取り組み
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/press/pdf/press_conference0422/document.pdf (2022年4月閲覧)
- 2) NPO法人日本ECMOnetホームページ：COVID-19重症患者状況の集計
<https://crisis.ecmonet.jp> (2022年4月閲覧)
- 3) 日本集中治療医学会ホームページ：各都道府県別ICUおよびICUに準ずる治療室のベッド数
https://www.jsicm.org/news/upload/icu_hcu_beds.pdf (2022年4月閲覧)
- 4) 日本看護協会ホームページ：新型コロナウイルス感染症に関する看護職の相談窓口
https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/covid_desk/index.html (2022年4月閲覧)
- 5) 兵庫県看護協会ホームページ：Hyogoリソースナースnet
https://www.hna.or.jp/member/m_education/utilization_of_nursing_administrator_01/ (2022年4月閲覧)
- 6) 日本集中治療医学会ホームページ：遠隔ICU設置と運用に関する指針—2021年4月—
https://www.jsicm.org/pdf/Guidelines%20of%20Tele-ICU_JSICM2021.pdf (2022年4月閲覧)
- 7) 国際協力機構ホームページ：プロジェクト概要
<https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/outline/index.html> (2022年4月閲覧)



最新刊

新人相談員、MSW、ケアマネや
退院支援看護師に最適！
**患者に最適な制度の
活用法がわかる！**

編者 伊東利洋
有限会社いとう総研 取締役

A4変型 オールカラー 320頁
定価 4,400円(税込)



**制度の仕組みや使える権利など患者・家族といっしょに
指さして説明しながら見て、考え、納得できる。**

2022年度版改訂のポイント

- 法・制度改正などを反映
 - 民法改正(成人年齢)
 - その他(年金制度、難病法ほか)
- 新規追加した項目
 - 支援対象者一覧
 - ヤングケアラー
 - 育児休業・介護休業の統計
 - 精神障害の労災認定
- 大幅変更した項目
 - 直近の法改正まとめ
 - 新型コロナウイルス感染症に伴う支援

見本ページは

日総研 601929

検索

No	掲載日	掲載媒体
38	2022年6月6日	インドネシア Facebook 英語版
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=318435650480370&set=pcb.318435843813684

JICA - Japan International Cooperation Agency

自己紹介
The official Facebook Page of Japan International Cooperation Agency (JICA)

ページ - 政府機関
jicajp
jicagov/english

写真 [すべての写真を見る](#)

JICA - Japan International Cooperation Agency
"Supporting #IntensiveCareUnit (ICU) in Indonesia with #DigitalTechnology"
The need to treat critically ill patients in ICUs has surged due to the #COVID19 pandemic, so #JICA is using digital technology to connect local medical institutions in developing countries with experts to remotely help bolster their capabilities.
In #Indonesia, the University of Indonesia Hospital and the Hasanuddin University Hospital are using a Japanese ICU remote system to enhance their performance. Japanese experts remotely listen to the treatment policies actually applied to patients at the counterpart hospitals that same day, as well as to the issues local #doctors and #nurses face, and then suggest how to resolve the cases through their expertise and discussions.
Furthermore, the project is conducted respecting Indonesian traditions and customs, such as holding a ground-breaking ceremony for construction of the #ICU in the local manner based on the beliefs of this Islamic nation.
#IntensiveCare #DigitalTechnology

プライバシー - 写真の権利 - 広告 - Ad Choices - Cookie - サイト - News © 2022

No	掲載日	掲載媒体
39	2022年6月15日	インドネシア（日本語）Facebook
	URL リンク先	https://www.facebook.com/photo/?fbid=399111132255386&set=pcb.399111338922032

JICA 広報部

自己紹介
独立行政法人 国際協力機構（JICA）広報部の公式Facebookページです。
<https://www.jica.go.jp>

ページ - 政治帰属
jica.go.jp
編集の履歴

写真 [すべての写真を見る](#)

【インドネシアの集中治療室（ICU）をデジタル技術でサポート】
*コロナ禍において重症患者の治療ニーズが高まるICU。*JICAは現地の医療機関と日本の専門家を*デジタル技術*でつなぎ、開発途上の医療機関をサポートしています。
インドネシア大学病院やハサメディン大学病院では、遠隔ICU通信システムを活用し、日本人専門家が、まさにその現場のICUに入院している患者に関する治療方針や現場の*医師*が抱える課題を聞き、専門的なインプットや議論を通じて解決に導いています。また、ICUの建設工事にあたっては、イスラム教を国教とする現地のやり方に沿った地鎮祭を行うなど、インドネシアの伝統や習慣を尊重してプロジェクトを進めています。

もっと見る

プライバシー - 利用規約 - 広告 - Ad Choices - Cookie - その他 - Help © 2022

No	掲載日	掲載媒体
40	2022年6月15日	JICA ウェブサイト ニュースレター（インドネシア③）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220629.html

事業・プロジェクト
世界が抱える課題への取り組み
● 事業ごとの取り組み
● 技術協力
● 有償資金協力
● 無償資金協力
● JICAボランティア派遣事業
● 国際緊急援助
● 市民参加
● 民間連携
● 科学技術協力
● 開発パートナーシップ
● 南南・三角協力
● 調査研究
● JICA開発大学院連携/JICA チェア
● 外国人材受入れ・多文化共生支援
● 協力プログラム及び案件の形成
● 新規実施予定案件
● ODA建設工事の安全対策への取り組み
▶ プロジェクト・案件一覧
▶ 事業実績
▶ 事業評価

【インドネシア】ハサヌディン大学にてプロジェクト参加国横断の合同セミナーを開催

2022年6月29日

6月11日（土）にインドネシア共和国・南スラウェシ州のハサヌディン大学病院にてプロジェクト参加国横断の合同セミナーを開催しました。

このセミナーでは、本プロジェクトが対象としている各国の医療機関同士の知見や経験の共有を目的に、共通して関心の高い課題を取り上げ、専門家による講演やディスカッションを行いました。

今回のセミナーでは「重症小児患者に対する非侵襲的人工呼吸（注1）および高流量経鼻療法（注2）」をテーマに、聖マリアンナ医科大学小児科特任教授の川口敦先生を講師にお招きして開催しました。（（注1）マスクやマウスピースを使用して機械的呼吸を補助する方法）（（注2）加温加湿した一定濃度の酸素を鼻から投与方法）

小児集中治療（ICU）の中でも各国関心が高い分野で、インドネシア、ケニア、トンガ、パラオ、フィジーなどから約150人と多くの医療関係者がオンラインで参加しました。

まずハサヌディン大学病院の医師から、小児科入院患者に係る診断や治療についての症例発表が行われた後、川口先生より、同分野における歴史的な経緯や、臨床的に重要なエビデンスを具体的なデータを交えて多数紹介をいただきました。実際の治療においてこの療法をいかに活用するかについての説明も多く、参加者アンケートでは7割以上から「今後の自分の診療に活用できる内容だった」と回答がありました。

今後も本プロジェクトの他対象地域にて、同様のセミナーを開催していく予定です。



ハサヌディン大学病院医師のプレゼンの様子



川口先生のプレゼンの様子



プロジェクト参加国横断の合同セミナー集合写真

No	掲載日	掲載媒体
41	2022年7月15日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（グアテマラ②）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220715.html

事業・プロジェクト
世界が抱える課題への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 事業ごとの取り組み ● 技術協力 ● 有償資金協力 ● 無償資金協力 ● JICAボランティア派遣事業 ● 国際緊急援助 ● 市民参加 ● 民間連携 ● 科学技術協力 ● 開発パートナーシップ ● 南南・三角協力 ● 調査研究 ● JICA開発大学院連携/JICAチェア ● 外国人材受け入れ・多文化共生支援 ● 協力プログラム及び案件の形成 ● 新規実施予定案件 ● ODA建設工事の安全対策への取り組み
▶ プロジェクト・案件一覧
▶ 事業実績
▶ 事業評価

【グアテマラ】サンビセンテ病院ICU機能拡張工事完工除幕式とスケジュールドケアを通じた成果拡大

2022年7月15日

グアテマラの首都グアテマラ市に位置するサンビセンテ病院で、2022年6月15日、本プロジェクトを通じてICU病棟の改修と医療器材等を支援した施設の完工除幕式が行われました。山元大使駐グアテマラ特命全権大使や保健省医療施設調整官のテルマ・アギラール氏にもご出席いただき、新しくなったICU病棟のテープカットや両国の国旗をあしらった銘板の除幕、内部の視察などを行いました。現地らしい生の音楽演奏もあり、オンラインで参加した日本人プロジェクト関係者や病院関係者などを含めて100名以上が参加した賑やかな式典となりました。

6月末には改修されたICU病棟に設置されたプロジェクト機材を使用したスケジュールドケア（注）を開始し、オンラインで日本・グアテマラ両国の医師同士、看護師同士をつないだ定期的な症例検討を実施しています。

特に現地の夜間に実施している医師のセッションでは、一人体制で夜勤を務める現場の医師に加え病院の指導医も自宅から接続し、リアルタイムで患者の様子を見ながら三者でのディスカッションが行えるようになりました。

本プロジェクトのグアテマラでの活動は本年9月30日をもって終了予定ですが、プロジェクトを通して機能が拡充されたICUと、ICUで活躍する医療従事者によってその成果がさらに発展されていくことが期待されています。

（注）スケジュールドケア：新型コロナウイルス感染症患者を含むICU患者の治療やケアに関して定期的に行われる、日本と現地の医療従事者間のオンライン症例検討と助言

活動現場での写真



改修されたICU病棟（外観）



改修されたICU病棟（病床）



プロジェクトで整備したICUモニタリングエリアの使用研修を受ける夜勤医師



除幕式記念撮影



改修されたICU病棟（除幕された入り口横の記念プレート）



改修されたICU病棟（モニタリングエリア）



除幕式：山元大使（右から2人目）、クアン院長（右から3人目）、保健省医療施設調整官アギラール氏（右から4人目）、JICAグアテマラ事務所・中山職員（右から5人目）ら



日本人専門看護師と症例検討をする現地看護師

No	掲載日	掲載媒体
42	2022年8月2日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（メキシコ③）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220802.html



独立行政法人 国際協力機構

【メキシコ】オーラン総合病院コンテナICU開所式とスケジュールドケアを通じた成果拡大

2022年8月2日

2022年7月11日、ユカタン州メリダ市にある野口英世博士ゆかりの地にあるオーラン総合病院でコンテナICUの開所式が行われました。パンデミックのなかで始まったコンテナICU建設は物流問題、半導体不足、医療資機材需要急増など多くの困難を関係者の熱意と努力により乗り越え、無事に完成しました。

このコンテナICUは、コンテナ内部が陰圧（負圧）調整されるように作られています。コンテナ内部の気圧を周囲の環境よりも低く保つことによって、ウイルス等病原体が外部に放出されないような設計となっています。

初めてメキシコでCOVID-19ウイルスが発見されて以来、2022年7月20日までに652万人の陽性が確認され、32万6,764人の命が奪われました。（メキシコ保健省調べ）

今年5月以降、一時期は感染者が減少しつつあったものの、7月になると再び新型コロナ感染が拡大、ICU病床も占有率が上昇しました。そのため今回はタイムリーなコンテナICU病棟の開所となりました。このコンテナICUを拠点にして、現在実施中のスケジュールドケアが一層効果を発揮できることを期待しています。

ユカタン州政府は本プロジェクトの有効性に注目し、プロジェクトによって育成された医療従事者や通信技術者を活用して周辺都市・農村地区への技術普及拠点としてオーラン総合病院を位置づけることとしています。さらに、メキシコ国中央政府はここで培った遠隔医療技術モデルをメキシコ国内及び近隣国に波及していきたいと考えています。

100年以上前にこの地で黄熱病を研究した野口博士の功績は今もなお称えられ、今日でも日本とメキシコは医療技術でつながっています。本プロジェクトはカウンターパートを通じて、その成果がさらに発展されていくことが期待されています。

活動現場での写真



旧オーラン総合病院野口英世博士像とカウンターパートたち



オーラン総合病院に建設されたコンテナICU（外観）



供与されたICT機材設置するために新設されたICUモニタリングルーム



オーラン総合病院に建設されたコンテナICU（内部）



開所式記念撮影



供与されたICT機材設置するために新設された新型コロナウイルスICU病棟

No	掲載日	掲載媒体
43	2022年8月30日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（中南米）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220830.html

オンラインセミナーの様子 **セミナーのフライヤー**



No	掲載日	掲載媒体
44	2022年9月16日	JICA 技術協力ウェブサイト ニュースレター（トンガ②）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220916.html

事業・プロジェクト

世界が抱える課題への取り組み

● 事業ごとの取り組み

- 技術協力
- 有償資金協力
- 無償資金協力
- JICAボランティア派遣事業
- 国際緊急援助
- 市民参加
- 民間連携
- 科学技術協力
- 開発パートナーシップ
- 南南・三角協力
- 調査研究
- JICA開発大学院連携/JICA
チェア
- 外国人材受入れ・多文化共
生支援
- 協力プログラム及び案件の
形成
- 新規実施予定案件
- ODA建設工事の安全対策へ
の取り組み

▶ プロジェクト・案件一覧

▶ 事業実績

▶ 事業評価

● 【トンガ】 コンテナICUと医療機材の引き渡し式

2022年9月16日

2022年9月15日、トンガ王国ヌクアロファ市バイオラ病院でのコンテナICU設置工事とICU医療機材の設置が完了しました。翌16日にはウルカララ皇太子殿下、ヴァイブル首相代行、シアレ保健省次官、アナ病院長、宗永特命全権大使、高島JICAトンガ支所長ほか関係者のご出席を得てトンガの文化、宗教に則った引き渡し式と除幕式が行われました。

シアレ保健省次官は来賓あいさつの中で、コンテナICU、ICU医療機材及び遠隔通信機材を活用した医療サービスの提供はトンガでは初めての導入であり、バイオラ病院だけでなくトンガにおける集中治療サービスの“Open another milestone”である（トンガ全体の集中治療サービス向上にもつながっていく）と述べられ、本コンテナ・機材の有効活用に向けた力強い決意を表明されました。

式典後、皇太子殿下をはじめ参加者はコンテナICUを視察されました。参加者からはコンテナと聞いて港に山積みコンテナを想像したが、実物を見るとコンテナと言われなければ分からないし、ここまできれいに仕上がっていることや最新設備が備わっていることへの感嘆の声が聞かれました。

今後バイオラ病院を中心に集中治療サービスが離島を含めた医療機関に展開され、本プロジェクトの成果が広くトンガ国内に波及することが期待されています。

活動現場での写真



銘板の除幕式（右より、ウルカララ皇太子殿下、ヴァイブル首相代行、宗永大使、高島JICA支所長、シアレ保健省次官）



鍵のレプリカ進呈（右より、ウルカララ皇太子殿下、高島JICA支所長、宗永大使）



コンテナICU内を視察されるウルカララ皇太子殿下



コンテナICU内の様子



コンテナICU外観

No	掲載日	掲載媒体
45	2022年9月20日	JICA ウェブサイト ニュースレター（ケニア④）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220920_01.html

事業・プロジェクト
世界が抱える課題への取り組み
● 事業ごとの取り組み
● 技術協力
● 右償資金協力
● 無償資金協力
● JICAボランティア派遣事業
● 国際緊急援助
● 市民参加
● 民間連携
● 科学技術協力
● 開発パートナーシップ
● 南南・三角協力
● 調査研究
● JICA開発大学院連携/JICAチエア
● 外国人材受け入れ・多文化共生支援
● 協力プログラム及び案件の形成
● 新規実施予定案件
● ODA建設工事の安全対策への取り組み
▶ プロジェクト・案件一覧
▶ 事業実績
▶ 事業評価

○ 【ケニア】 プレハブICU施設が始動

2022年9月20日

ケニアでは、2021年8月からモンバサ郡コーストジェネラル教育リファラル病院（以下、コーストジェネラル病院）の医師及び看護師を対象に、日本からオンラインでスケジュールドケア（注）を行ってきたソフト支援と並行し、10床のICU病床を備えたプレハブ（プレハブICU）の設置及び日本から納入したICT機材の据え付けが2022年7月29日に終了しました。

同プレハブICUと医療機材は、新型コロナウイルス感染症の重症患者の治療を目的に供与されたものですが、流行が落ち着いた際には新型コロナウイルス感染症以外の治療にも有効に活用されることが期待されております。そのため現在は新型コロナウイルス感染症の重症患者がいないため、一般のICU患者2名が入院しています。

8月24日の医師・看護師合同のスケジュールドケアでは、プレハブICUから初めてICT機材を使用して実施されました。

ケニアのプレハブICUと日本をオンラインでつなぎ、ケニア側がX線画像を日本側医師・看護師に共有し患者の症状を説明しました。オンライン画面後方では、ケニア人の看護師が真新しいICUで忙しく働く様子をうかがうことができました。

また供与された機材を適切に使用できるように医師・看護師にカメラやマイクスピーカーの使い方などICT機材の研修を行いました。

9月からはプレハブICUでカメラ・スピーカーをより効果的に利用したスケジュールドケアを実施し、患者の実際の様子を見ながら日本側から、より詳細で的確なアドバイスをケニア側に伝えていく予定です。

（注）スケジュールドケア：新型コロナウイルス感染症患者を含むICU患者の治療やケアに関して定期的に行われる、日本と現地の医療従事者間の症例検討と助言

活動現場での写真



患者のX線写真を見せる看護師



プレハブICU室内



プレハブICU室内



プレハブICU外観



プレハブICU外観

No	掲載日	掲載媒体
46	2022年9月20日	JICA ウェブサイト ニュースレター（インドネシア④）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220920_02.html

事業・プロジェクト
世界が抱える課題への取り組み
● 事業ごとの取り組み
● 技術協力
● 有償資金協力
● 無償資金協力
● JICAボランティア派遣事業
● 国際緊急援助
● 市民参加
● 民間連携
● 科学技術協力
● 開発パートナーシップ
● 南南・三角協力
● 調査研究
● JICA開発大学院連携/JICAチエア
● 外国人材受け入れ・多文化共生支援
● 協力プログラム及び案件の形成
● 新規実施予定案件
● ODA建設工事の安全対策への取り組み
▶ プロジェクト・案件一覧
▶ 事業実績
▶ 事業評価

【インドネシア】プロジェクト活動の総括・第2回合同調整委員会を開催

2022年9月20日

2022年9月5日、西ジャワ州インドネシア大学病院（RSUI）と南スラウェシ州ハサヌディン大学病院（RSUNHAS）を対象にしたプロジェクト活動の総括として第2回合同調整委員会が開催されました。

RSUIでのオフライン参加者と、RSUHを含むオンライン参加者で戴いたハイブリッド形式で実施し、2021年9月からの約1年間のプロジェクト活動を振り返りました。日本・インドネシア両国のプロジェクト関係者が出席し、両病院での全活動の成果や評価結果、課題等を確認しました。

本委員会前には日本人専門家が両病院を訪問して進捗確認委員会を開催。その中で出た両病院からのフィードバックや今後の活動に向けた提言等も委員会で共有され、活発な意見交換が行われました。

教育文化研究科学省（The Ministry of Education, Culture, Research and Technology：MoECRT）からは、両病院は西部・東部インドネシアを代表する大学病院であり将来的にカリマンタン島やスマトラ島等にも遠隔診療を普及していく拠点となることから、地域の医療状況の改善にもつなげる本プロジェクトを実施したJICAに対し感謝の言葉を頂きました。

RSUIからは、スケジュールドケア（注）等を通じてICUの医師や看護師の知識・技能の向上を図ることにより、ICUの機能改善や診療の質の向上、人材育成に本プロジェクトが大きく貢献したと述べられました。

RSUNHASからは、最新設備を備えたプレハブICUや新規の医療機材、スケジュールドケアを通じた人材育成は大変有益で地域医療サービスの改善にも貢献したと述べられ、今後は同大学病院のネットワークを活用し東部インドネシアの遠隔地域における医療改善にも積極的に取り組みたいとの強い意向を確認できました。

インドネシアでの遠隔医療の普及に関して本プロジェクトがもたらしたインパクトの大きさ、今後の技術協力に対する期待の高さ、インドネシア国内の地域医療格差の改善に向けた遠隔医療体制の拡充に対する熱意が、教育文化研究科学省及び両病院より伝わりました。さらに、本プロジェクトの知見を他大学とも共有するためのセミナーを開催することも両病院から提案され、今後プロジェクト終了までに同セミナーを実施する予定です。

（注）スケジュールドケア：新型コロナウイルス感染症患者を含むICU患者の治療やケアに関して定期的に行われる、日本と現地の医療従事者間の症例検討と助言

活動現場での写真



RSUNHASで開催したPRCの様子



RSUIで開催したPRCの様子



JCCの集合写真

No	掲載日	掲載媒体
47	2022年9月27日	JICA ウェブサイト ニュースレター（バングラデシュ①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220927.html

事業・プロジェクト
世界が抱える課題への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 事業ごとの取り組み ● 技術協力 ● 右側資金協力 ● 無償資金協力 ● JICAボランティア派遣事業 ● 国際緊急援助 ● 市民参加 ● 民間連携 ● 科学技術協力 ● 開発パートナーシップ ● 南南・三角協力 ● 調査研究 ● JICA開発大学院連携/JICAチェア ● 外国人材受け入れ・多文化共生支援 ● 協力プログラム及び案件の形成 ● 新規実施予定案件 ● ODA建設工事の安全対策への取り組み
▶ プロジェクト・案件一覧
▶ 事業実績
▶ 事業評価

【バングラデシュ】バングラデシュの民間総合病院SIHへの遠隔ICU支援が本格始動

2022年9月27日

2022年7月、「バングラデシュ国新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト（海外投融資附帯プロジェクト）【有償勘定技術支援】」を開始しました。

本プロジェクトでは、民間総合病院であるシップインターナショナル病院（Ship International Hospital）を対象に、日本の医師・看護師とシップインターナショナル病院の医師・看護師を通信システムで繋ぎ、日本・バングラデシュ間でCOVID-19等で重症化した患者をどのように治療・管理すべきかについて助言や指導等を行います。

本プロジェクトのメインとなるのがスケジュールドケアです。

スケジュールドケアは日本の集中治療を専門にする医師・看護師がICUの入院患者に関する治療についてシップインターナショナル病院の医師・看護師と話し合い、助言・指導を行います。そのためには通信システムを使用して患者の様子やCTスキャン・X線画像等のデータを共有し、患者の様態を正確に把握することが重要です。これには通信システムを適切に操作する必要があることから、事前に医師・看護師を対象に機材の使い方に関する研修を行い、2022年8月29日に医師向け、31日に看護師向けの初のスケジュールドケアを行いました。

初回のスケジュールドケアでは、意識不明で緊急搬送された後、意識が回復せずICUに移送され挿管・人工呼吸器でのサポートが行われた急性メタノール中毒・敗血症・急性心不全等と診断されたケースが取り上げられました。

最初、参加者は少し緊張した様子でしたが、治療・看護方針について熱い議論を重ねるうちに、現地からは「とても多くの事が学べる良い機会だ」と今後に期待する声が上がりました。日本側からは、「このケースは非常に難しいものであったがきちんと対応できている」と現場の対応を評価していました。今後もスケジュールドケアを重ね、シップインターナショナル病院の医師・看護師が集中治療に関する理解を一層深めると同時に、日本・バングラデシュ相互の信頼関係がより高まることが期待されています。

活動現場での写真



遠隔ICU通信システムの操作研修の様子



医師向けスケジュールドケアの様子



看護師向けスケジュールドケアの様子

No	掲載日	掲載媒体
----	-----	------

48	2022年9月27日	JICA ウェブサイト ニュースレター（中南米）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220927_02.html

● 【中南米地域】 中南米4か国でのプロジェクト活動も終了間近に

2022年9月27日

昨年より約一年間行ってきた中南米地域4か国（エルサルバドル、グアテマラ、ボリビア、メキシコ）での本プロジェクト活動の期間も、いよいよ残りわずかとなりました。

各国で実施されているスケジュールドケア（注1）の他、7月末から9月頭にかけては日本人専門家がエルサルバドル、グアテマラ、ボリビアの3か国に出張、終了後のプロジェクト成果の持続可能性や更なる発展を視野に入れた協議を現地の方々で行いました。

グアテマラ市サンピセンテ病院では限られた人人体制の中、本プロジェクトによってICU病棟の改修も実現し、スケジュールドケアでは当直となった一般医が日本人専門家との症例検討を通して患者ケアを学ぶことができました。

グアテマラ保健省は今後サンピセンテ病院の機能をさらに強化し、国内の呼吸器系疾患のリファレンス病院と位置づける見通しを持っています。

サンサルバドル市エルサルバドル病院は、全入院患者をカメラで管理できるモニタリングシステムが完備された中南米地域でも稀な大規模病院です。新型コロナ感染症拡大による医師不足問題解消のため、監視カメラをICU内に取り付けた事からはじまったシステムですが、現在は新型コロナ感染症以外のこれまで国内で治療できなかった症例にも活用するため、人材育成も含めた更なる病院機能の強化を図っています。

本プロジェクトが実施した研修にはそれまでICUに比べると手薄であった中間ケアユニット（注2）の医師、看護師が延べ1,000名以上参加し、日本人専門家との交流からたくさんの学びを得ました。

ボリビアのサンタクルス県サンタクルス日本病院では、職員用サッカー場に臨時に建てられた新型コロナ感染症専用ICUドームの医師、看護師を対象に能力強化を行って来ました。

日本病院内には、ICUが3つあり、その中でもICUドームは比較的若い医師や看護師が多く活気にあふれ、医師看護師がひとつのチームとなって業務や知識の習得に意欲的に取り組んでおり、いつも時間をオーバーするほど日本側と活発な質疑応答がなされてきました。

今後はボリビア保健省の国家遠隔保健プログラムとの連携も期待されており、ICUドームの医師や看護師による国内他病院・他地域への遠隔研修などが行われる予定です。

また8月30日には中南米地域4か国5病院の医師を対象にオンラインで地域横断的セミナーを開催しました。これを機に国をまたがった病院間の自発的な交流も芽生えつつあります。

本プロジェクトの中南米地域での活動はこの2022年9月末をもって終了となりますが、本プロジェクトを通して見えてきた各国および各国間の新たな取り組みと中南米地域の保健医療体制のさらなる強化が期待されます。

（注1）スケジュールドケア：新型コロナウイルス感染症患者を含むICU患者の治療やケアに関して定期的に行われる、日本と現地の医療従事者間の症例検討と助言

（注2）中間ケアユニット：ICUと一般病棟の中間レベルのケアを提供するユニット

活動現場での写真



改修したグアテマラ国サンピセンテ病院のICU病棟と活用されている供与機材の視察



エルサルバドル国エルサルバドル病院内のモニタリングルームより、日本と遠隔でスケジュールドケアを行う様子



ボリビア国日本病院のカウンターパートと地域総括専門家による会合



4か国5病院合同の医師対象の地域横断的セミナーの様子

No	掲載日	掲載媒体
----	-----	------

49	2022年9月30日	JICA ウェブサイト ニュースレター（アフリカ）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20220930.html

●【アフリカ地域】アフリカ地域横断的セミナーの実施

2022年9月30日

世界の様々な地域で実施してきた本プロジェクト。アフリカでは、ケニアのコースト・ジェネラル病院、モザンビークのマプト中央病院、セネガルのダラルジャム病院と、3カ国3病院で活動を行ってきました。

2022年8月25日、これら3病院をオンラインでつなぐ「アフリカ地域横断的セミナー」を実施しました。

アフリカは国・地域によって言語、文化、宗教が大きく異なります。

この3カ国においてもケニアは英語とスワヒリ語、モザンビークはポルトガル語、セネガルはフランス語が公用語と様々です。地理的にもアフリカ大陸の東部（ケニア）、南部（モザンビーク）、西部（セネガル）と離れています。

今回のセミナーでは、3カ国3病院が自由に意見交換し、お互いの経験やグッドプラクティス（良かった例や取り組みなど）を共有するとともに交流を深めることを目的とし、互いが意見を交わす貴重な機会となりました。

公用語が異なる3カ国をオンラインでつなげる、進行の難しいセミナーでしたが、通訳と質疑応答の方法に工夫をしたことでとても円滑に進めることができ、3カ国から49名が参加いただけました。

セミナーでは3病院を訪問した日本人専門家が各病院に対するコメントを述べた後、各病院からスケジュールドケア（注）に対するコメントを共有し、その後お互いの病院に対する質疑応答を行いました。

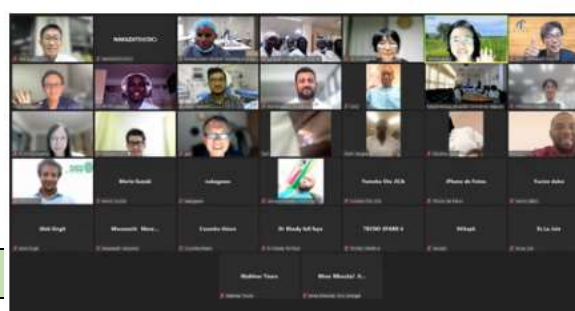
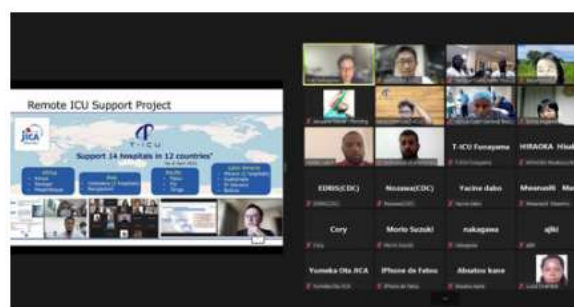
「COVID-19対応の主な課題は何か？どのように重症例や多くの患者に対応したか？」、「我々アフリカ各国はICU治療のために限られた資源しか持っていない。このような中で、どう課題に対応しているのか？」、「スケジュールドケアで最も役立ったのは、患者の体位転換と気管挿管中の患者に対するケアの方法だったと感じている。あなた方はスケジュールドケアでのアドバイスで得たものは何か？」などを互いに質問し、共通の課題について議論できたことは、3カ国3病院の交流促進に役立ちました。

本プロジェクトのアフリカ地域でのスケジュールドケアは2022年9月末に終了しますが、プロジェクト終了後のさらなる交流と、本プロジェクトで得たものを活かし、それぞれの国の保健医療体制のさらなる発展が期待されます。

（注）スケジュールドケア：新型コロナウイルス感染症患者を含むICU患者の治療やケアに関して定期的に行われる、日本と現地の医療従事者間の症例検討と助言

活動現場での写真

アフリカ地域横断的セミナーの様子



50	2022年11月24日	JICA ウェブサイト ニュースレター（フィジー①）
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20221124.html

【フィジー】遠隔支援でフィジーのICU看護師技能の飛躍を目指す

2022年11月24日

フィジー共和国は、大小300以上もの島々からなる南半球の島嶼国です。

「新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト」の支援対象である植民地戦争記念病院（Colonial War Memorial Hospital、通称CWM病院）は、首都スバに位置するトップクラスの総合病院。このCWM病院の他、フィジーの医療の中核を担う地域病院では、ICU（集中治療室）で働く看護師を対象とした集中治療に関する専門的な研修プログラムがないため、フィジーでの技術協力は主に看護師に焦点を当てて行っています。これまでに集中治療看護の基礎を学ぶオンライン研修と、過去症例について議論するリモートカンファレンスを実施しました。

オンライン研修には、ラウトカ病院（Lautoka Hospital）とCWM病院とは異なる島に位置するランバサ病院（Labasa Hospital）という2つの地域病院からも参加希望の声が上がったため、CWM病院とそれら2つの病院から計63名もの看護師が参加しました。大人数での参加となりましたが、質疑応答ではフィジー側が司会役を務め、各病院からの参加者に質問を投げかけるなどをし、各病院の現状や対応方法などについて理解することができました。参加者からは日本ではどのように対応するのか、などの質問が多く上がり、日本の看護ケアへの関心の高さが伺えました。

リモートカンファレンスは計2回実施しました。CWM病院からの症例報告を受け、人工呼吸器の管理方法や装着した患者のケア・リハビリなどについて、互いの国ではどのような視点に立ち、どう実践しているのかといった点について議論を重ねました。参加者からは、フィジーでは行っていない看護ケアの方法を知ることができ新しい学びの機会となっているなどの声が多く寄せられました。

活動現場での写真



3病院（CWM病院・ラウトカ病院・ランバサ病院）とのオンライン研修の様子

No	掲載日	掲載媒体
----	-----	------

51	2022年12月20日	JICA ウェブサイト ニュースレター (パラオ③)
	URL リンク先	https://www.jica.go.jp/project/indonesia/026/news/20221220.html

○ 【パラオ】プレハブICUと医療機材の引き渡し式

2022年12月20日

2022年12月19日、パラオ国コロール州ベラウ国立病院において、プレハブで構成されたICU（プレハブICU）の設置工事とICU医療機材の設置が完了しました。翌20日にはスランゲル・S・ウィップス・ジュニア大統領、ガファール保健大臣、メコール病院長、折笠在パラオ日本国大使、小林JICAパラオ所長ほか関係者のご出席を得て引き渡し式が行われました。

スランゲル大統領は来賓あいさつの中で、これまでの日本の協力への感謝とともに「プレハブICU、ICU医療機材及び遠隔通信機材を活用した医療サービスの提供はパラオでは初めての導入であり、ベラウ国立病院だけでなくパラオにおける集中治療サービスのさらなる強化への貢献は高く評価したい」と、本プレハブICU及び医療機材の有効活用に向けた力強い決意を表明されました。

式典後、大統領ら参列者はプレハブICUを視察し、ICU専門医であるマイラ医師から機器の説明を受けました。参加者からは最新の医療機材を備えたプレハブICUの仕上がりのきれいさや、設置されている最新設備への感嘆の声がかげられました。

今後本プロジェクトを通して得た経験と施設・機材を活用し、ベラウ国立病院の集中治療サービスが一層展開されることが期待されています。

活動現場での写真



引き渡し式（左から3人目よりガファール大臣、スランゲル大統領、折笠大使、小林JICAパラオ所長）



プレハブICUの視察



プレハブICU外観



プレハブICU内




医療機材使用研修



日本・パラオ両国国旗とJICAロゴの銘板

資料 4_多言語化した研修教材パッケージの詳細

表 1 リアルタイム型オンライン研修の研修動画（西語）

No	動画タイトル画面	動画詳細
1	 <p>Capacitación para Médicos de UCI (En línea) Capacitación Básica para Médicos de Cuidados Intensivos</p> <p>Síndrome posparada cardíaca</p> <p>Módulo 1 Unidad 1</p> <p>Proyecto para el Desarrollo de Capacidades de la UCI Utilizando la Telemedicina en el Marco de la Pandemia de COVID-19</p>	<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：蘇生・蘇生後管理 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：15 分 06 秒 リンク先：https://youtu.be/MdhOCOy_gAg</p>
2	 <p>Capacitación para Médicos de UCI (En línea) Capacitación Básica para Médicos de Cuidados Intensivos</p> <p>Conceptos Básicos de la Ventilación Mecánica para No intensivistas</p> <p>Módulo 1 Unidad 2</p> <p>Proyecto para el Desarrollo de Capacidades de la UCI Utilizando la Telemedicina en el Marco de la Pandemia de COVID-19</p>	<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：人工呼吸管理 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：26 分 31 秒 リンク先：https://youtu.be/RNIT9UpbncA</p>
3	 <p>Capacitación para Médicos de UCI (En línea) Capacitación Básica para Médicos de Cuidados Intensivos</p> <p>SHOCK</p> <p>Módulo 1 Unidad 3</p> <p>Proyecto para el Desarrollo de Capacidades de la UCI Utilizando la Telemedicina en el Marco de la Pandemia de COVID-19</p>	<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：ショック 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：11 分 08 秒 リンク先：https://youtu.be/QjFBwNbd0Vo</p>
4	 <p>Capacitación para médicos de UCI (En línea) Capacitación básica para médicos de cuidados intensivos</p> <p>Sepsis para médicos no intensivistas</p> <p>Módulo 1 Unidad 4</p> <p>Proyecto para el Desarrollo de Capacidades de la UCI Utilizando la Telemedicina en el Marco de la Pandemia de COVID-19</p>	<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：敗血症 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：26 分 19 秒 リンク先：https://youtu.be/f5kzbtAT480</p>
5	 <p>Capacitación para Médicos UCI (En línea) Capacitación Básica para Médicos de Cuidados Intensivos</p> <p>Terapia Nutricional en la Medicina de Cuidados Intensivos</p> <p>Módulo 1 Unidad 5</p> <p>Proyecto para el Desarrollo de Capacidades de la UCI Utilizando la Telemedicina en el Marco de la Pandemia de COVID-19</p>	<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：栄養療法 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：17 分 39 秒 リンク先：https://youtu.be/yiUZO72Xx9c</p>

6		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する感染対策・家族ケア 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：13 分 23 秒 リンク先：https://youtu.be/OySHy_zDThI</p>
7		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する治療 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：14 分 22 秒 リンク先：https://youtu.be/XuDcRWrnSio</p>
8		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：重症患者のモニタリング 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：26 分 48 秒 リンク先：https://youtu.be/pH2LAce3M-g</p>
9		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：呼吸のフィジカルアセスメント 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：26 分 26 秒 リンク先：https://youtu.be/67dUSUEXL08</p>
10		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：循環のフィジカルアセスメント 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：西語 長さ：32 分 21 秒 リンク先：https://youtu.be/JT39LbWK0oU</p>

11		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：敗血症患者の看護 対象者：ICUで重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4形式 言語：西語 長さ：31分36秒 リンク先：https://youtu.be/dyxFsBW3s7U</p>
12		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：集中治療後症候群 対象者：ICUで重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4形式 言語：西語 長さ：30秒01秒 リンク先：https://youtu.be/0waOc1IwnUk</p>
13		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：COVID-19に対する感染対策・家族ケア 対象者：ICUで重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4形式 言語：西語 長さ：20分48秒 リンク先：https://youtu.be/xPNEW2MtAms</p>
14		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：COVID-19に対する治療 対象者：ICUで重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4形式 言語：西語 長さ：20分11秒 リンク先：https://youtu.be/tn2mc8LEP_k</p>

表2 リアルタイム型オンライン研修の研修動画（仏語）

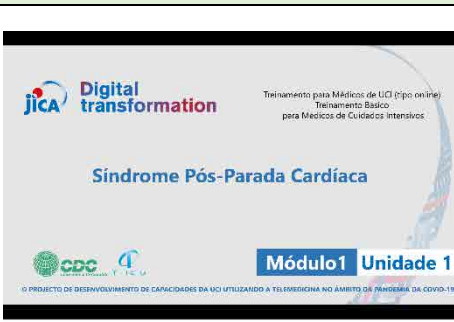

No	動画タイトル画面	動画詳細
1		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：蘇生・蘇生後管理 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4形式 言語：仏語 長さ：16分55秒 リンク先：https://youtu.be/KrJ5uXw0lh4</p>

2		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：人工呼吸管理 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：29 分 20 秒 リンク先：https://youtu.be/3JhanId7G20</p>
3		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：ショック 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：13 分 22 秒 リンク先：https://youtu.be/al0J6S7qr5I</p>
4		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：敗血症 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：30 分 26 秒 リンク先：https://youtu.be/Y7diT855Mwg</p>
5		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：栄養療法 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：18 分 33 秒 リンク先：https://youtu.be/OftdmqvwPQc</p>
6		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する感染対策・家族ケア 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：14 分 28 秒 リンク先：https://youtu.be/gzQynLnxxB4</p>

7		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する治療 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：19 分 07 秒 リンク先：https://youtu.be/qbbB3qhLOMw</p>
8		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：重症患者のモニタリング 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：28 分 31 秒 リンク先：https://youtu.be/5YOENUoKa5c</p>
9		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：呼吸のフィジカルアセスメント 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：28 分 14 秒 リンク先：https://youtu.be/iMiCX-urn0I</p>
10		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：循環のフィジカルアセスメント 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：39 分 00 秒 リンク先：https://youtu.be/7mrtCdmgi70</p>
11		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：敗血症患者の看護 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：38 分 14 秒 リンク先：https://youtu.be/cW9rPUkL5E4</p>

12		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：集中治療後症候群 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：38 秒 25 秒 リンク先：https://youtu.be/MGFCxqBxrtg</p>
13		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する感染対策・家族ケア 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：23 分 12 秒 リンク先：https://youtu.be/UIIHlp9ZUDg</p>
14		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する治療 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：仏語 長さ：24 分 49 秒 リンク先：https://youtu.be/Y5wIVgBn3DM</p>

表 3 リアルタイム型オンライン研修の研修動画（葡語）

No	動画タイトル画面	動画詳細
1		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：蘇生・蘇生後管理 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：20 分 39 秒 リンク先：https://youtu.be/KrJ5uXw0lh4</p>
2		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：人工呼吸管理 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：35 分 12 秒 リンク先：https://youtu.be/z9A7wbQf2G8</p>

3		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：ショック 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：12分50秒 リンク先：https://youtu.be/lv9Epz-kHZA</p>
4		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：敗血症 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：31分37秒 リンク先：https://youtu.be/uxoYLfIiRBY</p>
5		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：栄養療法 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：19分21秒 リンク先：https://youtu.be/IRWaz-BGFss</p>
6		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する感染対策・家族ケア 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：16分19秒 リンク先：https://youtu.be/4pZYSS5a_y8</p>
7		<p>コース名：集中治療の基礎・医師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する治療 対象者：集中治療が専門でない医師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：18分23秒 リンク先：https://youtu.be/xKb0EKjt840</p>

8		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：重症患者のモニタリング 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：37 分 54 秒 リンク先：https://youtu.be/DiMnXybyppqE</p>
9		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：呼吸のフィジカルアセスメント 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：32 分 23 秒 リンク先：https://youtu.be/ZZzcHovYVqk</p>
10		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：循環のフィジカルアセスメント 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：39 分 24 秒 リンク先：https://youtu.be/AmzP7K0KzMI</p>
11		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：敗血症患者の看護 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：24 分 20 秒 リンク先：https://youtu.be/z52LVq79PwY</p>
12		<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：集中治療後症候群 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：35 秒 42 秒 リンク先：https://youtu.be/EtFv_bu9PHg</p>

<p>13</p>	 <p>The thumbnail for video 13 features the JICA Digital Transformation logo at the top left. The main title is 'Noções básicas de Controle de Infecções e Cuidados familiares e da equipe quando lidando com pacientes da COVID-19'. Below the title are logos for TICU and CDC. At the bottom right, a red box indicates 'Módulo 2 Unidade 1'. The background is a light blue with a faint image of a person.</p>	<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する感染対策・家族ケア 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：22 分 13 秒 リンク先：https://youtu.be/e4VMalcIuO8</p>
<p>14</p>	 <p>The thumbnail for video 14 features the JICA Digital Transformation logo at the top left. The main title is 'Cuidados respiratórios a pacientes de COVID-19'. Below the title are logos for TICU and CDC. At the bottom right, a red box indicates 'Módulo 2 Unidade 2'. The background is a light blue with a faint image of a person.</p>	<p>コース名：集中治療の基礎・看護師用オンライン研修 タイトル：COVID-19 に対する治療 対象者：ICU で重症患者をケアしている看護師 メディア媒体：MP4 形式 言語：葡語 長さ：23 分 07 秒 リンク先：https://youtu.be/enJRiScUcrM</p>

資料 5_横断的セミナー報告書

横断的セミナー報告書

作成日：2022年6月11日

実施日時	2022年6月11日 14時～15時30分
主な運営病院(or 組織)	ハサヌディン大学病院
参加国 (病院・職種)	<p>インドネシア RSUNHAS 医師 85 名 RSUNS 医師 1 名 RSUGM 医師 1 名</p> <p>ケニア CGTRH 看護師 1 名</p> <p>パラオ ベラウ国立病院 看護師 6 名</p> <p>フィジー CWMH 看護師 11 名 Labasa 病院 医師 2 名 Lautoka 病院 医師 1 名</p> <p>トンガ バイオラ病院 医師 5 名、看護師 2 名</p> <p>その他：16 名 合計 131 名</p>
日本側参加者	<p>JICA 本部 1 名</p> <p>プロジェクト側：中川、鴻池、市村、瀧、Fatema、仲里、高田、エドリス、加瀬、菱田、佐々木、藤原、長澤、田口、(14 名)</p>
セミナー講師	川口 敦 聖マリアンナ医科大学 教授
セミナー内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. RSUNHAS 医師による症例発表「肺水腫による切迫した呼吸不全+CAPD 中の慢性腎臓病ステージ V+グレード 2 の高血圧」 2. 川口敦医師による講演「重症小児における非侵襲的人工呼吸／高流量経鼻酸素療法」 3. ディスカッション、Q&A セッション
セミナー成果・課題・今後への提言	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のセミナーでは、インドネシアだけでなく、パラオ、トンガ、フィジー、ケニアにも参加を呼び掛けたところ積極的な参加があった。 ・川口医師は、High Nasal Flow Therapy について、有名な研究・学術誌のエビデンスを用いながら簡潔にまた理論と実践を交えて聴衆が理解しやすい内容で説明を行った。また RSUNHAS の研修医が発表した「呼吸不全」の症例については、ディスカッションの際に、川口医師からアドバイスがあった。 ・症例についてのディスカッションの後、研修医を含めたセミナー参加者から、HNFT の管理、HNFT と NIV のどちらを選択するかなどについての質問があり、川口医師は自身の経験を交えてすべての質問に回答した。 ・本セミナーを担当した RSUNHAS の医師責任者からは、「今回のディスカッションやエビデンスに基づいたプレゼンテーションが、UNHAS の PICU の治療と管理レベルの向上に役立った」と述べ、「またこのような機会は若い研修医の能

	<p>力開発に役立ち、PICU 患者を治療する上での自信につながるだろう」との感謝の言葉が述べられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本セミナーではインドネシア以外の国から看護師の参加があったが、看護師の参加を想定はしていなかったため、全ての参加者に有意義な内容であったか疑問が残る。そこで、事前に参加対象者を絞ることによって、特定の議題に対して深く議論を行うことができる。 ・先進国でも途上国における医療でも共有の話題、同じプラットフォームでディスカッションができる話題があることが明らかとなった。それをいかに拾い上げることができるかが重要となる。
<p>全体総合評価 (アンケート結果)</p>	<p>アンケート結果・分析・評価 (6/17、10 時時点 86 名回答)</p> <p>-アンケート結果</p> <p>(問 1-5)</p> <p>アンケート回答者のうち約 80%が、インドネシアからの参加者であった。インドネシア以外からはケニア、トンガ、パラオ、フィジーの参加者から回答があった。女性の回答率が 70%を少し上回った(参加者全体の男女比は未確認のため不明)。また、インドネシア以外の国の回答者の中には看護師からの回答があった。</p> <p>(問 6-8)</p> <p>選択式質問のうち、セミナーの内容が興味や仕事に関わってくるか(問 6 と問 7)という設問には、いずれも評価の高い回答が集中していた。一方で、セミナー時間に関しては(問 8)、当初予定していたセミナーの時間を 30 分程度超過したため、6 割を超える回答者が「長い」の回答を選択した。</p> <p>(問 9-10)</p> <p>自由回答(問 9, 問 10)に対し、2 問とも 8 割以上が回答を記載し、その内容から今回のセミナーで扱った内容や今後さらに学びたい関連事項に関するコメントの記載が多く、セミナーに対する関心の高さが推測でき、参加者の意欲の高さを伺うことができた。</p> <p>-分析・評価</p> <p>今回のセミナーは、小児医療をテーマにするものであることを事前に告知していたため、アンケートの回答者の半数近くが小児科勤務の医療従事者であった。但し、アンケートの回答方法から正確な数の把握が困難であり、これは今後の改善点である。</p> <p>セミナーの内容に関する興味・関心ならびに自身の業務への有効性に関する問に対しては高い評価を得た。これは、参加者の多くが小児治療に関わる業務に携わっており、本セミナーのような機会に、積極的に知見を広げたいという意欲をもって参加していることが窺えるものであった。本アンケートの結果を通して、急</p>

	性期小児診療をテーマとするセミナーは、多くの国においてニーズがあることが確認された。
--	--

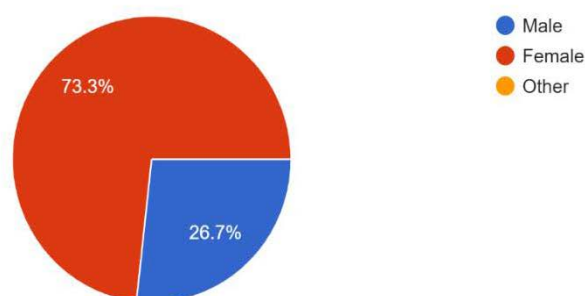
※アンケートの質問内容及び結果を添付資料として本報告書に添付

(1) アンケートの質問内容

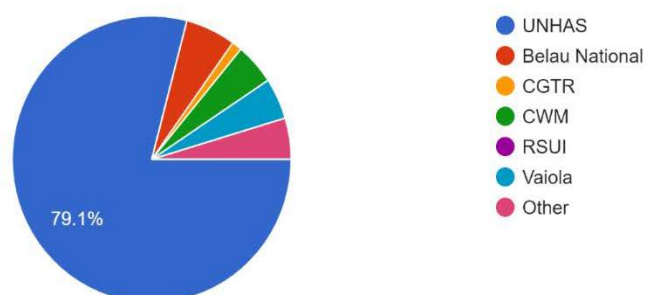
1. Name of participant
2. Sex
3. Occupation
4. Hospital
5. Country
6. How relevant was the seminar contents to your need and interest?
7. How do you rate the contents? ("Was the seminar useful for your work?")
8. What do you think about the seminar time?
9. What was the most interesting topic in the seminar?
10. What was the topic you needed more explanation about in the seminar?

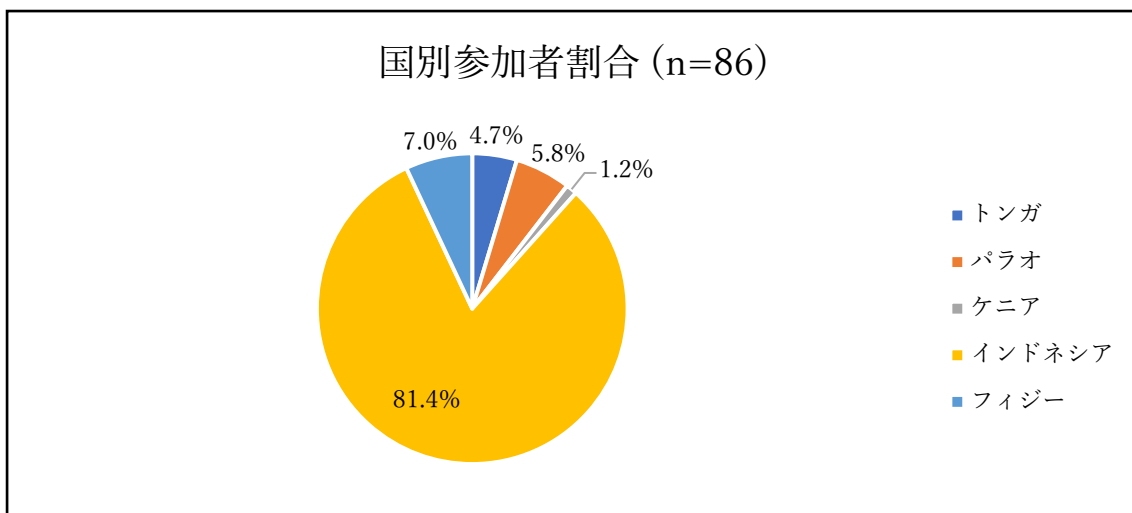
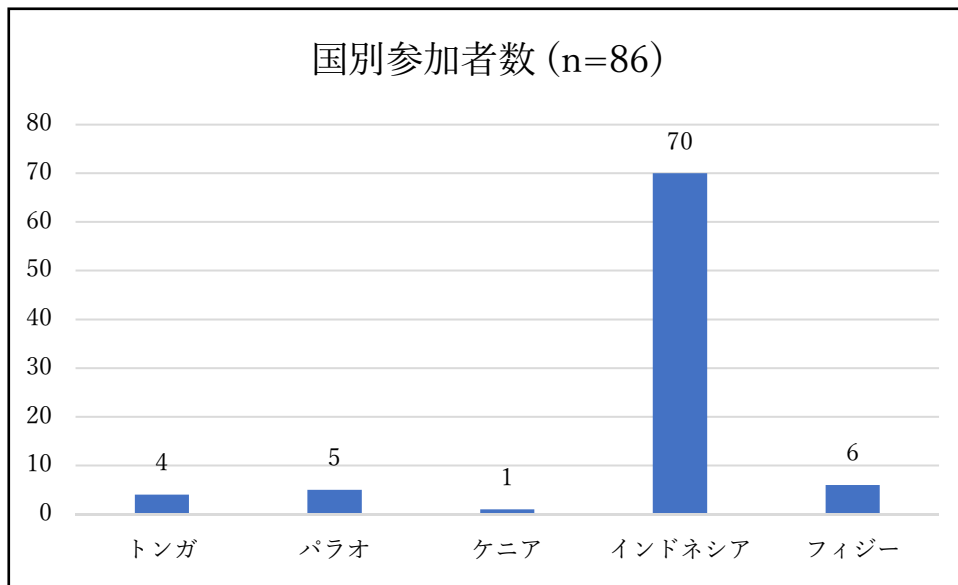
(2) アンケートの結果グラフ (一部抜粋)

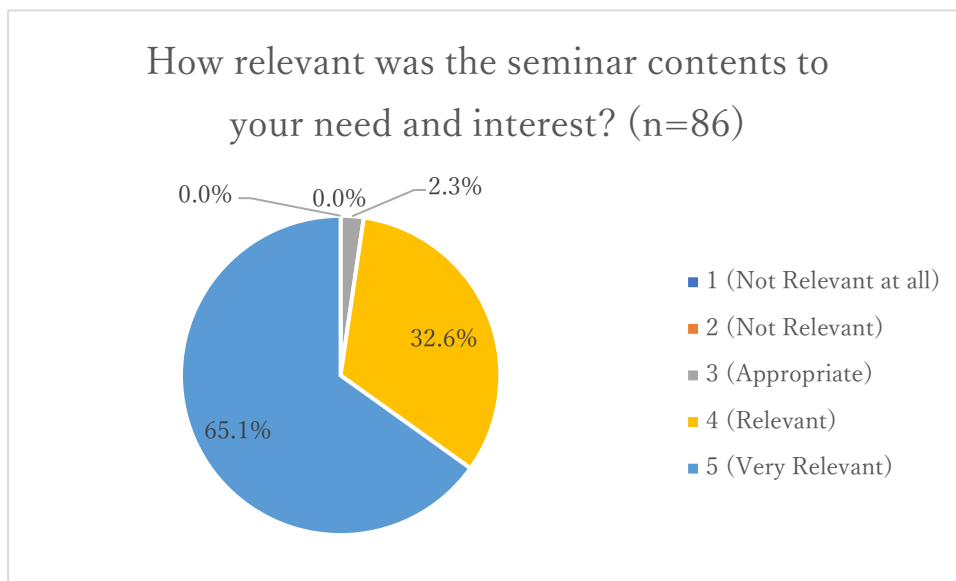
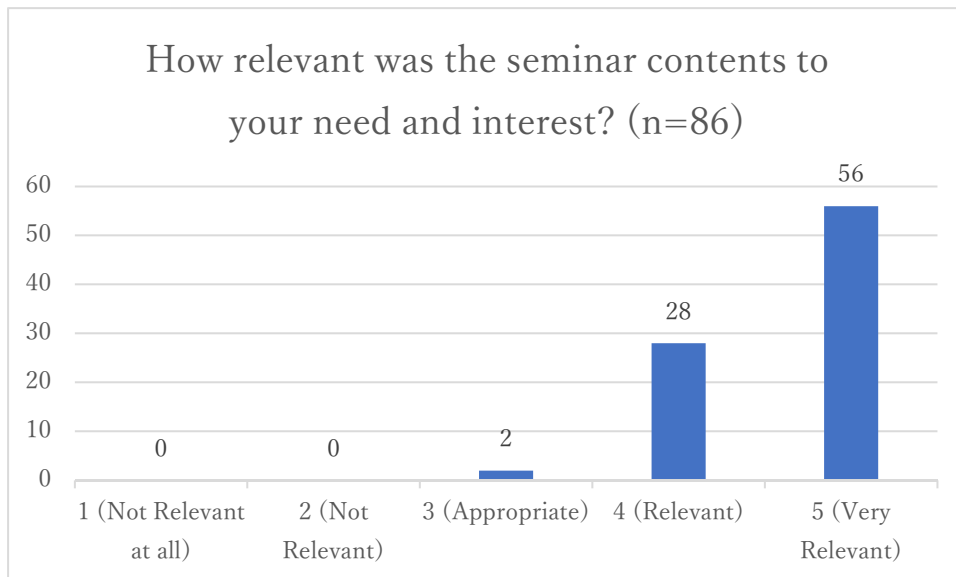
Sex
86 件の回答



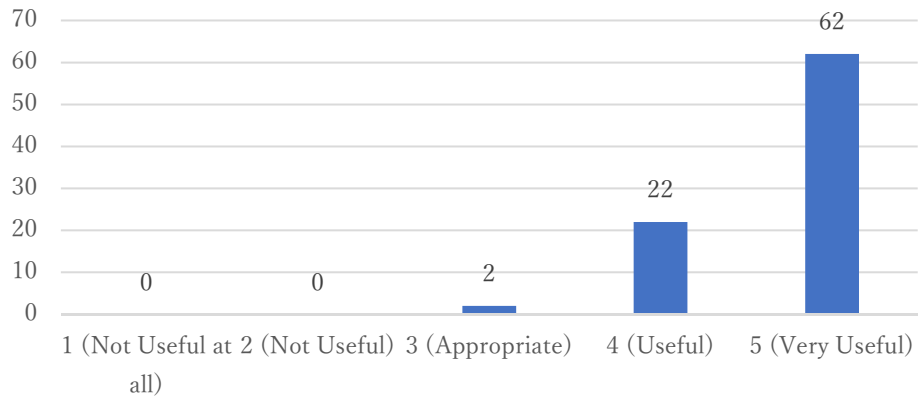
Hospital
86 件の回答



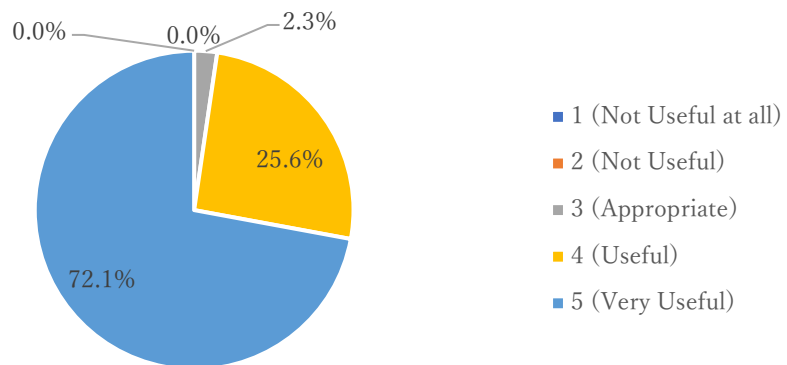


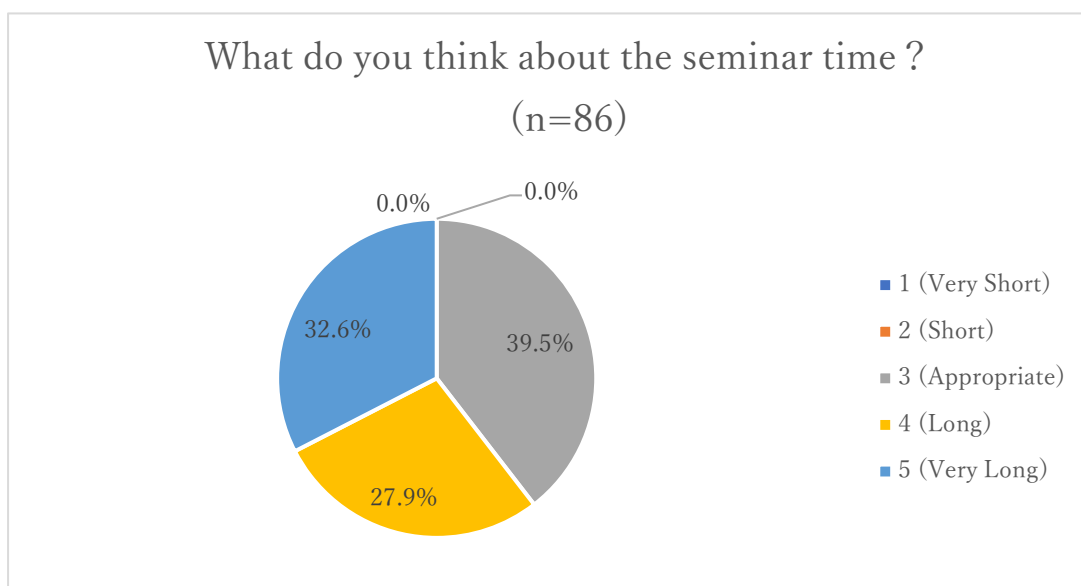
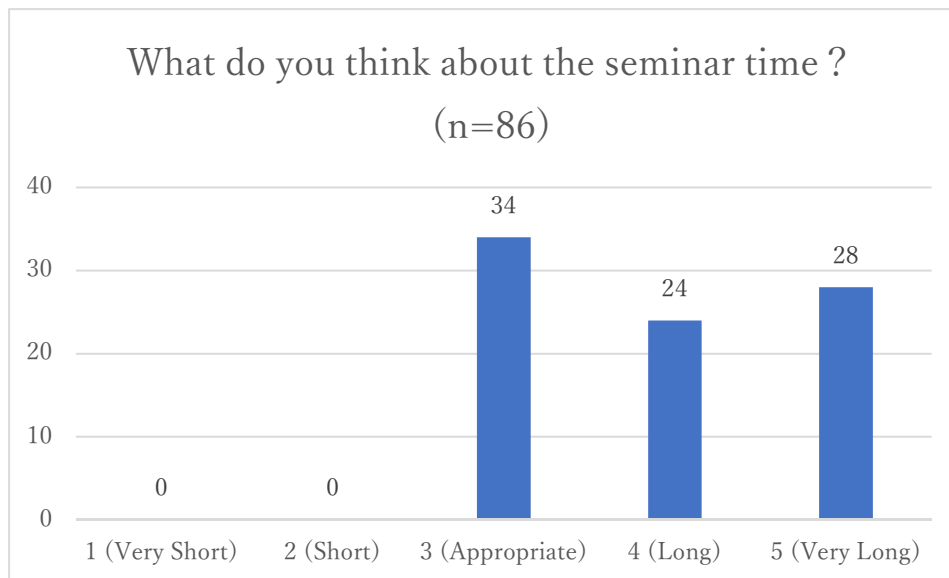


How do you rate the contents? ("Was the seminar useful for your work?") (n=86)



How do you rate the contents? ("Was the seminar useful for your work?") (n=86)





(3) 追加の解説が必要なセミナーの内容

セミナー内で扱われたトピックの内さらに詳しく説明が必要なものは何か

What was the topic you needed more explanation about in the seminar?	日本語
Ventilator	人工呼吸器
Resuscitation Fluid in emergency case	緊急時の輸液蘇生
Explain again oxygen washout	酸素洗い出し
Fluid management in critically ill pediatric patient	重症小児患者の輸液管理
Use of high flow Vs NIV	高流量 VS 非侵襲的喚起
initial setting	初期設定
Ventilator Mekanik	人工呼吸器整備
Other mechanical ventilation	他の人工呼吸器
When to wean off from use of high flow cannula.	HFNC (高流量経鼻療法) の取り外しのタイミング
Fluid management on invasive patient	侵襲的患者の輸液管理
The time for weaning	人工呼吸器取り外しのタイミング
invasive ventilation	侵襲的換気
ARDS	急性呼吸窮迫症候群
Sepsis	敗血症
Emergency cases and the treatment	緊急時の対応と治療
Resuscitation neonatus	新生児蘇生
High flow nasal kanul	高流量経鼻療法
Non invasive mechanical ventilator	非侵襲的人工呼吸器
Tatalaksana kedaruratan aritmia	不整脈の緊急管理
Pneumonia dan asma	肺炎と喘息
ERIA	小児救急・集中治療
about leukemia	白血病
Resuscitation update	心肺蘇生
Setting ventilator dan modus yang digunakan	人工呼吸器の設定および使用されるモード
About hematology	血液学
Infection case	感染症の症例
How to setting mechanic ventilator	人工呼吸器の設定
Picu	小児集中治療室
Non Invasif mechanical therapy	非侵襲的人工呼吸器療法
High flow oxygen teraphy	高流量酸素療法

syok	ショック
Case selection criteria for HFNO in paediatrics	小児科における高流量酸素療法の症例 選択基準
Care of the very sick child	重症小児患者のケア
High nasal flow in critically ill child	重症小児患者の高流量経鼻療法
Very good seminar but I want to include newborn with high flow if can next time. Babies with respiratory disease syndrome (RDS).	新生児の高流量経鼻療法と新生児の呼吸窮迫症候群
Mechanical Ventilation	人工呼吸器呼吸窮迫症候群

(4) 質疑応答 質問一覧

1. What is the indication of weaning? What indicators do we use?
2. Is there any minimal flow for HFNC in young children?
3. In TOF patients with a history of cyanotic spell, can NIV or HFNC be given?
4. Can gastrointestinal post-op patients be given NIV and HFNC, considering that if the patients were tachypneu, it can increase meteorismus and surgical wounds failed to heal?
5. How long is the use of NIV and HFNC usually used in post gastrointestinal surgery patients?

アフリカ地域横断的セミナー報告書

作成日：2022年8月26日

実施日時	2022年8月25日 20:00-21:00（日本時間）
主な運営病院(or 組織)	コーストジェネラル教育レフェラル病院（ケニア）、マプト中央病院（モザンビーク）、ダラルジャム病院（セネガル）
参加国（病院・職種）	ケニア CGTRH 医師 1名 看護師 6名 モザンビーク CHM 医師 4名 看護師 4名 セネガル DJH 医師 4名 看護師 9名 その他：24名 合計 49名
日本側参加者	JICA 本部 2名 JICA セネガル事務所 1名 プロジェクト側：中川、中川（悠）、市村、船山、鈴木、仲里、野澤、エドリス、安食、松田、加藤、通訳3名（14名）
セミナー講師	中川（悠）、市村
セミナー目的	3カ国が交流・意見交換することで、お互いの国の医療への理解を深めること。
セミナー内容	1. 講師自己紹介、プロジェクト概要紹介、セミナーの目的・ルール 2. 各国の医療事情と各病院の紹介、各病院に対する講師からの印象・コメント、スケジュールケア（SC）に対する各病院のコメント 3. 各国間の質疑応答 4. 閉会
3カ国のSCに対する意見	（ケニア看護師）プロジェクトはとても素晴らしく、COVID-19だけでなく、他の重症患者の診療に役立っている。 （ケニア医師）プロジェクトに従事している方々の努力に感謝する。素晴らしいことの第1はスケジュールケアで症例に基づく発表で診療に役立っている、より頻繁に行ったらよいと思う。第2は新しいICUで、我々の対応能力を拡大した。 （モザンビーク医師）スケジュールケアは素晴らしく、日本とモザンビーク両国の経験を共有することができている。またこの機会を通じ、他のアフリカの国々との経験を共有することができる。COVID-19の対応だけでなく、他の感染症の対応に重要な役割を果たしており、我々の対応も改善している。 （モザンビーク看護師）プロジェクトはCOVID-19対応の重要な課題を解決し、診療方法について提言してくれる。

	<p>(セネガル医師) プロジェクトは素晴らしく、技術や能力を改善してくれている。大変高い技術レベルの意見交換ができており、患者対応のパラダイムを変えることに役立っている。我々は意見を交換し、それを診療に役立てている。これらは我々の診療サービスに重要である。ECMO の重要性も教えてくれた。</p> <p>(セネガル看護師) スケジュールドケアは我々のヘルスケアを改善してくれた。そこで、日本の看護師と意見を交換することができ、看護技術やケアについて教えてくれた。特に呼吸器疾患患者の対応や、患者の体位を変更することなどを学び、それは実践に役立っている。</p>
<p>質疑応答の内容</p>	<p>(ケニア医師からのモザンビーク医師への質問)</p> <p>Q: 我々アフリカ各国は ICU 治療のために限られた資源しか持っていない。このような中で患者の対応にどのような課題を抱えているか?</p> <p>A: 我々は COVID-19 患者の対応に苦慮した。1 つには患者の数、もう 1 つには資材、機材、ツールがないことである。特に鼻高流量 (Nasal high flow) や人的資源である。その中でも我々は工夫を凝らし、多くの改善ができたと思っている。</p> <p>(モザンビーク医師からセネガル医師への質問)</p> <p>Q: COVID-19 対応の主な課題は何か? どのように重症症例や多くの患者数に対応したか?</p> <p>A: 第 1 の課題は病床数である。1000 人の患者に対し、0.3 床しかない。しかし、我々の病院は国の中で最大の COVID-19 対応の病院である。第 2 の課題は組織的課題である。患者を死亡させないようにどのように自らを組織するのが問われている。</p> <p>(セネガル医師からケニア医師への質問)</p> <p>Q: スケジュールドケアの中で、日本との間で最も大きな違いを感じたのは、科学的知識かそれともロジスティック (機材など) の点か?</p> <p>A: 私が感じたのは、科学的知識は同じだと感じた。しかしロジスティックの問題は違うと感じた。</p> <p>(ケニア看護師からセネガル看護師への質問)</p> <p>Q: COVID-19 対応において人的資源や技術以外の課題は何だったか?</p> <p>A: 主な課題は医療従事者にあまりにも多くの仕事がかかったことである。</p> <p>(セネガル看護師からモザンビーク看護師への質問)</p> <p>Q: スケジュールドケアで私が最もありがたかったのは、患者の体位転換の仕方と挿管している患者に対するケアである。あなた方はスケジュールドケアでのア</p>

	<p>ドバイスで得たものは何か？</p> <p>A：最も大事なものは腹臥位だが、人材不足でなかなか毎日これを行うことはできない。しかし我々は努力して改善しようとしている。COVID-19 対応だけでなく、他の病気に対してもそうだ。</p> <p>(モザンビーク看護師からケニア看護師への質問)</p> <p>Q：COVID-19 蔓延の時期、多くの看護師が感染して家族にも負担をかけた。あなた方はどのようにその家族に対するインパクトに対処したか？</p> <p>A：我々は COVID-19 対応のために、特別な訓練をした。どのように COVID-19 隔離病棟に入るか、特にどのように隔離病棟から出るか、その対策が最も重要であった。</p>
閉会の辞	<p>(平岡氏) 本日 3 国間での交流ができたことは良かったと感じた。もう少し本プロジェクト期間があるので、最後までスケジュールドケアでのアドバイスから学び、3 国間のネットワーキングもしてほしい。</p> <p>(モハメッド医師) 我々はこのスケジュールドケアのアドバイスで次の COVID-19 対応の準備ができた。今後 Tele-medicine は、我々のような人的資源不足がある中で、ますます重症患者治療に重要となってくるだろう。</p>
所感	<p>運営面では、通訳と質疑応答を工夫した。</p> <p>前者に関しては、参加する 3 カ国が異なる言語であるため、開催に当たって検討した点である。当初は Zoom 会議の通訳機能をオンにして、葡語・仏語の 2 名をオンライン上で指定することも考えたが、聞きたい通訳を切り替えるのに苦慮したり、特に葡語話者と仏語話者が会話する際に通訳同士のコミュニケーションができないことがテスト時に判明したりして、断念した。最終的にはオンライン上では英語を主とし、モザンビークとセネガルのそれぞれの病院の会場に現地通訳を配置して同時通訳することとした。これにより、オンライン上で複数言語が飛び交って時間を浪費する問題を解決でき、スムーズな運営を実現できた。</p> <p>後者では、あらかじめ質問者と質問する先を決めておき、決まった順番に質疑応答を行った。これにより、質問者が事前に質問を考えることができ、間が開くこともなく、質疑応答のセッションがとても円滑に進んだ。</p> <p>全体としては、開始 15 分前には 3 病院の会場からの接続が完了するなど、参加者の意欲がとても感じられた。言葉も文化も異なる 3 カ国の医療従事者がお互いに質問し合い、お互いの医療事情を知り合えたため、目的は達せられたと考えられる。</p> <p>T-ICU 追記</p> <p>医師</p> <p>他の方の記載にもある通りだが、アフリカ 3 カ国からの参加であり、かつ言語が</p>

	<p>異なることが運営の上での最大のハードルとなった。この点は、質疑応答の順番を密に決めるなどで、対応は十分にできたと思われる。周知もしっかりしていただけだったので、開始も予定通りでき、アフリカ多国間の連携でも、準備を整えることで十分に対応できることが分かったのは良い収穫となった。</p> <p>各国医師のコメントから、当プロジェクトへの満足感を知り得ることができたのは我々としても感無量である。また、医療はなかなか多国間交流がない（自国のやり方が優先され視野が狭くなりうる）中で、他国の医師へ質問、それに答えるという形式により、新たな交流もうまれ、かつ刺激も受けたと思われる。今後の自国の医療発展の一助になってくれていると信じたい。</p> <p>看護師</p> <p>3か国の交流を図ることを目的に本セミナーを企画・開催した。3か国共にスケジュールドケアの感想において、多くの学びを得ていることがわかった。これまでのスケジュールドケアの中では、具体的にどのような学びに繋がっているのかが明らかではなく、各施設の看護師自身の言葉で述べられた事に大きな意義があると感じる。特にセネガルでは、これまでのスケジュールドケアでは医師が同席し、質問に対しても看護師自らの言葉で回答することがなかったため、貴重な機会となった。</p> <p>同じアフリカ地域と言えども言語が異なる3か国であり、交流を図ることは容易なことではないが、このような機会に他国の看護師と短時間ではあるが交流が図れたことは良い機会が提供出来たのではないかと考える。</p>
<p>全体総合評価 (アンケート結果)</p>	<p>アンケート結果・分析・評価</p> <p>- アンケート結果</p> <p>(問 1-5)</p> <p>アンケート回答者の内、約半数がダラルジャム病院（セネガル）、また、約半数がマプト中央病院（モザンビーク）で、コーストジェネラル教育リファラル病院（ケニア）からのアンケート回答者は少なかった。</p> <p>(問 6-9)</p> <p>選択式質問のうち、セミナーの内容が興味や仕事に関わってくるか（問 6 と問 7）という設問には、いずれも評価の高い回答が集中していた。また、セミナーの開催時間については、約 30%がちょうどよい、と選択した。「長すぎる」「短すぎる」といった回答は 2 割前後にとどまった。</p> <p>(問 10)</p> <p>自由回答（問 10）に対し、ほとんどすべての人が回答を記載し、その内容から今回のセミナーで扱った内容や今後さらに学びたい関連事項に関するコメントの</p>

	<p>記載が多く、セミナーに対する関心の高さが推測でき、参加者の意欲の高さを伺うことができた。</p> <p>- 分析・評価</p> <p>今回のセミナーの内容としては、他地域のように特定のテーマを扱う講義形式のセミナーではなく、他国との交流を目的としたセミナーのため、コメントからは交流を行うことによって、重症患者への看護改善ができるととても高い評価を得た。</p> <p>「意見交換はもっと頻繁に行われるべき」との意見があったように、本アンケートを通して、同地域他国との交流はそれぞれの国においてニーズがあることが確認された。</p>
--	---

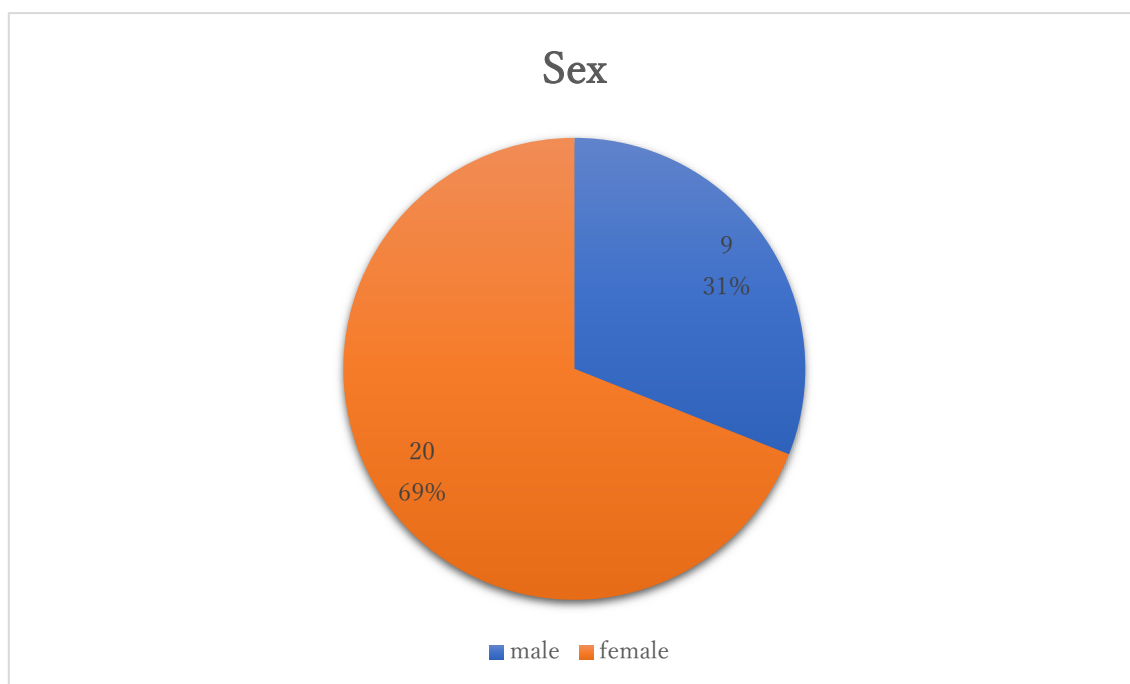
※アンケートの質問内容及び結果を添付資料として本報告書に添付

(1) アンケートの質問内容

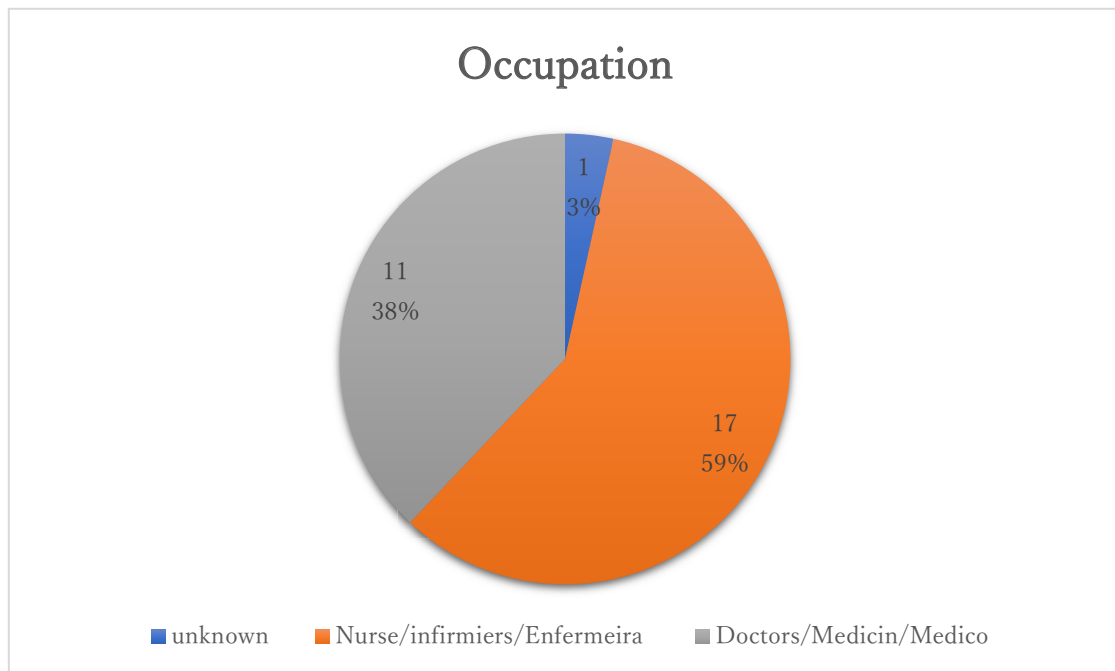
1. Participants' name
2. Sex
3. Occupation
4. Hospital
5. Country
6. How relevant was the content of the seminar to your needs and interests?
7. Was the seminar useful for your work?
8. What did you think about the duration of the seminar?
9. How relevant to your work was the content of the presentations by the other hospitals?
10. What did you think of this seminar? Please write your opinion below.

(2) アンケート結果(一部抜粋)

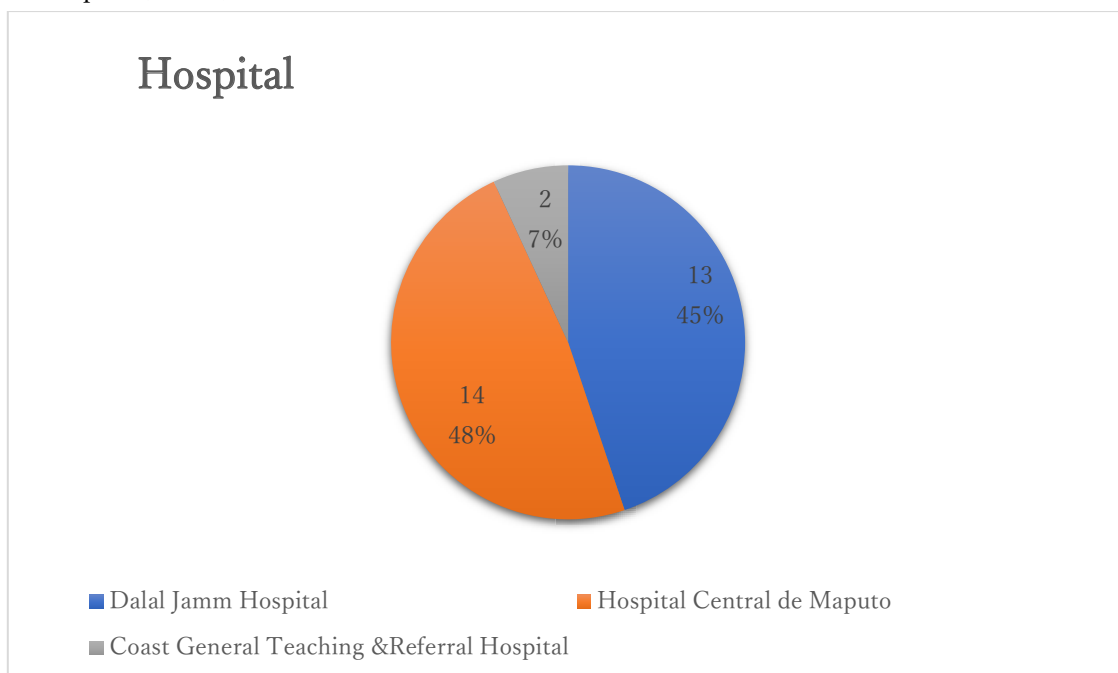
2. Sex (N=29)



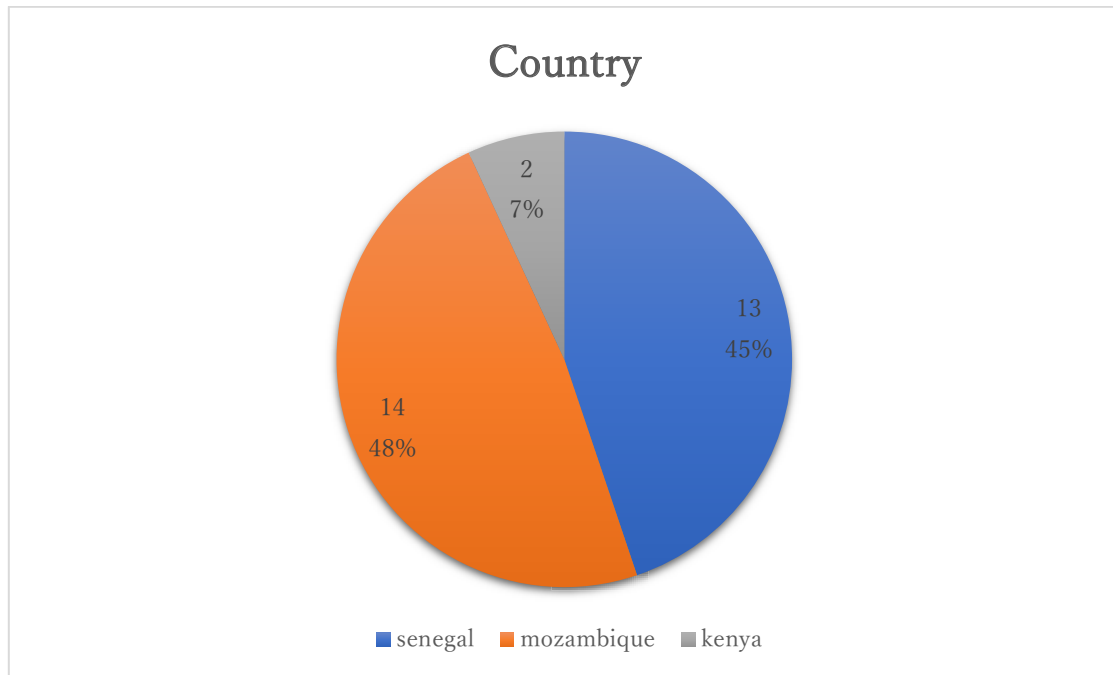
3. Occupation (N=29)



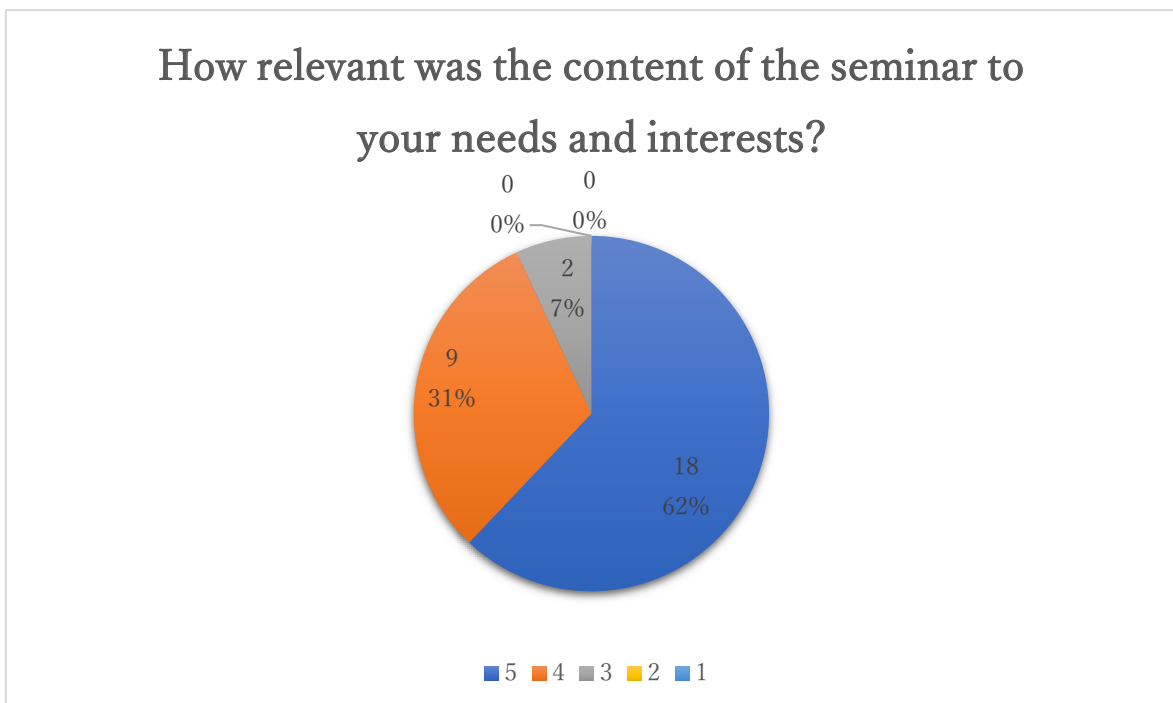
4. Hospital(N=29)



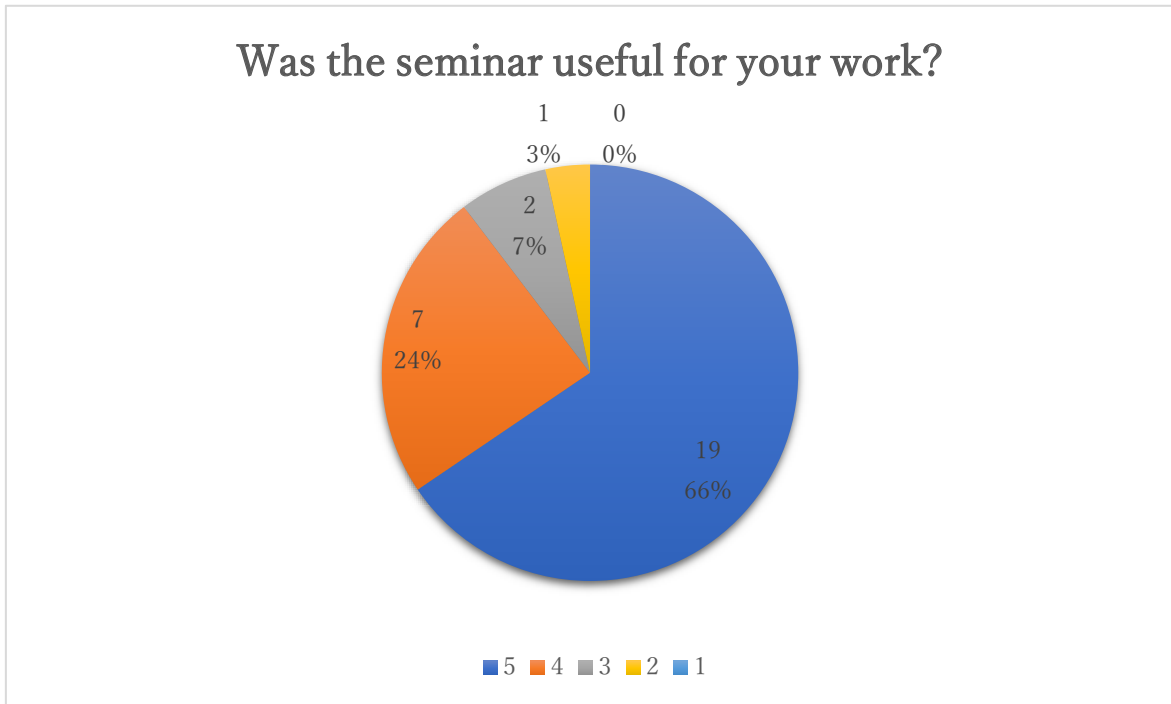
5. Country(N=29)



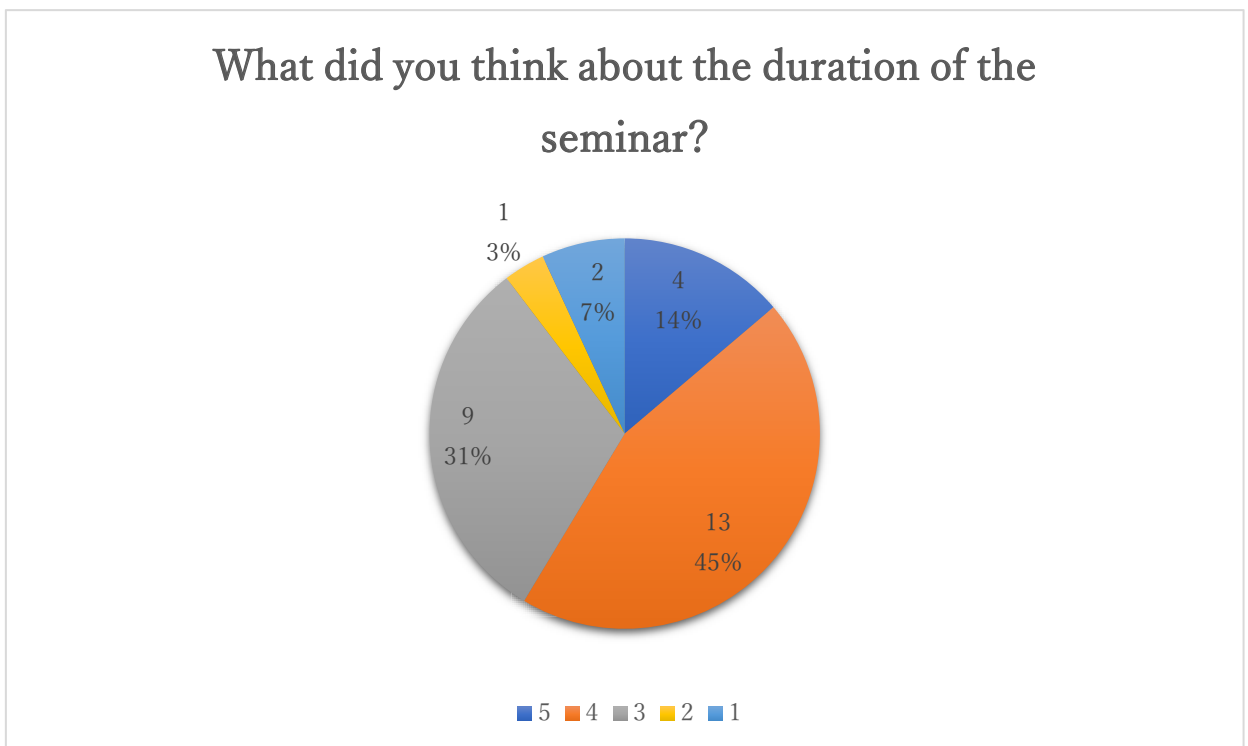
6. How relevant was the content of the seminar to your needs and interests? (N=29)



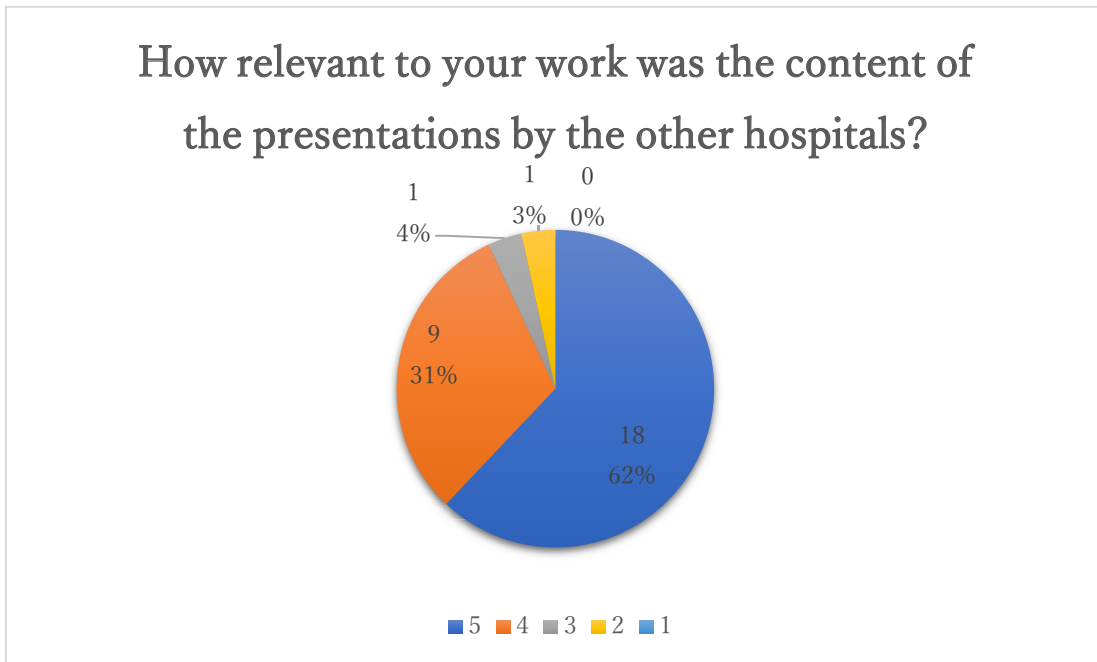
7. Was the seminar useful for your work? (N=29)



8. What did you think about the duration of the seminar? (N=29)



9. How relevant to your work was the content of the presentations by the other hospitals?
(N=29)



10. What did you think of this seminar? Please write your opinion below.

(ケニア回答)

- To be done more frequent to exchange ideas
- As the Kenyan team we had an opportunity to interact with health workers from the other two countries. That was good.

(セネガル回答) (英訳は文の下記に記載)

- Cest instructif
(英) It is instructive
- Tre pertinent
(英) Very relevant
- Très intéressant ça nous permis de faire des échanges avec les autres pays
(英) Very interesting it allowed us to make exchanges with other countries
- Une nouvelle découverte pour la prise en charge des patients en covid 19
(英) A new discovery for the management of patients in covid 19
- C'était très important et intéressant
(英) It was very important and interesting
- Enrichissant.
(英) Enriching.
- Sa été formidable
(英) It's been great
- Très interessant
(英) Very interesting
- Interessant
(英) Interesting
- C'est un plaisir d'y participer sur la nouvelle technologie car c'est un pas de plus
(英) It is a pleasure to participate on the new technology because it is a step further
- Pertinent
(英) Relevant
- Tres intéressant
(英) Very interesting
- Interessent
(英) Interesting

(モザンビーク回答) (英訳は文の下記に記載。一部英語のみの記載有)

• Foi bom! Deu para perceber que estamos todos em busca de alternativas melhoradas para nossos pacientes

(英) It was good! I could see that we are all searching for better alternatives for our patients.

• O seminário foi bom, tinha informação bastante importante para prática médica regional

(英) The seminar was good, it had very important information for regional medical practice

• Foi interessante e muito elucidativo para a gestão dos doentes críticos e permitiu conhecer outras realidades de africa: kenya, senegal....

(英) It was interesting and very enlightening for the management of critically ill patients and allowed to know other realities of africa: kenya, senegal....

• Fue muito bom y útil, pudimos conocer como manejamos esta doença, uniendo conocimiento para tratar doências futuras con mejor control y organizacion

(英) It was very good and useful, we were able to know how we manage this disease, joining knowledge to deal with future disease with better control and organization.

• O seminário é muito importante, é uma forma de aumentar o conhecimento e melhorar o nosso empenho nos cuidados ao paciente internado bem como no apoio a família

(英) The seminar is very important, it is a way to increase knowledge and improve our commitment to inpatient care as well as family support

• Foi muito importante e relevante no meu aprendizado, pois algumas práticas que tinha algumas dúvidas deu para sanar

(英) It was very important and relevant in my learning, because some practices that I had some doubts I was able to solve.

• It was great. It allowed us to interact and enrich our knowledge and management of intensive care patients.

• It was very useful, the sharing of opinions and challenges from each country was also good and thank you to Japanese cooperation for this opportunity

• It was good, interesting and elucidative for our reality.

• It was very useful. We learned a lot about the conduct of in the more developed country that is Japan, and we think we are on a good path.

• The seminar was very important for the exchange of experience. We improved our nursing care in critically ill patients. It was a good seminar.

• It was very interactive. That helped to develop our skills in exchanging information. Also, we came to know our limitations as well as our abilities for adaptation.

中南米地域横断的セミナー報告書（医師）

作成日：2022年9月25日

実施日時	2022年8月30日22時～24時
主な運営病院(or 組織)	プロジェクトチーム
参加国（病院・職種）	<p>メキシコ オーラン総合病院 医師 21名 バジャドリド病院 医師 11名</p> <p>グアテマラ サンビセンテ病院 医師 22名</p> <p>エルサルバドル エルサルバドル病院 医師 25名</p> <p>ボリビア サンタクルス日本病院 医師 12名 オブザーバー 医師 1名</p> <p>合計 91名</p>
日本側参加者	<p>JICA 本部 1名、メキシコ事務所 1名、ボリビア事務所 4名（計6名）</p> <p>プロジェクト側：菱田、森口、市村、鈴木、二階堂、近藤、仲里、高田、田辺、 現地コンサルタント4名、通訳1名（計13名）</p> <p>その他：1名</p> <p>合計 20名</p>
セミナー講師	川上 大裕 飯塚病院集中治療科 医師長
セミナー内容	<p>1. 川上医師による講演「ICUにおける輸液戦略」</p> <p>2. ディスカッション、Q&Aセッション</p>
セミナー成果・課題・ 今後への提言	<p>・当セミナーでは、エルサルバドル、ボリビア、グアテマラ、メキシコの中南米4か国から、プロジェクト対象の計5病院の医師ら90名に加え、ボリビアからは先方の要望により別病院からのオブザーバー参加もあった。対象病院同士が顔を合わせるのは初めてであったため、冒頭に各病院代表者がそれぞれの病院の簡単な紹介をする場を設けた。</p> <p>・限られたセミナー時間を有効活用するため、当セミナーでは講師が作成した講義資料と台本を事前にスペイン語に翻訳し、セミナーでは冒頭の講師挨拶の後には通訳者がまず台本を読み上げる形で講義が開始された。ICUにおける輸液療法に関して日本の第一人者であり研究、出版もされている講師の川上先生が輸液をする理由、指標、必要性、急性期戦略を分かりやすくまとめた講義を準備され、短時間でできるだけ内容の濃いセミナーとなった。</p> <p>・テーマのICUにおける輸液戦略は、ショックの患者への補液をするべきかどうかの判断はICUで毎日のように遭遇するにも関わらず、確立した単一の指標が無く、適切に輸液治療を行うためには、数多くのパラメーターを適切に用いる必要があることから、集中治療医としての知識と能力が問われる非常に大事なテーマとして選定した。これらの課題やテーマに基づき、講義と質疑応答の機会を持った結果、「ほとんどの患者で毎日行われる治療であるためこのセミナーは</p>

	<p>集中治療の分野で非常に重要だ」といった反響があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートへの回答を促すため、セミナーのチャット欄でのアンケートリンク共有の他、研修等で活用しているスマホアプリの各病院グループでもリンクを共有した。その結果、実際はセミナーに参加していないにも関わらずアンケートにのみ回答した人が数名いた。本セミナーでは参加証を授与する事となったため、実際の参加者を特定するには各国の現地コンサルタントによる地道な確認作業が必要となった。このような大規模の遠隔セミナーで参加証を発行する場合、参加確認方法に留意する必要がある。この点、対面でのセミナーとは異なり、より配慮が必要と感じた。 ・質疑応答では、各病院から日本側への質問の他、他国の質問で取り上げられたケースが非常に興味深い等と言ったコメントをする参加者もあり、時間が限られた中ではあるが参加者間の意見交換の場ともなった。また、セミナー終了後にC/Pらより、病院間の交流を開始したいと自主的に申し出があった事は大きな成果である。日本側で各病院のコンタクトパーソンの連絡先情報をまとめて共有し、ボリビアのC/Pが中心となって今後進めていく予定である。必要に応じて日本側でサポート、フォローをしていく。また、各国の報告により、日本側としても各病院での実践状況を確認することができた。
<p>全体総合評価 (アンケート結果)</p>	<p>アンケート結果・分析・評価 (9/2、12時時点 73名回答)</p> <p>-アンケート結果</p> <p>(問1-5)</p> <p>アンケート回答者の男女比はおおよそ1対1で、40%にあたる29人がエルサルバドル病院所属で最も多く、ボリビアのサンタクルス日本病院所属が6人で最も少なかった。その他3病院に関してはいずれも10~14人で同等の回答数があった。</p> <p>(問6-8)</p> <p>選択式質問のうち、セミナーの内容が興味やニーズに合致しているか、また仕事に役立つか(問6と問7)という設問には、いずれも80%以上が最も高い評価を下し、否定的な回答は一人もいなかった。セミナー時間に関しては(問8)、半数以上が「適切」と答えた一方で、37%が「長い」、12%が「短い」と回答し、意見が分かれた。</p> <p>(問9-1)</p> <p>自由回答(問9、問10、問11)に対し、8割以上が回答を記載し、その内容から今回のセミナーで扱った内容や今後さらに学びたい関連事項に関するコメントの記載が多く、セミナーに対する関心の高さが推測でき、参加者の意欲の高さを伺うことができた。追加の説明が必要な内容として、一番多かった回答に「臨床例」や「ショックの種類/治療」などが挙げられた。一方で、半数以上が「特になし」「十分であった」等と回答している。セミナー全体の感想としては大多数が</p>

「とても良かった」と回答しており、「各病院の仕組みと、学んだことがどのように実践されているかを知ることができるので、すべての国を統合することは非常に興味深い」「多国間の情報共有／意見交換が良かった」「他国、他病院との交流が非常に良かった、ダイナミックだった」など、地域横断的な形式に対する肯定的なコメントや、「ほとんどの患者に毎日与えられるアプローチであるため、集中治療の分野で非常に重要なセミナー」「毎日この種の問題に直面しており、これらのセミナーで患者のためにより良い決定を下すことができる」などと、テーマが良かったとの回答が目立った。1名が「事前にテーマを共有して欲しい」と回答していたが、講義資料の事前共有はしているため現地側の調整不足と思われる。参考文献情報が欲しいといったコメントも2名からあった。

-分析・評価

予定時間を30分ほど超過したこともあり、アンケート回答者の4割近くがセミナー時間が長かったと回答しているが、それ以上の参加者が時間に関して「適切」と回答しており、このように複数国、複数の時間帯、そして100名以上の参加者がいるこのようなセミナーでは全員が満足する時間設定は極めて難しい。本アンケートの結果を通して、集中治療における輸液戦略をテーマとするセミナーは、多くの国においてニーズがあることが確認された。また、同じ言語圏であれば複数国や複数の医療機関を対象としたこのような横断的セミナーの形式も非常に評判が良い事が分かる。

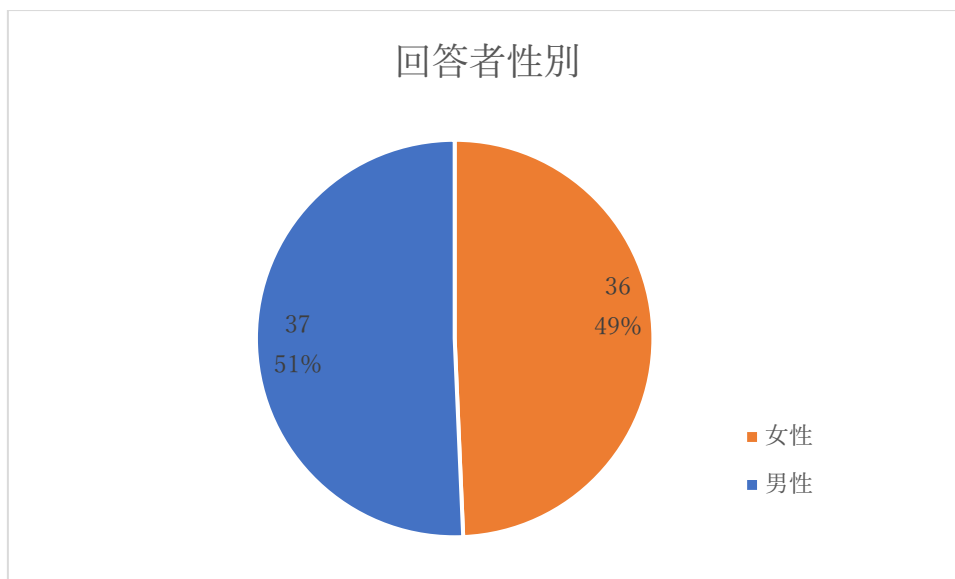
※アンケートの質問内容及び結果を添付資料として本報告書に添付

(1) アンケートの質問内容

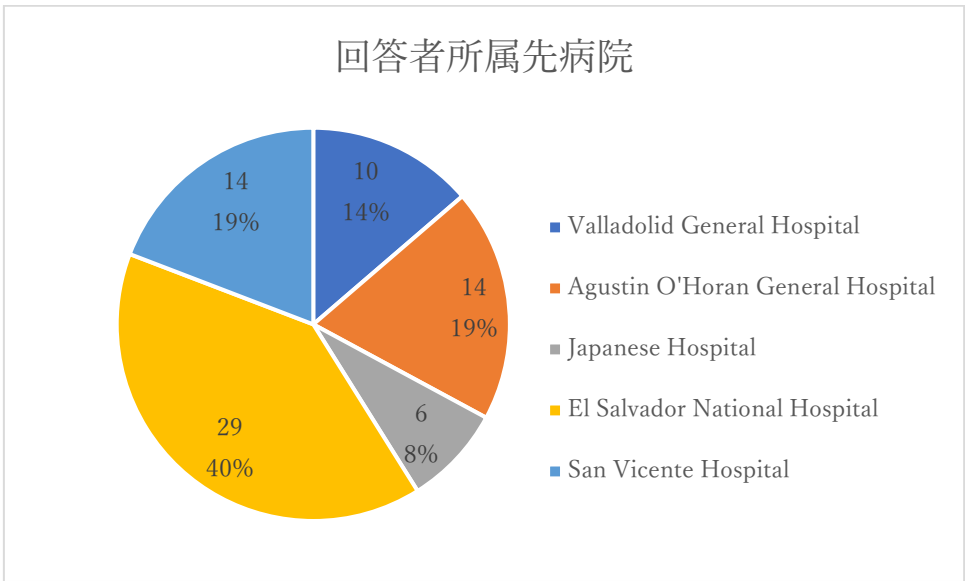
1. Name of participant
2. Sex
3. Occupation
4. Hospital
5. Country
6. How relevant was the seminar content to your needs and interests?
7. How do you rate the contents? ("Was the seminar useful for your work?")
8. What do you think about the seminar time?
9. What was the most interesting topic in the seminar?
10. What was the topic you needed more explanation about in the seminar?
11. What did you think about the seminar? Please write your opinion below.

(2) アンケートの結果グラフ (一部抜粋)

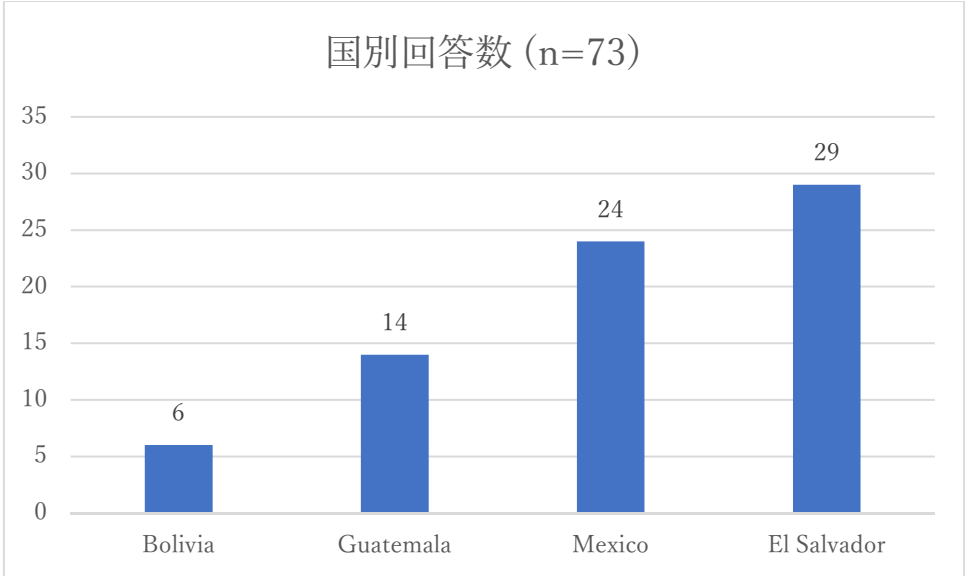
2. 性別 (n=73)



4. 所属病院 (n=73)

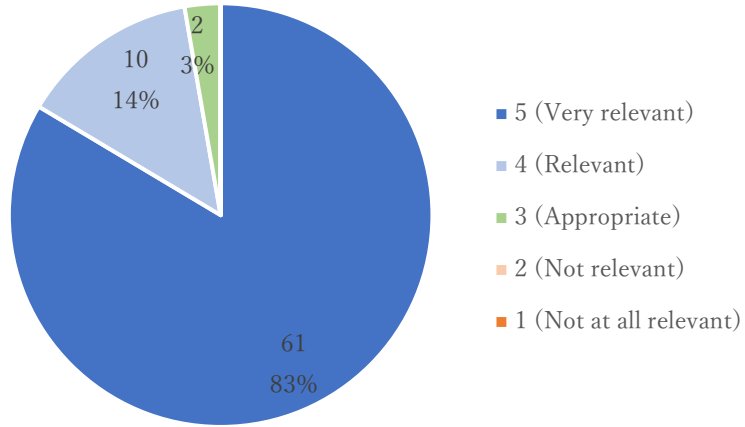


5. 国 (n=973)



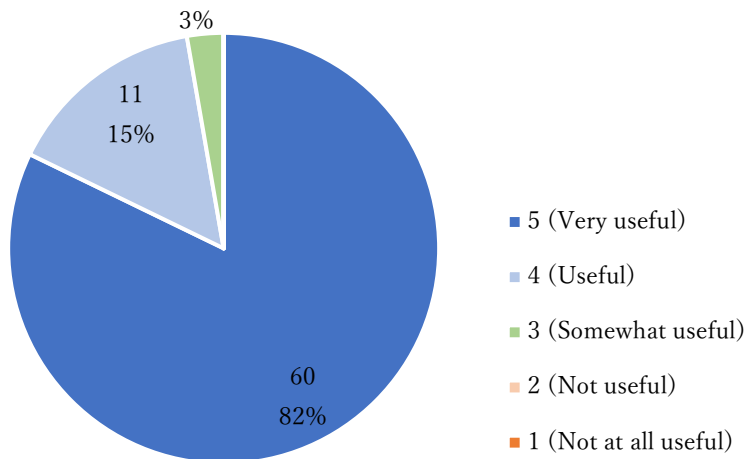
6. How relevant was the seminar contents to your needs and interests?
(n=73)

How relevant was the seminar content to your needs and interests?

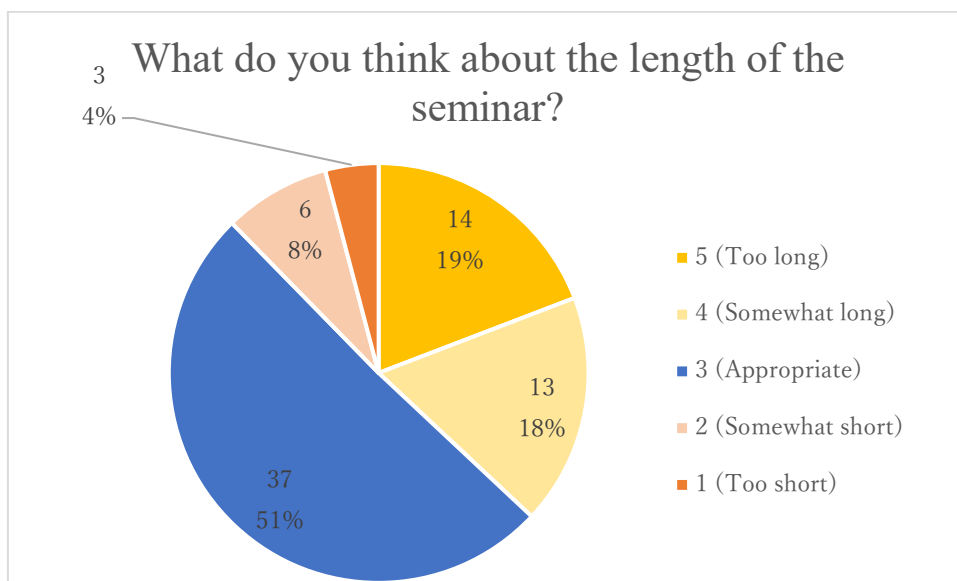


12. Was the seminar useful for your work?

Was the seminar useful for your work?



13. What do you think about the length of the seminar?



(3) 最も興味深かったセミナー内容

スペイン語	日本語
El manejo de fluidos en pacientes de cuidados intensivos	集中治療患者の輸液管理
Shock y cuando utilizar fluidos	ショックと輸液の使用時期
La medición que se hace con el paciente en semi fuller y acostado	セミファウラー位と臥位横の患者で行われる測定
Fluido terapia	輸液療法
la utilidad de los test de respuesta a fluidos	輸液反応検査の有用性
manejo del acido lactico y fluidoterapia	乳酸の管理と輸液療法
la importancia del gasto cardiaco	心拍出量の重要性
El manejo específicamente en pacientes críticos	特に重篤な患者の管理
La fisiología del uso de líquidos	輸液利用の生理学
Subrogado dinámicos de la respuesta a líquidos	輸液反応の動的サロゲート
Diagnóstico temprano de hipoperfusion tisular, acidosis láctica y tratamiento inmediato	組織低灌流、乳酸アシドーシスの早期診断と即時治療
Fluido terapia restrictivas	輸液制限療法
líquidos endovenosos y su aplicación clínica	静脈内輸液とその臨床応用
V CI como indicador estatico	静的指標としての V CI
uso de indicadores para manejo del shock	ショック管理のための指標の使用
Falla metabólica que produce el shock	ショックにつながる代謝不全
El manejo quirúrgico	外科的管理

Uso de fluidoterapia en pacientes con shock y técnicas de medición	ショック患者への輸液療法の使用と測定技術
Fórmula para saber cuál es la cantidad de oxígeno que se está transportando	運ばれている酸素量を知る式
Sobre el uso de sondas SNG y SNY	NG チューブおよび NJ チューブの使用について
Fluidos y monitorización	輸液とモニタリング

(4) 追加の解説が必要なセミナーの内容

スペイン語	日本語
Casos clínicos de ejemplo	臨床例
Tipos de líquidos, manejo de pacientes renales	輸液の種類、腎疾患の管理
Medicamentos	薬
Uso de distintas herramientas para su medición	測定のためのさまざまなツールの使用
soporte en fluidoterapia	輸液療法のサポート
la diversidad de los líquidos de infusión	輸液の多様性
El uso de líquidos en pacientes con situaciones especiales renales, hepatopatías, cardiológicas	特別な腎臓、肝障害、心臓病の患者における輸液の使用
Los métodos invasivos	侵襲的方法
Uso de cristaloideos cuál es el de uso inmediato recomendado	推奨される即時使用であるクリスタロイドの使用
Un manejo integral de líquidos no solo por vía parenteral	非経口を含む総合的な輸液管理
los tipos de SHOCK	ショックの種類
Diferencias de los líquidos más usados y enfoques clínicos	最も使用される液体と臨床的アプローチの違い
manejo antimicrobiano oportuno en caso de choque séptico	敗血症性ショックの場合のタイムリーな抗菌管理
Coloides	コロイド
Fluidoterapia en trauma de abdomen	腹部外傷における輸液療法
La parte quirúrgica	外科的部分
Intoxicaciones	中毒
Aspectos específicos de monitoreo hemodinámico no invasivo	非侵襲的血行動態モニタリングの特定の側面
La conducta a seguir	従うべき行為

Ventilacion mecanica monitorizacion	機械換気モニタリング
Variables hemodinámicas	血行動態変数
Ciclo de kreed	クリードサイクル
Cristaloide de preferencia	好ましいクリスタロイド
Tratamiento de los diferente choques	様々なショックの治療
Si para todos los tipos de shock se pueden manejar con líquidos y si no hay alguna complicación después si el shock no era hipovolemico	はい、すべてのタイプのショックに対して輸液で管理できます。後で合併症がなければ、ショックが血液量減少性のものではありませんでした。
Si fuese posible más adelante el uso de aminos en paciente con Shock	後で可能であれば、ショック患者へのアミンの使用
Nutrición	栄養
Me gustaria ver estado de choque	ショックの様子がみたい

(5) 質疑応答 質問一覧

1. ICU 入院患者の血行動態モニタリングに関して、専門家として侵襲的か非侵襲的な手法どちらを選択するか？経済的な理由などからどちらか一つしか選べない場合。
2. 腹内圧が高い外傷患者で止血をする必要がある場合やコンパートメント症候群 (LCS) 患者など輸液反応をどう判断するか？指標は？
3. このような患者は肝臓に障害があるためにアシドーシスになったり腎障害や腹内心高圧のために酸塩基並行異常などで乳酸や二酸化炭素の数値が信頼できなくなるので侵襲的な措置が推奨されると思われるが当院ではあまりその可能性がないため非侵襲的な方法で役に立てるものがあるか？
4. 輸液蘇生法でコロイドを利用したことがあるか？どの種類を推奨するか？

	<p>オンライン研修同様、先方側と調整し、病院の集会室からの集団参加のための環境を整えた。その結果、アンケートの回答者数こそ 12 名と 5 病院中一番少なかったものの、現地コンサルタントにより確認された実際の参加者数は 21 名と、その他病院と同等の参加を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答やディスカッションの時間が限られている中、ある国では病院長がコメントし看護師の声を聴くことができなかった。本セミナーは看護師対象で各国看護師間の交流を優先する趣旨は伝えていたが、今一度リマインドしておくべきであった。 ・時間管理に関しては、各病院の発表が長引く事等が懸念されたため、タイマー表示や、チャイムで制限時間を知らせる等厳しめに対策を取った。また、前述の通り通訳の時間短縮を図るなどした結果、全体的には大幅にオーバーする事なくほぼ計画通りに実施できた。 ・セミナーの最後に、各病院の C/P の代表者による、これまでの自分たちのプロジェクトの成果や進捗状況、取り組みの報告を病院紹介も兼ねて組み込んだ事でより参加型なセミナーとなり、反響が大きかった。C/P には事前に発表資料を作成してもらい、翻訳期間を要するなど手間や負担が増える事が懸念されたが、C/P らは準備も含め非常に意欲的に取り組んでた。特に、セミナー終了後に C/P らより、病院間の交流を開始したいと自主的に申し出があった事は大きな成果である。日本側で各病院のコンタクトパーソンの連絡先情報をまとめて共有し、ボリビアの C/P が中心となって今後進めていく予定である。必要に応じて日本側でサポート、フォローをしていく。また、各国の報告により、日本側としても各病院での実践状況を確認することができた。 ・アンケートへの回答を促すため、セミナーのチャット欄でのアンケートリンク共有の他、研修等で活用しているスマホアプリの各病院グループでもリンクを共有した。その結果、実際はセミナーに参加していないにも関わらずアンケートにのみ回答した人が数名いた。本セミナーでは参加証を授与する事となったため、実際の参加者を特定するには各国の現地コンサルタントによる地道な確認作業が必要となった。このような大規模の遠隔セミナーで参加証を発行する場合、参加確認方法に留意する必要がある。この点、対面でのセミナーとは異なり、より配慮が必要と感じた。
<p>全体総合評価 (アンケート結果)</p>	<p>アンケート結果・分析・評価 (8/30、12 時時点 90 名回答)</p> <p>-アンケート結果</p> <p>(問 1-5)</p> <p>アンケート回答者のうち約 31%がエルサルバドル病院所属で最も多く、13%がグアテマラのサンビセンテ病院所属で最も少なかった。その他 3 病院に関してはいずれも 16%~20%の間で同等の回答数があった。回答者のうち女性が 54%で男性が 46%であった。</p> <p>(問 6-81 および問 11)</p> <p>選択式質問のうち、セミナーの内容が興味やニーズに合致しているか、また仕事に役立つか (問 6 と問 7) という設問には、いずれも 80%以上が最も高い評価を下した。セミナー時間に関しては (問 8)、半数弱が「適切」と答えた一方で、41%が「長い」、15%が「短い」と回答し、意見が分かれた。他病院による発表の内容が自分と関連するかに関する設問 (問 11) に関しても、85%が肯定</p>

	<p>的に評価している。</p> <p>(問 9-10)</p> <p>自由回答 (問 9、問 10) に対し、2 問とも外傷看護を筆頭に様々な回答があり、その内容から今回のセミナーで扱った内容や今後さらに学びたい関連事項に関するコメントの記載が多く、セミナーに対する関心の高さが推測でき、参加者の意欲の高さを伺うことができた。</p> <p>-分析・評価</p> <p>アンケート回答者の 4 割以上がセミナー時間が長かったと回答しているが、それ以上の参加者が時間に関して「適切」と回答しており、このように複数国、複数の時間帯、そして 100 名以上の参加者がいるこのようなセミナーでは全員が満足する時間設定は極めて難しい。逆に、説明が足りなかった内容として「全て」と回答した人も複数おり、「このテーマで一つの研修コースができる」とのコメントもある等、短時間のセミナーで踏み込める内容は限られている事の表れである。しかしながら、セミナー全体の感想の自由回答 (問 12) では、「次回はもっと科学的な内容を」と回答した 1 名を除いて、「非常に良かった」「このようなセミナーをもっと実施すべき」「非常に興味深い」「役に立つ内容だった」と肯定的な意見ばかりであった。本アンケートの結果を通して、外傷看護をテーマとするセミナーは、多くの国においてニーズがあることが確認された。また、「他病院／各々の専門家の意見が聞けたのが非常に良かった」「他の参加国の進捗を知れて興味深かった」など、地域横断的に実施し、各国の報告や意見交換も可能にしたことを評価する声も多かった。</p>
--	---

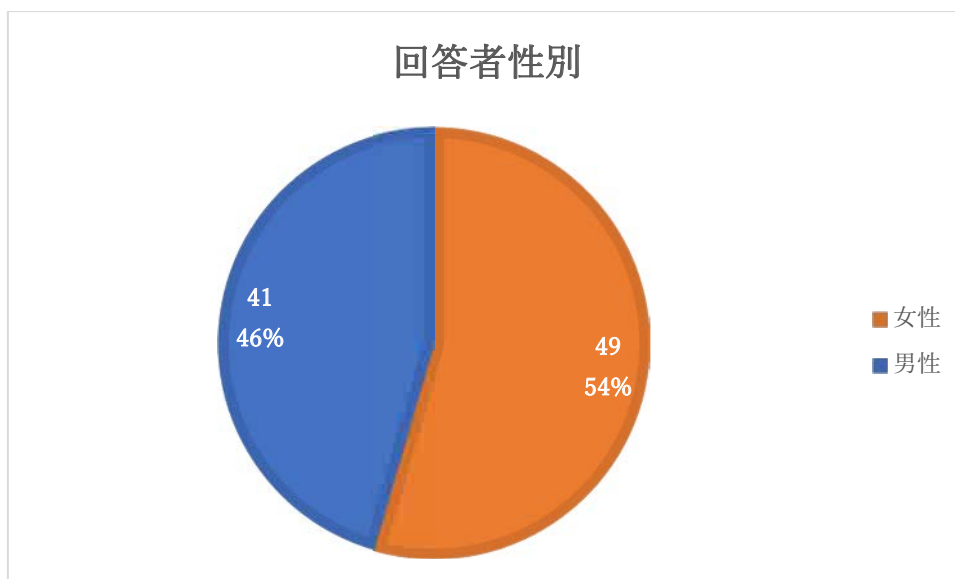
※アンケートの質問内容及び結果を添付資料にとして本報告書に添付

(1) アンケートの質問内容 (実際のアンケートはスペイン語で実施)

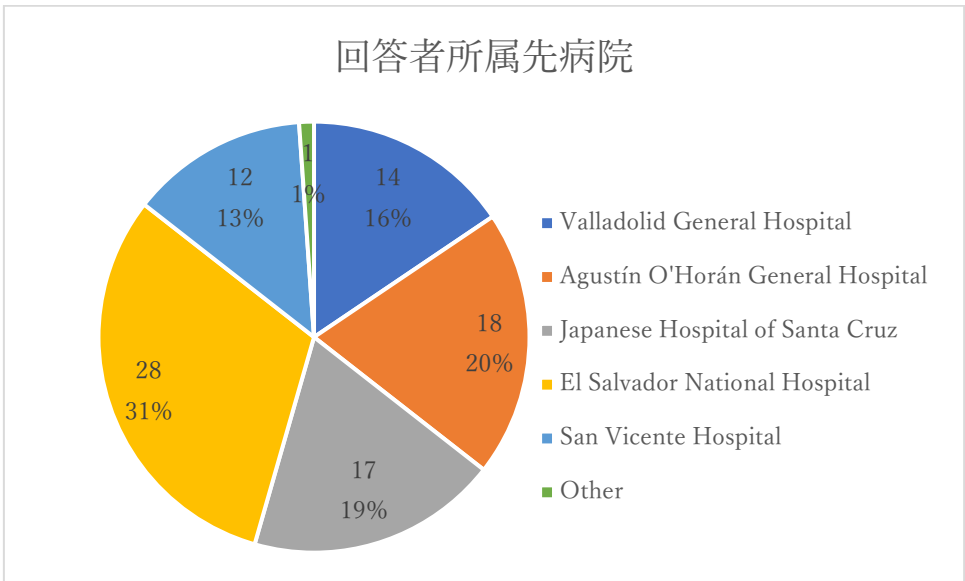
1. Name of participant
2. Sex
3. Occupation
4. Hospital
5. Country
6. How relevant was the seminar contents to your needs and interests?
7. Was the seminar useful for your work?
8. What do you think about the length of the seminar?
9. What was the most interesting topic in the seminar?
10. What was the topic you needed more explanation about in the seminar?
11. How relevant was the content of the presentations by the other hospitals?
12. What did you think about the seminar? Please write your opinion below.

(2) アンケートの結果グラフ (一部抜粋)

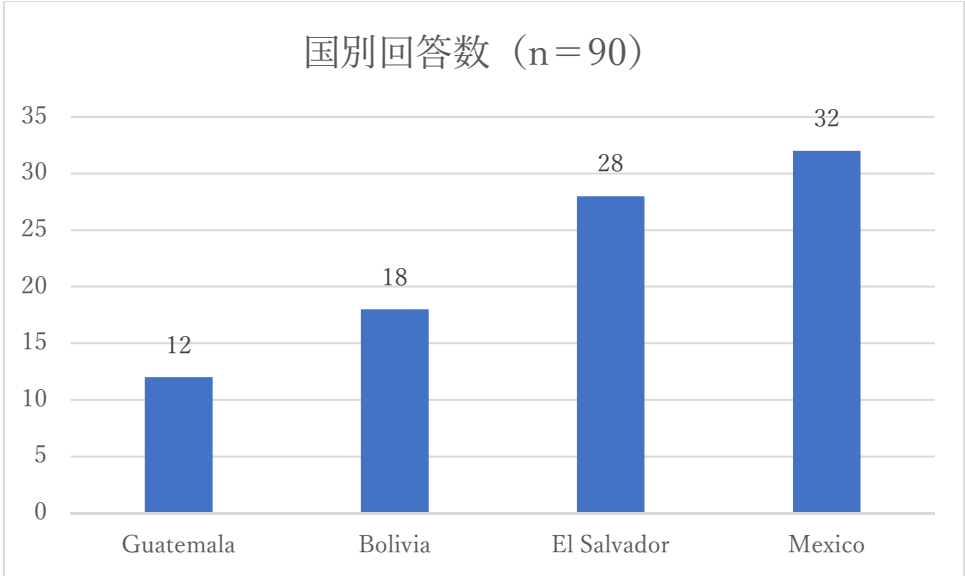
2. 性別 (n=90)



4. 所属病院 (n=90)

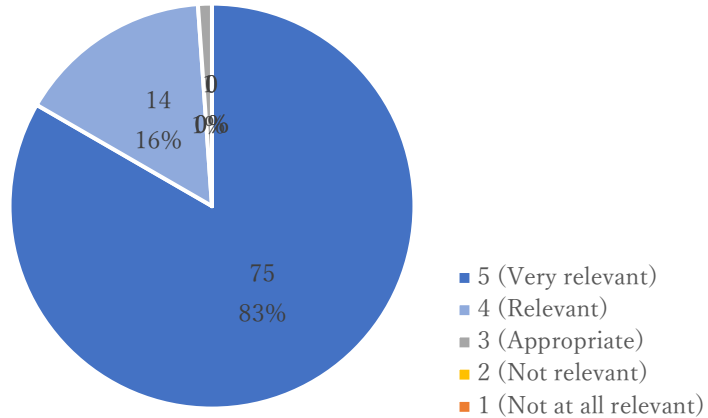


5. 国 (n=90)



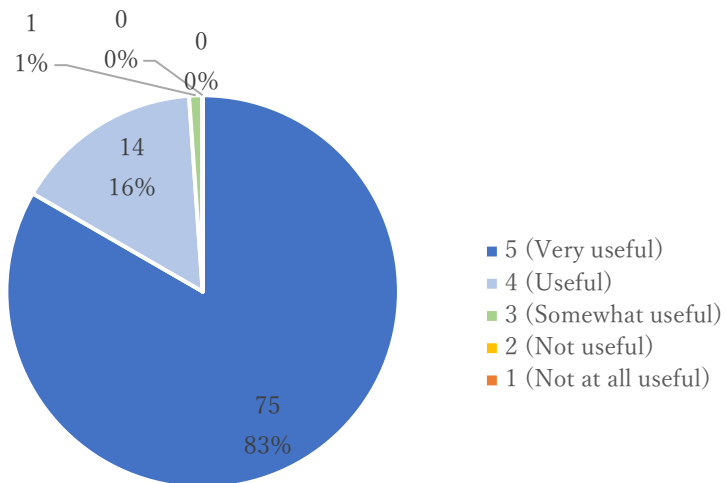
6. How relevant was the seminar contents to your needs and interests?
(n=90)

How relevant was the seminar contents to your needs and interests?



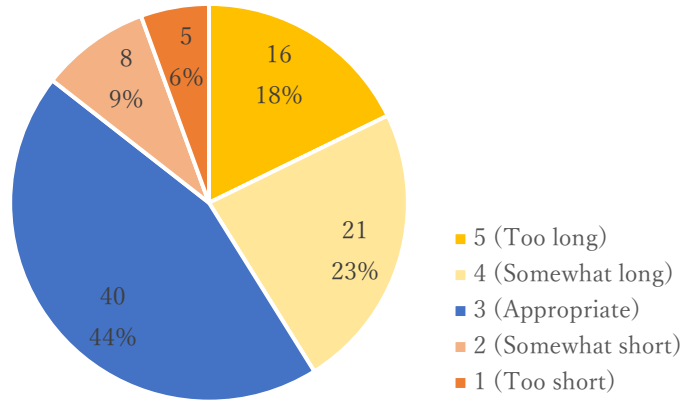
13. Was the seminar useful for your work?

Was the seminar useful for your work?



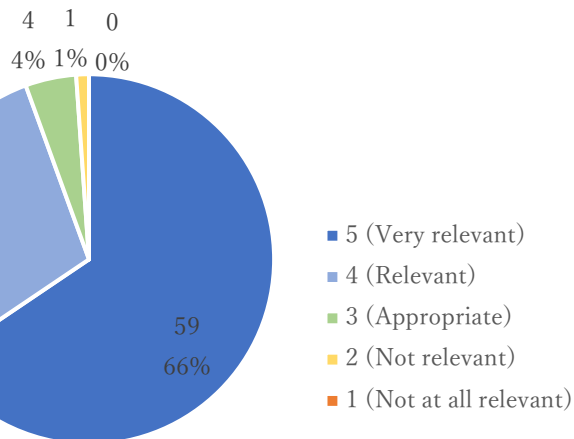
14. What do you think about the length of the seminar?

What do you think about the length of the seminar?



15. How relevant was the content of the presentations by the other hospitals?

How relevant was the content of the presentations by the other hospitals?



(3) 最も興味深かったセミナー内容

スペイン語	日本語
PROCESO DE ENFERMERIA TRAUMATOLOGIA	看護外傷のプロセス
APOYO VITAL AVANZADO EN TRAUMA	外傷における高度バイタルケア
Algoritmo de evaluacion primaria	初期評価のアルゴリズム
Sistema respiratorio	呼吸器系
Manejo de paciente critico en el aspecto de la intubacion para trauma	挿管における重症患者の管理
Valoración del paciente con trauma en el proceso de atención en enfermería	看護ケアプロセスにおける外傷患者の評価

La atención a pacientes politraumatizado el uso del Abcd	多発性外傷患者のケアと ABCD
Pacientes con cardiopatía	侵襲的患者の輸液管理
Neumotórax abierto	人工呼吸器取り外しのタイミング
Los test que se utilizan en el triash para clasificar las emwrgencias en traumas	侵襲的換気
El manejo de las vías respiratorias en paciente con trauma	急性呼吸窮迫症候群
Movilidad de paciente de trauma	敗血症
El tema del manejo y traslado del pte	緊急時の対応と治療
Trauma torácico	新生児蘇生
El traumatismo y el shock hipovolémico	高流量経鼻療法
Hemotorax	非侵襲的人工呼吸器
Las lesiones que comúnmente atienden en japon	不整脈の緊急管理
Las mejoras que han presentado en el personal	肺炎と喘息
Terapia ventilatoria	小児救急・集中治療
Manejo cardicompresor	白血病

(4) 追加の解説が必要なセミナー内容

スペイン語	日本語
Capacitación para el equipo	チームのトレーニング
Hemorragia interna	内出血
Uso (paciente crítico, consulta externa, seguimiento) y legislación de teleenfermería	使用（重要な患者、外部相談、フォローアップ）および遠隔看護法
Traslado de pacientes	患者の移動
Las experiencias en casos de traumas en Japon	日本での外傷事例の経験
Forma de trasladar a paciente a otro hospital sin alterar el estado hemodinamico	血行動態を変えずに患者を別の病院に移す方法
Las escalas de valoración	評価スケール
HEMORRAGIAS	出血
Trauma abdominal en relación a cuidados	ケアに関連した腹部外傷
Inmovilizaciones en una emergencia de trauma	外傷緊急時の固定
Los medias de protección	保護ストッキング
Manejo del trauma abdominal	腹部外傷の管理
Trauma de cadera	腰の外傷
ABCDE manejo trauma	ABCDE トラウママネジメント
Manejo del paciente ventilado	換気患者の管理
Tipos de traumatismos	トラウマの種類

Ventilación mecánica	人工呼吸
Manejo de medicación	服薬管理
Medicamentos y RCP	投薬と CPR
Gasometria	ガソメトリー
Via aerea	気道
Sobre la bomba infusión	輸液ポンプについて
Humanización cuidados integrales	人間化総合ケア
Estabilización hemodinámica en paciente traumatizado	外傷患者における血行動態の安定化
Síndrome de distress respiratorio	呼吸窮迫症候群
Neumotórax abierto	開放性気胸

(4) 質疑応答 質問一覧

1. ドクターヘリで患者を搬送する際に気管チューブのカフには空気を入れた状態か？
2. 頭部外傷の患者に胃管チューブを挿管する場合は経鼻か経口か？
3. 腹部外傷で下血腫などリスクが高い場合、尿道カテーテルを使うか直接膀胱に針を刺すか？
4. 患者を空輸する際に骨折の疑いがある場合、固定させるか？また搬送前に診断するか？
5. 低血糖患者の場合、糖分が含まれる輸液をするか？
6. 搬送する外傷患者の病院前の治療スタッフと病院のスタッフ間のコミュニケーションはどうしているか？
7. ABCDE の評価を病院前と病院内両方で実施すべきか？
8. ABCDE に関して、別の説があり、まずは出血管理してから ABCDE を実施すべきという説に関してどう思われるか？

資料 6_各国別調達機材リスト

インドネシア国 インドネシア大学病院納入医療機材

『新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：10/11, 3, 2022

受注者名：PT. Indomedik Niaga Perkasa

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Portable X-ray machine	Fuji Film	FDR nano	1
2	Electrocardiogram	Nihon Kohden	ECG-2450	1
3	Mobile Ventilator	Dräger	Oxylog VE3500	1
4	Central monitor	Nihon Kohden	CNS-6201	2
5	Blood gas analyzer	Nova	CCS Comp	1
6	Defibrillator	Nihon Kohden	TEC-5631	2
7	Glucometer	Nova	Xpress	2
8	Suction unit	Koike Medical	YOX GL-I 511	16
9	Oxygen flow meter	Koike Medical	Safetyflow-I	16
10	syringe pump	Terumo	SS730N	96
11	Infusion pump	Terumo	LM730N	16
12	Emergency Bag1	Various Brand	Various brand with Laerdal Mask	2
13	Emergency Bag2	Acoma	Emergency Resuscitation set	2
14	Nasal High-Flow Oxygen System	Masimo	Softflow 50	3
15	Ultrasonography	GE Healthcare	Versana Balance	1
16	Video Laryngoscope	Medtronic	McGRATH MAC	2
17	ECG multiparameter monitor	Edward	EV1000	1
18	Iv stand	MAK	MA201	16
19	Oxygen cylinder			2
20	Oxygen cylinder holder			2
21	Dialysis machine	Fresenius	4008	1
22	Examination light	Skylux	CS01	2
23	ICU patient bed	MAK	MB407	16
24	Ventilator	Acoma	ART-300	16
25	Bed-side monitor	Nihon Kohden	BSM 3562	16
26	Stretcher	MAK	MS 302	1
27	Refrigerator for Blood	PHC	MBR-107D(H)	1
28	Patient lift scale	Seca	952	1

インドネシア国 ハサヌディン大学病院納入医療機材

『新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：14/15, 3, 2022

受注者名：PT. Next Nippon Technology

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Portable X-ray machine	Fuji Film	FDR nano	1
2	Electrocardiogram	Nihon Kohden	ECG-2450	1
3	Mobile Ventilator	Dräger	Oxylog VE3500	1
4	Central monitor	Nihon Kohden	CNS-6201	1
5	Blood gas analyzer	Nova	CCS Comp	1
6	Defibrillator	Nihon Kohden	TEC-5631	1
7	Glucometer	Nova	Xpress	2
8	Suction unit	Koike Medical	YOX GL-I 511	5
9	Oxygen flow meter	Koike Medical	Safetyflow-I	5
10	syringe pump	Terumo	SS730N	10
11	Infusion pump	Terumo	LM730N	10
12	Emergency Bag1	Various Brand	Various brand with Laerdal Mask	1
13	Emergency Bag2	Acoma	Emergency Resuscitation set	1
14	Nasal High-Flow Oxygen System	Masimo	Softflow 50	2
15	Ultrasonography	GE Healthcare	Versana Balance	1
16	Video Laryngoscope	Medtronic	McGRATH MAC	2
17	ECG multiparameter monitor	Edward	EV1000	2
18	Warming system	Medtronic	Warmtouch	2
19	Iv stand	MAK	MA201	5
20	Oxygen cylinder			3
21	Oxygen cylinder holder			3
22	Enteral feeding pump	Covidien	Kangaroo	1
23	Pharmaceutical Refrigerator	PHC	CS01	1
24	ICU patient bed	MAK	MB407	5
25	Ventilator	Acoma	ART-300	5
26	Bed-side monitor	Nihon Kohden	BSM 3562	5
27	Intermittent pneumatic compression device	Cardinal Health	SCD 700	2
28	Water Proof Cleaner	Krisbow	60L	2
29	Stretcher	MAK	MS 302	1
30	Ultrasonic blood flow meter	Hadeco	Smartdrop 45	1
31	Patient lift scale	Seca	952	1
32	Fiber-optic bronchoscope	Olympus	BF-Q170, CV-170	1
33	Sterilizer (Vertical typ)	Tomy	Sx-500	1

トンガ国 バイオラ病院納入医療機材

『大洋州地域新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：16, 9, 2022

受注者名：NANYO BOEKI 南洋貿易株式会社

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Portable X-ray machine	Fuji Film	FDR nano FDR D-EVO II	1
2	Electrocardiogram	Nihon Kohden	ECG-3350K	1
3	Mobile Ventilator	Dräger	Oxylog 3000 Plus	1
4	Central monitor	Nihon Kohden	CNS-6201K	1
5	Blood gas analyzer	Technomedica	GASTAT-730	1
7	Defibrillator	Nihon Kohden	TEC-8352K	1
9	Suction unit	Central Uni	+VICA	5
10	Oxygen flow meter	Central Uni	OXYTUNE	5
11	syringe pump	TOP	TOP-5520	10
12	Infusion pump	TOP	TOP-2300	10
13	Emergency Cart	Muranaka	PR-649	1
14	Emergency Bag	Blue cross	ACICRW-ED-FPS	1
15	Emergency Bag	Acoma	Emergency Bag	1
16	Nasal High-Flow Oxygen System	Vincent	VUN-001	2
17	Ultrasonography	Konica Minolta	SONIMAGE MX1	1
18	Video Laryngoscope	Medtronic	McGRATH MAC	2
19	Small Surgical Set (Tracheotomy Set)	Takasago	TKZ-TR22F	1
20	Small Surgical Set (Chest Drainage Set)	Nippon Covidien	5620-0820	1
21	Small Surgical Set (Peritoneal Drainage Set)	Nippon Covidien	5620-0809	1
22	Iv stand	Paramount bed	KC-56E	5
23	Oxygen cylinder	Asahi	661109	1
24	Oxygen cylinder holder	Paramount bed	KC-83CE	1
26	Refrigerator and Freezer combination unit	EBAC	HYCD-469NF	1
27	Examination light	IXM	Clover series Mobile stand type CS01G	1
28	Cabinet	Kokuyo	HP-MCBWG6424N	1
29	Mixing table	Kokuyo	HP-MWTV431507WNN	1
30	Nurse table	Kokuyo	HT1-T1485HW-SWPW1	1
31	ICU patient bed	Paramount bed	KA-H752	5
32	Air mat	Cape	BIGCELL840	5
33	Ventilator	Dräger	SAVINA 300 Select	4
34	Bed-side monitor	Nihon Kohden	Life scope-G	5
35	Foot pump	Nihon Shigmax	CARETHROM	5
36	Nursing cart	Kokuyo	FREE+	1
37	Portable Toilet	RICHIL	PS2	2
38	Urine organ	Asone	8-8242-02(Female) 8-8242-01 (Male)	10

パラオ国 ベラウ国立病院納入医療機材

『大洋州地域新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：20, 12, 2022

受注者名：株式会社テックインターナショナル

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Portable mobile X-ray machine	Fuji Film	Calneo Aqro(X Nano)	1
2	12-lead electrocardiogram	Nihon Kohden	ECG-3350	1
3	Mobile ventilator	Dräger	Oxylog 3000 Plus	1
4	Central monitor	Nihon Kohden	CNS-6201K	1
5	Blood gas analyzer	Technomedica	GASTAT-730	1
7	Defibrillator	Nihon Kohden	TEC-8352K	1
9	Suction unit	Central Uni	vica	4
10	Oxygen flow meter	Central Uni	P-321	4
11	syringe pump	TOP	TOP-5520	8
12	Infusion pump	TOP	TOP-2300	4
13	Emergency cart	Muranaka	PR-649	1
14	Emergency bag (1) (Tracheal tube, Stylet, Cu)	Blue closs	ACICRW-ED-FPS	1
15	Emergency bag(2) (Bag valve mask, Jackson F	Acoma	Emergency Bag	1
16	Nasal high-flow oxygen system		AIRVO	2
17	Ultrasonography	Konica minolta	Sonimage MX-1	1
18	Video laryngoscope		McGRATH MAC	1
19	Small surgical set (Tracheotomy set)	Takasago	TKZ-TR22F	1
20	Small surgical set (Chest drainage set)	Nippon Covidien	5620-0820	1
21	Small surgical set (Peritoneal drainage set)	Nippon Covidien	5620-0809	1
22	Iv stand	Paramount bed	KC-56E	4
23	Oxygen cylinder	Asahi		1
24	Oxygen cylinder holder	Paramount bed	KC-83CE	1
26	Freezer and refrigerator for chemical storage	Fukushima Garilay	MPR-414F	1
27	Examination light	Skylax	CS01	1
28	Cabinet	Kokuyo	HP-MCBWG6424N	1
29	Mixing table	Kokuyo	HP-MWTV431507WN	1
30	Nurse table	Asone	HT1-T1485HW-SWPW1	1
31	ICU patient bed	Paramount bed	KA-H752	4
32	Air mat	Asone	840	4
33	VentilatorA	Acoma	ART-300	3
34	Bed-side monitorA	Nihon Kohden	BSM-3562	4
35	Foot pump	Nihon Shigmax	CARETHROM	4
36	Nursing cart	Kokuyo	FREE+	1
37	Portable toilet	RICHIL	PS2	2
38	Urine organ	Asone	8-8242-02(Female) 8-8242-01 (Male)	8

ケニア国 コースト総合教育病院納入医療機材

「アフリカ保健システム強化パートナーシッププロジェクトフェーズ2」

検査年月日：17, 10, 2022

受注者名：Nairobi X-Ray supplies Ltd.

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Mobile digital X-ray machine	Konica	Aero DR X10	1
2	12-lead electrocardiogram	Nihon Kohden	ECG-3350K	1
3	Central monitor	Nihon Kohden	CNS-9101K	1
4	Bed-side monitor	Nihon Kohden	BSM-3562K	10
5	Defibrillator	Nihon Kohden	TEC-5621K	1
6	Patient trolley	Midmark	1710A	1
7	Mobile ventilator	Marquet	Servo Air	1
8	Blood Gas Analyzer	Siemen	RP500E	1
9	Syringe pump	BLT Biolight	P500	20
10	Infusion pump	BLT Biolight	P600	20
11	Emergency cart	Midmark	9005	2
12	Emergency Bag 1			2
13	Emergency Bag 2			2
14	Ventilator	Acoma Medical	ART-300	8
15	Nasal High-Flow Oxygen System	Heyer	NeoHiF i5	4
16	Ultrasonography	Siemens	P500	1
17	Video Laryngoscope	Medtronics	McGrath Handle	4
18	Small Surgical Set(Tracheotomy Set,)			2
19	Small Surgical Set(Chest Drainage Set)			2
20	Small Surgical Set(Peritoneal Drainage Set)			2
21	ICU patient bed	Arjo	ENT-1000	10
22	Iv stand			10
23	Oxygen cylinder			2
24	Oxygen cylinder holder			2
25	Enteral feeding pump	MEDCAPTAIN	EP-60	2
26	Pharmaceutical Refrigerator	Haier	HYCD-282	1
27	Examination light	Gima	Satumo	1
28	Cabinet for medical materials	Generic	Non	1
29	Nursing cart			2
30	Air mat	Arjo	Alpha Active	10
31	Intermittent pneumatic compression device	Arjo	Flowtron	10
32	Portable Toilet	Generic	Bedpen SS	4
33	Urine Bottle	Generic	Non	20
34	Portable suction machines	Folee	3090A2	2

モザンビーク国 マプト中央病院納入医療機材

『新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：5/6/7, 10, 2022

受注者名： AFRI FARMACIA, LDA

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Portable mobile X-ray machine	Del Medical	9000- MDR	1
2	12-lead electrocardiogram	Nihon Kohden	ECG-3350	1
3	Central monitor	Nihon Kohden	CNS-6201	1
4	Bed-side monitor	Nihon Kohden	BSM3000	8
5	Defibrillator	Nihon Kohden	TEC-8300K	1
6	Blood test equipment (HbA1 c /CRP)	Siemens	DCA Vantage	1
7	Mobile ventilator	Oxivent	Oxy4plus	1
8	Blood gas analyzer	Convergent	Convergys	1
9	Suction unit	NARANG MEDICAL	SU56	8
10	Oxygen flow meter	NARANG MEDICAL	NIL	8
11	syringe pump	STERNMED	SPN 58	16
12	Infusion pump	STERNMED	IPN 56	8
13	Emergency cart	NARANG MEDICAL	HF2204-1	2
14	Emergency bag (1) (Tracheal tube, Stylet, Cuff)	NARANG MEDICAL	EKPT	2
15	Emergency bag(2) (Bag valve mask, Jackson Re)	NARANG MEDICAL	ERS	2
16	Ventilator	Getinge	Servo U	4
17	Nasal high-flow oxygen system	AIRBLEND	HF60L	4
18	Ultrasonography	Siemens	ACUSON P500	1
19	Video laryngoscope	BPL	VL-02	2
20	Small surgical set (Tracheotomy set)	NARANG MEDICAL	NM648	2
21	Small surgical set (Chest drainage set)	NARANG MEDICAL	CD KIT	2
22	Small surgical set (Peritoneal drainage set)	NARANG MEDICAL	AD KIT	2
23	ICU patient bed	NARANG MEDICAL	ICU BED	8
24	Iv stand	NARANG MEDICAL	IV STAND	8
25	Enteral feeding pump	Fresenius Kabi	Amika	2
26	Freezer and refrigerator for chemical storage	NUVE	MD 120	1
27	Examination light	Technomed	EL-NOVA	1
28	Cabinet	NARANG MEDICAL	INSTRUMENT CABINET	1
29	Mixing table (Intravenous working table)	NARANG MEDICAL	HF2268	1
30	Nurse table	NARANG MEDICAL	HF9357	2
31	Nursing cart	NARANG MEDICAL	NURSING CART	1
32	Air mat	NARANG MEDICAL	AIR MAT	8
33	Intermittent pneumatic (Sequential) compressio	NARANG MEDICAL	SEQUENTIAL COMPRESSION DEVICE	4
34	Portable toilet	NARANG MEDICAL	HF1107	2
35	Urine bottle	NARANG MEDICAL	HH928	8
36	Bedpan washer	NARANG MEDICAL	NET-BP-60	1
37	Film Viewer	NARANG MEDICAL	DP312A	1
38	Vein detector	TRANSLITE	VEIN LITE LED+	1
39	Patient lifter (Lift scale)	Detecto	IBFF500	1
40	Stretcher	NARANG MEDICAL	HF1970	1
41	Sterilizer (Table top)	SUMER	ADELA 40	1
42	Hemodialysis machine	NIPRO	Surdial X2	1

セネガル国 ダラルジャム病院納入医療機材

『新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：21/22, 9, 2023

受注者名：オガワ精機株式会社

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Portable mobile X-ray machine	DMS(APELEM)	RAFALE DR	1
2	12-lead electrocardiogram	Nihon Kohden	ECG-3350K	1
3	Central monitor	Nihon Kohden	CNS-6201K	1
4	Bed-side monitor	Nihon Kohden	BSM3562K	5
5	Defibrillator	Nihon Kohden	TEC-8352K	1
6	Blood test equipment (HbA1c /CRP)	Siemens	DCA Vantage	1
7	Mobile ventilator	Dräger	Oxylog 3000 Plus	1
8	Blood gas analyzer	Siemens	RP500E	1
9	Suction unit	Koike medical	GL S511	5
10	Oxygen flow meter	Koike medical	P-321	5
11	syringe pump	Fresenius Kabi	Ajilia SP	15
12	Infusion pump	Fresenius Kabi	Ajilia VP	5
13	Emergency cart	Muranaka	Plum	2
14	Emergency bag (1) (Tracheal tube, Stylet, Cuff pressure manometer, Bite block, Fixing tape, etc)	Blue cross	ACICRW-ED-FPS	2
15	Emergency bag(2) (Bag valve mask, Jackson Rees, Oxygen mask)	Acoma medical	Medical Emergency set	2
16	Ventilator	SIARE Engineering	ARIA 150	4
17	Nasal high-flow oxygen system	Fisher & Paykel healthcare	AIRVO2	2
18	Ultrasonography	Siemens	ACUSON P500	1
19	Video laryngoscope	Medtronic	McGRATH MAC	2
20	Small surgical set (Tracheotomy set)	Takasago	TKZ-TR22F	2
21	Small surgical set (Chest drainage set)	Nippon Covidien	5620-0820	2
22	Small surgical set (Peritoneal drainage set)	Nippon Covidien	5620-0809	2
23	ICU patient bed	Paramount bed	KA-59121A	5
24	Iv stand	Paramount bed	KC-56E	10
25	Oxygen cylinder			2
26	Oxygen cylinder holder	Paramount bed	KK-34	2
27	Enteral feeding pump	Fresenius Kabi	Amika	2
28	Freezer and refrigerator for chemical storage	Panasonic	MPR-215F-PE	1
29	Examination light	Skylax	CS01	1
30	Cabinet	Kokuyo	HP-MCBWG6424N	2
31	Nurse table	Kokuyo	HP-MWTV431507WN	1
32	Nursing cart	Okamura	LG11CH-ZD21	2
33	Air mat	Ceap	Air doctor	5
34	Intermittent pneumatic (Sequential) compression device (Foot pump)	Nippon Covidien	SCD700	5
35	Portable toilet	RICHIL	PS2	2
36	Urine bottle	Asona	8-8242-02(Female) 8-8242-01	5
37	Film Viewer	Tanaka seiki	LH-2	1
38	Vein detector	Asona	NVS500	1
39	Patient lifter (Lift scale)	Detecto	IBFL500	1
40	Hemodialysis machine	NIPRO	Surdial X	1

ボリビア国 日本病院納入医療機材

『新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：24, 3, 2022, 27-29/4/2022 受注者名：HP Medical

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Ventilator	Dräger	Evita 300	15
2	Bed-side monitor	Dräger	Vista120S	15
3	Fiber-optic bronchoscope	Olympus	LF-TP	2
4	Sterilizer (Bench typ)	TECNO	EUROPA B EVO 15	2
5	Patient lift scale	DETECTO	IB800	2

グアテマラ国 サンピセンテ病院納入医療機材

『新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：25, 3, 2022

受注者名： 各社代理店

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Portable mobile X-ray machine	Fuji Film	RAFALE DR	1
2	12-lead electrocardiogram	Advanced	ECG-12C	1
3	Central monitor	Dell	Centra plus 800	1
4	Bed-side monitor	Advanced	PM-2000XL	5
5	Defibrillator	Advanced	D-100	1
6	Blood test equipment (HbA1c /CRP)	Multiparametrico	Easy Reader	1
7	Mobile ventilator	Magnamed	OxyMag	1
8	Blood gas analyzer	Epoc Reader	RCPZEZQ18-022	1
9	Suction unit	Amico	SRA-CI	5
10	Oxygen flow meter	Precision Medical	8MFA	5
11	syringe pump	Advanced	SP-200	15
12	Infusion pump	Advanced	SH-608	10
13	Emergency cart	Guatemet		1
14	Emergency bag (1) (Tracheal tube, Stylet, Cuff pressure manometer, Bite block, Fixing tape, etc)	Ambu		1
15	Emergency bag(2) (Bag valve mask, Jackson Rees, Oxygen mask)	Ambu		1
16	Ventilator	Magnamed	Fleximag plus	4
17	Nasal high-flow oxygen system	Omniox	HFT500	2
18	Ultrasonography	Advanced	DUS-5000+	1
19	Video laryngoscope	Airtraq	A-390	1
20	Small surgical set (Tracheotomy set)			1
21	Small surgical set (Chest drainage set)	Redax		1
22	Small surgical set (Peritoneal drainage set)			1
23	ICU patient bed	Linet	Eleganza 2	5
24	Iv stand			10
25	Oxygen cylinder			1
26	Oxygen cylinder holder	Roscoe medical	E-CCARTPC	1
27	Enteral feeding pump	Witleaf	Brio-EFP	2
28	Freezer and refrigerator for chemical storage	PHCBI	MPR-N250FH-PA	1
29	Examination light	WelchAllyn	GS900	1
30	Nursing cart	Paramount bed	Y703C	1
31	Air mat	Linet	Air2care	5
32	Intermittent pneumatic (Sequential) compression device (Foot pump)	Beurer	FM1580	5
33	Portable toilet			4
34	Urine bottle			5

メキシコ国 オーラン病院納入医療機材

『新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：17, 3, 2022

受注者名：高砂エンジニアリング株式会社

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Mobile X-ray machine	AGFA	DR100	1
2	ECG unit	Philips	TC-30	1
3	Mobile ventilator	Philips	Trilogy Evo	1
4	Ventilator for non-invasive positive pressure ventilation	PB560	Trilogy Evo	2
5	Central monitor	Philips	PIIC IX	1
6	Blood gas analyzer	Abbott	-STAT	1
7	Blood test equipment (HbA1c/CRP)	Nihon Kohden	CHM-4100	1
8	Defibrillator	Philips	DFM-100	1
9	Glucometer	Roche	Accu-chek active	2
10	Suction unit	CA-MI	Hospivac 350	7
11	Oxygen flow meter	Aramed		7
12	syringe pump	TERUMO	TSS 800	35
13	Infusion pump	TERUMO	TE-LM835	18
14	Emergency cart	Givas	CP0011	1
15	Emergency bag (1)	Various	Various	1
16	Emergency bag(2)		Hemco	1
17	Nasal high-flow oxygen system	Fisher&Paykel	AIRVO2	1
18	Ultrasonography	Samsung	HS40	1
19	Acute blood purification machine	Baxter/Gambro	Prismax	1
20	Ventilator	Puritan Bennett	840	5
21	Low pressure continuous aspirator	CA-MI	Hospivac 350	1
22	Small Surgical Set(Tracheotomy Set,)	Various		1
23	Small Surgical Set(Chest Drainage Set)	COOK MEDICAL	G56532	1
24	Small Surgical Set(Peritoneal Drainage Set)			1
25	Activated coagulation time measuring device	Helena Laboratories	Actalyke Mini II	1
26	ECG multiparameter monitor	Edwards	Hemosphere EDWHEMSGOZAQ	1
27	Warming system	Covidien	Warm touch	1
28	ICU Patient bed	Givas	EBT508	5
29	Iv stand	Givas		10
30	Oxygen cylinder	Infra / MEDIFEX	OXIVIDA	6
31	Oxygen cylinder holder	Givas		6
32	Enteral feeding pump	Kangaroo	Cardinal Health	5
33	Examination light	Rimsa	Alfa Flex	1
34	Cabinet for medical materials	Herlis	HM12	1
35	Mixing table	Herlis	HM272	1
36	Nurse table	Herlis	HM67-1	1
37	Air mat	Givas	Domus 3	5
38	Bed-side monitor A	Philips	CM150	5
39	Intermittent pneumatic compression device	WLQK		5
40	Nursing cart	Herlis	HM67-1	5

メキシコ国 バジャドリド病院納入医療機材

『新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト』

検査年月日：15, 3, 2022

受注者名：高砂エンジニアリング株式会社

No.	Name of Item	Brand	Model No.	Q'ty
1	Mobile X-ray machine	AGFA	DR100	1
2	ECG unit	Philips	TC-30	1
3	Mobile ventilator	Philips	Trilogy Evo	1
4	Ventilator for non-invasive positive pressure ventilation	PB560	Trilogy Evo	2
5	Central monitor	Philips	PIIC IX	1
6	Blood gas analyzer	Abbott	-STAT	1
7	Blood test equipment (HbA1c/CRP)	Nihon Kohden	CHM-4100	1
8	Defibrillator	Philips	DFM-100	1
9	Glucometer	Roche	Accu-chek active	2
10	Suction unit	CA-MI	Hospivac 350	8
11	Oxygen flow meter	Aramed		8
12	syringe pump	TERUMO	TSS 800	42
13	Infusion pump	TERUMO	TE-LM835	21
14	Emergency cart	Givas	CP0011	1
15	Emergency bag (1)	Various	Various	1
16	Emergency bag(2)		Hemco	1
17	Nasal high-flow oxygen system	Fisher&Paykel	AIRVO2	1
18	Ultrasonography	Samsung	HS40	1
19	Acute blood purification machine	Baxter/Gambro	Prismax	1
20	Ventilator	Puritan Bennett	840	6
21	Low pressure continuous aspirator	CA-MI	Hospivac 350	1
22	Small Surgical Set(Tracheotomy Set,)	Various		1
23	Small Surgical Set(Chest Drainage Set)	COOK MEDICAL	G56532	1
24	Small Surgical Set(Peritoneal Drainage Set)			1
25	Activated coagulation time measuring device	Helena Laboratories	Actalyke Mini II	1
26	ECG multiparameter monitor	Edwards	Hemosphere EDWHEMSGOZAQ	1
27	Warming system	Covidien	Warm touch	1
28	ICU Patient bed	Givas	EBT508	6
29	Iv stand	Givas		11
30	Oxygen cylinder	Infra / MEDIFEX	OXIVIDA	7
31	Oxygen cylinder holder	Givas		7
32	Enteral feeding pump	Kangaroo	Cardinal Health	5
33	Examination light	Rimsa	Alfa Flex	1
34	Cabinet for medical materials	Herlis	HM12	1
35	Mixing table	Herlis	HM272	1
36	Nurse table	Herlis	HM67-1	1
37	Air mat	Givas	Domus 3	6
38	Bed-side monitor A	Philips	CM150	6
39	Intermittent pneumatic compression device	WLQK		6
40	Nursing cart	Herlis	HM67-1	6

資料 7_ 専門家リスト

	担当業務	氏名	所属
1	業務主任/遠隔ICUサービス企画1	中川寛章	CDC
2	副業務主任/遠隔ICUサービス2	中西智之	T-ICU
3	遠隔集中治療1 / 研修計画1 (医師1)	鴻池善彦	T-ICU
4	遠隔集中治療2 / 研修計画2 (医師2)	中川悠樹	T-ICU
5	遠隔集中治療3 / 研修計画3 (看護師1)	森口慎吾	T-ICU
6	遠隔集中治療4 / 研修計画4 (看護師2)	清水克彦/市村健二	T-ICU
7	アフリカ地域総括/モニタリング1	松田健志	CDC
8	アフリカ地域副総括/モニタリング2	加藤珠比	CDC
9	アフリカ地域遠隔サービス管理1/広報2	佐々木颯	CDC
10	アジア大洋州地域総括/モニタリング1	加瀬文彦	CDC (補強)
11	アジア大洋州地域副総括/モニタリング2	光岡真希/徳丸周志	CDC
12	アジア大洋州遠隔サービス管理1/広報3	田口大志	CDC
13	中南米地域総括/モニタリング1	菱田裕子	CDC (補強)
14	中南米地域副総括/モニタリング2	近藤慎一	CDC (補強)
15	中南米地域遠隔ICUサービス管理1/広報4	田辺真由美	CDC
16	研修管理	ファテマ カニズ	T-ICU
17	医療機材1	安食和博	CDC (補強)
18	医療機材2	大谷直哉	T-ICU
19	設備建設機材(コンテナ・プレハブICU)1	重里輝夫	CDC (補強)
20	遠隔ICU 通信システム1	中谷睦子/野澤貴朗	CDC
21	遠隔ICU 通信システム2	高田悠史	CDC
22	教材開発/広報1	仲里麻也子	CDC
23	設備建設機材(コンテナ・プレハブICU)2 監修管理	石川晴久	CDC (補強)
24	設備建設機材(コンテナ・プレハブICU)3 電気/機械設備	鴨川靖史	CDC (補強)
25	医療機材3	鈴木一代	CDC (補強)
26	医療機材4	内田一史	CDC (補強)
27	アフリカ地域遠隔ICUサービス管理2	船山静夏	T-ICU
28	中南米地域遠隔ICUサービス管理2	二階堂有希	T-ICU
29	アジア大洋州地域遠隔ICU サービス管理2 / 広報5	藤原扶紀	CDC
30	アジア大洋州地域遠隔ICU サービス管理3 / 広報6	長澤真衣子	CDC
31	遠隔ICU通信システム3	ハサン ケジュール エドリス	CDC